

心を耕す積極的な生徒指導を 推進する特別活動の取組事例

平成30年3月
広島県教育委員会

は　じ　め　に

近年、生産年齢人口の減少、人工知能（A I）の飛躍的な進化、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は急速に変化し、将来の予測が困難な時代になっています。このような時代にあって、学校教育には、子供たちに様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決できる資質・能力を育成することなどが求められています。

そのような中、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、多様な他者と協働する意義を理解し、行動の仕方を身に付けたりすることや、課題を見いだし、話し合つて合意形成を図ったり、意思決定したりすること、自己実現を図ろうとする態度を養うことなどを目的とした特別活動がより一層、重要視されています。

生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校の実施要項には、各教科や特別活動等において、体験活動を充実させることで、社会性をはぐくみ、児童生徒間の絆を強め、望ましい集団を育成することを明記し、指導にあたっては、ねらいを明確にし、他の教育活動との関連を十分に図り、組織的、計画的に実施すると定めています。

この実施要項を踏まえ、各校において、児童生徒自らが課題を発見、解決するといった主体的な活動を推進するとともに社会奉仕活動や異年齢交流等を通じて児童生徒の自己肯定感を育成する取組を実施していただき 3 年目になりました。

今年度も、各校での取組を「心を耕す積極的な生徒指導を推進する特別活動の取組事例」としてまとめました。本取組事例を参考にしていただき、今後の特別活動のより一層の充実に役立つことを願っています。

平成 30 年 6 月

広島県教育委員会

目 次

【学級活動】

①学級や学校の生活づくり

- 廿日市市立平良小学校
『話し合い活動の充実』
- 熊野町立熊野第四小学校
『いじめ撲滅キャンペーン』
- 尾道市立高須小学校
『行事ふり返りシート』
- 福山市立東朋中学校
『毎日の学活で生徒の自主性を育む取組』
- 廿日市市立佐伯中学校
『帰りの会における目標の振り返り』

【学級活動】

②適応と成長及び健康安全

- 廿日市市立阿品台西小学校
『全校で取り組む たて割り班そうじ』
- 府中町立府中緑ヶ丘中学校
『人間関係作りトレーニング』

【児童会・生徒会活動】

③児童会・生徒会の計画や運営

- 呉市立阿賀小学校
『あがしょう あんぜんに あるこう キャンペーン』
- 竹原市立竹原西小学校
『児童会活動の活性化』
- 大竹市立大竹小学校
『ありがとうポスト』
- 東広島市立寺西小学校
『スマイルボックス』
- 廿日市市立廿日市小学校
『みんなの甘利』をもっと豊かある学校にするための大作戦』
- 「廿日市市立宮内小学校
『子どもたちの笑顔を守る～学校を休まない子～』
- 府中町立府中南小学校
『主性を育む児童会活動～府中町一の最強を目指して～』
- 安芸太田町立加計小学校
『いじめストップ集会』
- 北広島町立生田小学校
『企画委員会（児童会本部）による生活改善の取組』
- 三原市立田野浦小学校
『ゼロ・プロジェクト そうじ時間おしゃべりゼロ』
- 三原市立本郷小学校
『いじめ防止隊』
- 尾道市立久保小学校
『児童会活動』
- 尾道市立栗原北小学校
『児童会活動の活性化による集団としての高まりの涵養』
- 尾道市立因島南小学校
『新設校の伝統の構築 ヘシステムの確立とリーダー性の発揮～』

●三次市立十日市小学校

『代表委員会の活性化』

44

●三次市立八次小学校

『学校生活をよりよくするために』

46

●庄原市立庄原小学校

『さわやかあいさつ推進委員』

48

●福山市立神辺中学校

『いじめ STOP 集会』

50

●福山市立済美中学校

『朝のあいさつ運動と清掃ボランティア』

52

●大竹市立大竹中学校

『いのち輝く学校をめざす生徒会活動』

54

●東広島市立中央中学校

『生徒の主体的な活動を通して自己指導能力を育成する特別活動』

55

●廿日市市立大野東中学校

『命の大切さを考える日』

57

【児童会・生徒会活動】

④異年齢集團による交流

●廿日市市立大野東小学校

『全校児童による縦割り班活動』

59

●尾道市立栗原小学校

『児童が主体的にかかわる生徒指導の取組』

60

●尾道市立吉和小学校

『チャレンジ・ランキング大会』

62

●廿日市市立七尾中学校

『ほめほめの木』

64

●安芸高田市立吉田中学校

『縦割り班清掃』

66

●尾道市立栗原中学校

『児童会と生徒会による合同挨拶運動・交流会』

68

●尾道市立向東中学校

『いじめ撲滅プロジェクト』

70

●三次市立十日市中学校

『一生懸命について考えよう』

72

●三次市立八次中学校

『生徒会活動と連携した積極的生徒指導』

74

【児童会・生徒会活動】

⑤ボランティア活動などの社会参加

●府中町立府中小学校

『児童会執行部を中心とした諸活動（クリーンキャンペーン）』

78

●安芸高田市立小田東小学校

『ボランティア活動 保育所でのボランティア』

79

●竹原市立竹原中学校

『V-SAT』（ボランティア活動）

81

●三原市立本郷中学校

『本郷中校区クリーン活動』

83

●尾道市立久保中学校

『生徒会主体の活動』

85

【学校行事】

⑥文化的行事

88

●呉市立昭和北中学校

『合唱コンクール＆壁画』

89

●廿日市市立廿日市中学校

『文化祭における合唱の取組』

91

●廿日市市立野坂中学校

『文化祭における合唱の取組』

93

●安芸高田市立高宮中学校

『たかみや大地の祭り』への参加

95

●尾道市立吉和中学校

『吉中太鼓』

97

●庄原市立庄原中学校

『合唱祭に向けての取組』

99

●広島県立松永高等学校

『遺芳祭（文化祭）』

100

●広島県立河内高等学校

『全校写真コンテスト』

102

●広島県立安西高等学校

『ルーズヴェルト高校訪問団歓迎行事』

104

【学校行事】

⑦健康安全・体育的行事

106

●福山市立加茂中学校

『生徒の自律・協働を促す学校行事』

107

●海田町立海田中学校

『体育祭』

109

●三原市立第三中学校

『運動会』

111

●尾道市立高西中学校

『自主的な活動（体育大会）』

113

●広島県立大竹高等学校

『大竹高校 体育祭』

115

●広島県立沼南高等学校

『体育祭』

117

●広島県立府中東高等学校

『新生オリエンテーション（スタートアップウォーク）』

119

【学校行事】

⑧勤労生産・奉仕的行事

121

●尾道市立瀬戸田小学校

『一流めざせ そうじのプロ！』

122

●府中市立府中学園

『地域における奉仕活動』

124

●廿日市市立阿品台中学校

『阿品台校区小中連携』

126

●広島県立熊野高等学校

『平成29年度 1年生福祉・介護の現場体験』

128

●広島県立福山商業高等学校

『異校種間連携』

130

学級活動

学級や学校の生活づくり

学級活動

学級や学校の生活づくり

指定校番号	29008	学級活動	○	児童会		クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	---	-----	--	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立平良小学校	校長	林 真由美	生徒指導主事	小寺和徳
-----	------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『話し合い活動の充実』

取組のねらい『キーワード 自分の考えを表現できる児童の育成』

- 各学級の学級活動の時間を充実させることを通して、「自分の思いが言える」「自分のことが受けてとめてもらえる」「自分がみんなの役に立っていることを実感できる」学級の基盤を作る。
- 話し合いの進め方を身につけさせ、自分の考えをもって話し合いに参加し表現する児童を育成する。

身に付させたい資質・能力

- 話し合いの進め方
- 話し合いによってよりよい解決方法を考える力
- 自分のよさを見つけたり、相手の気持ちを考え活動したりする力

取組の具体的内容『キーワード 話し合い活動の充実』

○全児童が司会グループを経験

- 司会の進行マニュアルをもとに、司会グループが進行する。
- 事前打ち合わせを実施し、児童全員が司会グループを経験し、話し合いの進め方を身に付ける。

○話し合いの進め方

- 児童一人一人が自分の意見を持って参加し、根拠を示しながら自分の意見を出し合う。
 - 意見を出し合う。(自分の考えを発表する。)
例:「自己紹介クイズがいいです。」「趣味のアンケート新聞を掲示するはどうですか。」
 - 意見を比べ合う。(賛成意見や心配なことを発表する。)
例:「クイズは楽しく仲良くなれると思います。」→「いつするのですか?」→「帰りの会はどうですか」→「時間がかかりそうで心配です。」「掲示は見ない人がいるかもしれません」→「見えやすい場所に掲示したらいいと思います。」
 - 考えをまとめる。(折り合いをつけて決定する。)
例:「自己紹介クイズは1日一人にしたら良いと思います。」→「それなら両方できそうです。」→「趣味アンケートは新聞係に掲示を工夫してもらいましょう。」

取組の課題・創意工夫『キーワード 主体的な話し合い活動にするための準備』

○話し合い活動の事前準備の重要性

- 司会グループと指導者が事前に打ち合わせを行い、どのように進めていくかを確認しておく。

○話し合い内容の明確化

- 本時で話し合う内容は何か、どう話し合うと互いの考えを深めることができるのか、意見交流を充実させるための手立てを用意する。

取組の成果（効果）『キーワード 話し合い活動から実践、振り返りへ』

○司会進行マニュアルに沿って話し合い活動を進めてきたことにより、話し合いを進めたりまとめたりすることにどの学年も慣れてきた。

○話し合い活動の充実を図ることで自分の意見をもって主体的に話し合い活動に参加しようとする児童が増えた。また、話し合うことだけでなく、問題を解決することに対しても、意欲的になった。

○児童アンケートの結果

「自分の考えをもって話し合いに参加している」と肯定的に回答した児童：89%

「自分の意見を進んで発表している」「友達の意見の良いところを考えながら聞いている」「友達の考えを聞き自分の考えをよりよいものにしている」と回答した児童：68%

「話し合い活動を行うことにより自分の考えが深まった」と回答した児童：88%

○教職員アンケートの結果

「話し合い活動を通して児童は考えを深めている」と感じている教職員：83%



役割分担した司会グループの進行の様子

全員が司会グループを担当するので、議長が困ったらグループで相談して話し合いを進める。指導者も司会グループのサポートをする。

今後の展開『キーワード 主体的な活動』

○児童自らが課題であると考えた議題について話し合うことはできつつあるが、指導者が話し合わせたいと考える内容との差がある。自分達の生活をよりよくしていこうとする意欲をもち、話し合うべき議題を設定し、主体的な活動となるよう指導を重ねていきたい。

○各学級での話し合い活動により実施する学級活動や学年活動を委員会活動や児童会活動につなげ、一人一人の児童が主体的にそれぞれの活動に向かうよう取り組んでいきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 認める』

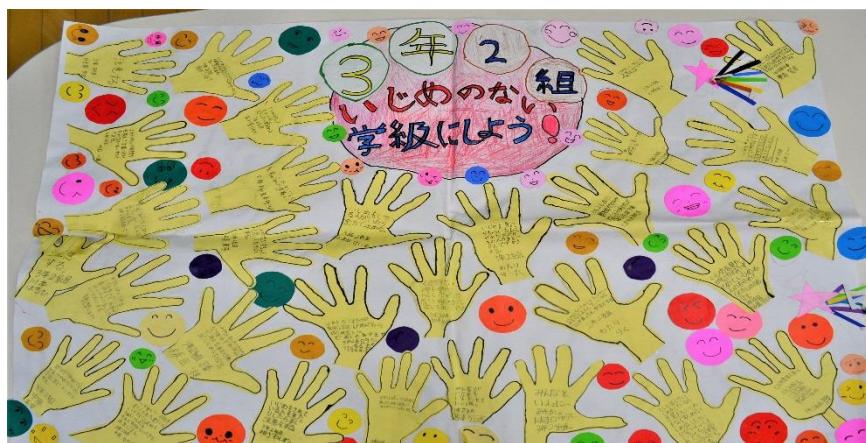
・児童一人一人が自分の考えをもって話し合い活動に臨めば、伝えたいという思いが高まると感じている。発信した児童に対する承認をすることで、さらにその意欲は高まり、自信にもつながる。

指定校番号	29012	学級活動	○	児童会		クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	---	-----	--	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	熊野町立熊野第四小学校	校長	吉田浩一	生徒指導主事	神信正彦
-----	-------------	----	------	--------	------

取組事例名	『いじめ撲滅キャンペーン』
取組のねらい『キーワード いじめを許さない』	いじめ未然防止の取組を行い、いじめのない学校をめざす。
身に付させたい資質・能力	
思考力・判断力	
取組の具体的内容『キーワード 自分事として考える』	<p>本校のいじめ防止等に関わる基本方針を基に、担任が各学級でいじめの定義について伝えることで、児童と共に定義について再確認する。</p> <p>次に、下崎教育長からのいじめに関する緊急メッセージを読み、メッセージに込められた思いを受け止める。</p> <p>その後、一人一人がいじめをなくすためにできることを考え、自分の手形の中に宣言を書く。各学級で宣言を集め、パブリックスペース（廊下等）に掲示し、互いの宣言を知る。</p>
取組の課題・創意工夫『キーワード 児童発信』	<p>児童委員会が朝会で、全校児童にいじめ撲滅を呼び掛けることで取組をスタートする。</p> <p>一人一人の考えを集約するのではなく、一人一人の考えを大切にすると共に宣言に責任をもつ。</p>
取組の成果（効果）『キーワード 他尊 未来』	<p>学校評価アンケート（児童1月回答 肯定的評価割合）</p> <p>周りの人を助ける 83.8% 協力や話し合いが好き 84.1%</p> <p>学級・学校をよくするために自分ができることがある 79.5%</p>
今後の展開『キーワード 振り返る』	2学期末に取り組んで終わりではなく、2月末に学級毎に自分の宣言の振り返りを行い、以後の言動等について考えさせる。
他校へのアドバイス『キーワード 一人一人の考えを大切にする』	学級活動の話し合い活動では、○年○組の「いじめ撲滅宣言」という形で、一人一人の考えを出し合い集約することが多いと思うが、一人一人の考えを大切にするために集約はしない。



指定校番号	29022	学級活動	○	児童会		クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	---	-----	--	-------	--	------	--	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校 長	梶原 弘志	生徒指導主事	徳重 雄大
------------	-----------	------------	-------	---------------	-------

取組事例名	『行事ふり返りシート』
取組のねらい	キーワード『自ら伸びる・共に伸びる』
○児童に明確な目標をもたせて行事に参加させていくことで、自分や集団を高めていくという意欲を持たせていく。 【自己決定の場を与える・共感的人間関係を育成する】	
○「行事ふり返りシート」の記入を通して、個人や集団における成長や達成度を明確にし、児童の自己肯定感を高め、資質・能力の向上を図る。 【自己存在感を与える】	 <div data-bbox="492 660 901 853" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"><p>運動会（第6学年 組体操）</p><p>「静と動を意識した空気を つくる」</p></div>

身に付させたい資質・能力

- 自己指導力（意欲を育てる、実行力を育てる、ふり返り力を育てる）
 - 集団向上力（リーダーを育てる、つながりを育てる、空気を育てる）
 - 社会貢献力（より良い社会をつくる意欲を持たせる、人のお役に立つ喜びを持たせる）

取組の具体的な内容 キーワード『ふり返り、成長（伸び）を感じさせる』

- 行事実施前に、各行事に応じた学年や学級、個人に目標をもたせていく。また、集団の目標については教師と児童との間で共通認識を図る。

【自己決定の場を与える・共感的人間関係を育成する】

○行事終了時に、「行事振り返りシート」を書かせ、自己の成長や集団としての高まりを感じさせていく。
(書く活動を通して、しっかりと振り返り、じっくりと考えさせる。)

【自己存在感を与える】

行 事 名 :		(4) おとぎ話のあらすじ、もととくなると何に似てありますか? おとぎ話のキャラクターの名前をどういいますか? みんなで読むおとぎ話をどうにか力を貸して取り組めば、【 4 】 3 2 1 3 【 4 】 3 2 1 3					
○おとぎ話のあらすじ、もととくなると何に似てありますか? おとぎ話のキャラクターの名前をどういいますか? みんなで読むおとぎ話をどうにか力を貸して取り組めば、【 4 】 3 2 1 3 【 4 】 3 2 1 3							
○おとぎ話のあらすじ、もととくなると何に似てありますか? おとぎ話のキャラクターの名前をどういいますか? みんなで読むおとぎ話をどうにか力を貸して取り組めば、【 4 】 3 2 1 3 【 4 】 3 2 1 3	○おとぎ話のあらすじ、もととくなると何に似てありますか? おとぎ話のキャラクターの名前をどういいますか? みんなで読むおとぎ話をどうにか力を貸して取り組めば、【 4 】 3 2 1 3 【 4 】 3 2 1 3		○おとぎ話のあらすじ、もととくなると何に似てありますか? おとぎ話のキャラクターの名前をどういいますか? みんなで読むおとぎ話をどうにか力を貸して取り組めば、【 4 】 3 2 1 3 【 4 】 3 2 1 3		○おとぎ話のあらすじ、もととくなると何に似てありますか? おとぎ話のキャラクターの名前をどういいますか? みんなで読むおとぎ話をどうにか力を貸して取り組めば、【 4 】 3 2 1 3 【 4 】 3 2 1 3		
	○おとぎ話のあらすじ、もととくなると何に似てありますか? おとぎ話のキャラクターの名前をどういいますか? みんなで読むおとぎ話をどうにか力を貸して取り組めば、【 4 】 3 2 1 3 【 4 】 3 2 1 3		○おとぎ話のあらすじ、もととくなると何に似てありますか? おとぎ話のキャラクターの名前をどういいますか? みんなで読むおとぎ話をどうにか力を貸して取り組めば、【 4 】 3 2 1 3 【 4 】 3 2 1 3		○おとぎ話のあらすじ、もととくなると何に似てありますか? おとぎ話のキャラクターの名前をどういいますか? みんなで読むおとぎ話をどうにか力を貸して取り組めば、【 4 】 3 2 1 3 【 4 】 3 2 1 3		
●自分(クラスや年齢の) おとぎ話を教えてもらいたい							

取組の課題・創意工夫 キーワード『中間評価を書かせる』

課題

- 行事終了時に総括的にふり返ることしかできていない。
 - 活動の過程において、児童自身がふり返り、取組の方向性等について修正を図ることができない。

創意工夫

- 書く活動を通して、しっかりとふり返り、じっくりと考えさせることができている。
 - 「書く活動」ということで、国語科の学習と関連させている。

取組の成果（効果） キーワード『高まり』

○児童はふり返ることを通して、自己や集団としての高まりを感じるとともに、集団への所属感をもち、自己肯定感を高めることができた。

各月の児童の自己肯定感・集団向上力についての肯定的児童の割合

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
全校平均 (%)	85	91	90	90	91	93	95	94

運動会

音楽発表会

研究会

マラソン大会

☆肯定的に評価している児童が増加傾向にある。

☆学校行事が関係している月のポイントが高い傾向にある。

○指導者として、事前・事後の指導の充実につなげることができた。

○ふり返りシートから児童の実態を見取り、その後の指導に生かすことで、指導の効果を高めることができた。（教職員が指導の繋がりを意識する。）

今後の展開 キーワード『形成的評価』

○シートの形式を「目標」「中間評価」「総括的ふり返り」の三段構えにすることで、シート1枚で形成的・総括的評価の両面ができるようにする。

他校へのアドバイス キーワード『ふり返りの充実』

○「ふり返り」や「中間評価」を充実させることで、指導の修正を図り、活動の質を高めることができる。

指定校番号	29030	学級活動	<input type="radio"/>	生徒会活動		学校行事		中学校用
-------	-------	------	-----------------------	-------	--	------	--	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立東朋中学校	校長	冴甲 登	生徒指導主事	酒井 盛浩
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『毎日の学活で生徒の自主性を育む取組』

取組のねらい『キーワード 自治力』

（生徒が自ら課題に気付き自ら解決するための学活の在り方を学ぶ）

東朋中学校は、平成 24 年度の暴力件数が 20 件という状況にあり、生徒間暴力や対教師暴力が頻発した。そのような中で、生徒指導体制を見直し、悪いことは悪いと毅然とした態度で問題行動に対処するようにした。その結果、平成 25 年度の暴力行為は 5 件と減少したが、いじめや不登校の生徒の数は減少しなかった。生徒アンケート（平成 28 年度 12 月実施）では、服装を守る取組や時間を守る取組等、基本的な集団生活を送るために必要な項目についての意識が高い一方、項目「集中して授業を受けている」に肯定的に回答した生徒 47.6%，同様に「自分には良いところがある」 74.8%，「ボランティアに参加している」 49.9% となっており、生徒がより良い学校生活を送るために自主的に行動するという状況ではないことがわかった。

このようなことから、より良い学校生活を送るために、生徒自らが課題に気付き、自ら解決するための方策を考え行動する生徒の育成を図ることをねらいとして、学活の充実を図る取組を行うこととした。

身に付させたい資質・能力

よりよい活動を目指して、建設的に話し合い、仲間と協力しながら、解決までの見通しや方法を自ら考え、進んで行動する力

取組の具体的な内容『キーワード 定着』

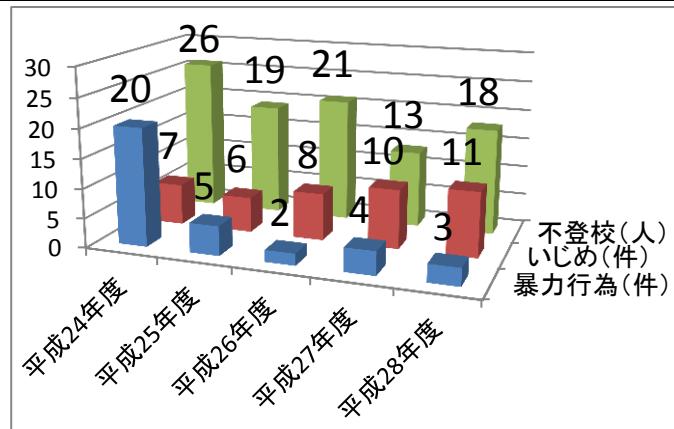
（生徒が論議し解決する場の設定をする）

毎日の朝と帰りの学活を生徒自らが課題を見つけ、解決するための方策を考える場として位置付ける取組を行った。具体的には、全クラスが帰りの学活で一日の振り返りをし、課題があればそれを解決するための方策を考え、次の日の活動目標とし、朝の学活で活動目標を確認し、一日が始まるといった流れに統一した。学活の中では、課題を班や学級の全員のものとして意識する場と班や学級で課題を解決するために論議する場を必ず設定するようにした。

全学級が学活の流れを統一することで、新一年生として入学した当初から、東朋中学校の一日の生活のポイントとして学活を意識できるようにした。

また、上級生や下級生の学活を参観する機会をつくることで、生徒自身が自分たちの学活の在り方について考えることができる様にした。

さらに、学活をより良い学校生活を考えることと同時に、生徒会の各種委員会の活動も新しい企画を立ち上げるなど活性化させ、各学級での論議を経て生徒会の取組が行われるようにした。



取組の課題・創意工夫 『キーワード 交流 』

〈生徒・教職員対象の学活交流会の実施〉

毎日の学活が生徒自身が学校生活を送るうえでの重要なポイントとして意識され定着するように、また、学活の質が向上するように、生徒と教職員が参加する全校での学活交流会を年3回実施した。

・第1回 新入生のための学活研修（3年生公開）

3年生の学活を公開し、1年生全員が参観した。1年生は、3年生の学活から学んだことを発表し、教職員も気づきを発表した。公開後は、各学級で学活を活性化させるための方策について話し合い、目標を立てた。

・第2回 2年生の学活の充実のための学活研修（2年生公開）

・第3回 各学年の学活の充実のための学活研修（1年生公開）



〈論議をする場の設定「1日1議題」の取組〉

学活交流会の後、論議の場を意図的に設定するために、「1日1議題」の取組を行った。

日常の学校生活を充実させるために、どのような取組や心がけが必要かについて、意図的に議題を設定し、毎日学級でその議題をもとに話し合った。

取組の成果（効果）『キーワード 生徒主体 』

生徒自らが課題を見つけ解決するための方策を考える取組を進め、次のような成果が見えるようになった。

生徒アンケートの項目「自分には良いところがあると思う」で肯定的に回答した生徒の割合は、取組の前後で74.8%から81.4%に増加した。同様に「落ち着いて集中して授業を受けている」は47.6%から58.4%に、「ボランティア活動に参加している」は49.9%から64.3%に増加した。

これらのことから、教師主導の取組から生徒を主体とした学級や学校全体での取組に転換したことにより、受け身であった生徒の実態が変化してきていると考えられる。



今後の展開『キーワード 質の向上 』

学活と生徒会活動の連動を意識した論議については十分にできていない。今後は、生徒会活動の中で生徒が主体となって行事を企画し、運営していく取組を進めることで、学活や学級代表者会議等での論議を熱を帯びた質の高いものにしていく。そのためには、論議を活性化させるための司会のスキルを身に付ける研修会を実施することも必要であると考えている。

他校へのアドバイス『キーワード 維持継続 』

この取組は、生徒自らが課題を見つけ、解決するための方策を考える場を学校生活の中に位置付けることを目的に行った。学校全体の取組として行う場合、クラスによって取組の質が変わると効果が得られないで、常に各学級の学活がどのように動いているのかを把握し、取組を改善していく必要がある。

指定校番号	29041	学級活動	○	生徒会活動		学校行事		中学校用
-------	-------	------	---	-------	--	------	--	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立佐伯中学校	校長	石角 剛	生徒指導主事	吉岡知美
-----	------------	----	------	--------	------

取組事例名 『帰りの会における目標の振り返り』

取組のねらい『あたたかみのある学級集団づくり』

1. 帰りの会の目的

- (1) 生徒に 1 日の生活を振り返させることで、よりよい生活態度と学習態度への改善を促す。
- (2) 生徒に、学級内の課題や問題点に目を向けさせ、それらを解決していくこうとする姿勢を養うとともに、それらを解決していく力を伸ばす。
- (3) 学級の生徒同士がお互いの考え、気づき、思いを出し合うなど関わり合い、認め合える場を設定し、生徒指導の三機能を高める活動の場とする。

2. 帰りの会参観の目的

- (1) 他学年や他学級の帰りの会の振り返り活動、話し合い活動、評価活動等を参観することで、担当学年や担当学級の課題を見直し、今後の帰りの会の充実を図る。
- (2) 授業観察用シートを全職員が記入し、それらを元に生徒の実態を把握すると同時に課題点を明らかにしていく。それらを生徒指導面における取組内容づくりに繋げていく。

身に付させたい資質・能力

- ・協働性・課題発見力・表現力（平成 29 年度 本校研究主題における育成すべき資質・能力設定内容より）

取組の具体的な内容『認め合いの場の設定』

- ・年度初めに、帰りの会においては、全学級で日々の目標に対する振り返りを実施することを確認する。
- ・生徒の主体的な活動になるように生徒による司会で進行する。
- ・学級内のその日の出来事で活躍した生徒や他者の役に立つことを行った生徒や全体に貢献した生徒を探し、理由を添えて全体に紹介する場を設ける。
- ・授業評価やそうじの評価の発表を行い、課題点を認識する場を設け、改善に向けての動きや声かけについて考えさせ、発表させる。

取組の課題・創意工夫 『具体的に評価し合う』

- ・生徒から出された発表内容に対して、教員が良いと評価された生徒の行動や行い、態度等について適切な価値付けをし、学級全体で共有していかなければならない。どのような点が価値ある点なのかを明確にしていきながら、個々の生徒の承認から他者の行動の変容へつながる活動にしていくことが大切である。
- ・短時間の中に組み込まれる活動メニューが、それぞれ生徒指導の三機能のどの部分を高めていく活動になるのかを意識した内容についていく。各班が目標を振り返って、成果と課題を出し合って確認していく活動は協働的な学びとなり共感的人間関係を高めていく。さらに、課題に対する改善策を打ち出していく活動は、自己決定の力の育成につながる。生徒間の良いところ探しは、自己存在感を与える活動となる。20 分間といった短時間の間に三機能すべてに係る活動を毎日繰り返すことで、学級の集団としての成長を促す活動となる。
- ・本校では、「帰りの会を参観するデー」と称し、2 学期後半から 3 学期前半にかけて、第 1・2 学年と特別支援学級で帰りの会を公開し教員同士が帰りの会の改善について学び合う場とした。参観教員は参観用評価シートを用いて、生徒指導の三機能を生かした活動内容に対する評価をし、良いところや課題点を記入し、それらを後日まとめたものを全職員に配布し、各学級の帰りの会の活動内容改善を促していく。

【参観シートの評価項目】

①聞き手側の生徒は、話し手の方を向いて、聴くことができている。

【共感的人間関係】

②発表者（発言者）は、聞き手側の生徒が聴く準備ができてから発言している。

【自己存在感】

③発表者（発言者）は、教室全体に十分聞こえる大きさで話している。

【自己決定力】

④目標の振り返りに関する話し合い活動において、一人一人が自分の考えを出し合いながら、それに対する見直しが適切になされている。

【自己決定・共感的人間関係】

⑤生徒の発表（発言）内容に対して、教員の評価や価値付けが適切にされている。

【自己決定・共感的人間関係】

評価基準 A十分できている Bできている Cあまりできていない

取組の成果（効果）『お互いの良さの発見』

- ・歴史、ヒーローについては、継続指導成果として、決められた項目について文章で速く書ける生徒が多く見られた。
- ・発表される内容に対して、先生が価値付けしたり、誉めたりするコメントをされていた。
- ・歴史カードがお互いの振り返りにもなり、自己肯定感も高まる活動になっている。
- ・デイリーノートとカードを全員が集中して書いていた。継続することで作文力がつくと思われる。
- ・生徒が生き生き、前向きに納得して振り返ができているのが素晴らしい。
- ・司会の生徒への指導が入ることで、教師主導にならず、生徒同士の指示応対の関わりがスムーズになっている。
- ・毎日の「今日のヒーロー」は発表されると全員が拍手をし、あたたかい人間関係の構築になっている。
- ・クラスの歴史が定着しており、振り返る時間や視点が継続できているのは生徒同士や担任からの声かけにつながっていくのでとても良い。
- ・今日のヒーローで名前を言ってもらった生徒は嬉しく感じ、自己存在感を高める活動になっている。
- ・司会がテキパキとできている。
- ・班の反省の時に問題点の対策や次の目標が述べられている。
- ・頭を寄せ合っている班が多い。（右の写真）

【参観シートの評価結果についてのまとめ】

項目① A-13% B-80% C-7%

項目② A-20% B-73% C-7%

項目③ A-40% B-40% C-20%

項目④ A-46.5% B-46.5% C-7%

項目⑤ A-53% B-20% C-27%



今後の展開『自己表現力の伸長』

・生徒同士の参観による交流を行う。（各学級の班長が訪問する等）

・評価項目③と⑤の数値が低くなっているため、生徒に「聴く力」と「話す力」をつけるための取組の見直しが必要である。全教職員で足並みを揃えて、「聴くこと」における生徒の具体的な動きや評価すべき内容を明示し、それらを振り返り、評価する学級活動の確保をしていく。

「話すこと」への意識付けは全教科で取り組んでいくことを職員間で確認し、生徒の発言は学級全体に聞こえるように話させることを徹底させる。何度も繰り返し、聞こえるまでやり直しさせるなどの粘り強い指導を継続させる。

・教員が生徒の発言に対し、それがどのような重要性や意義を持っているのかを伝え、価値の共有を図っていくことに取り組む。

他校へのアドバイス『生徒実態にあった活動を仕組む』

・帰りの会は時間が短く限られているので、学級の実態によってどのような活動を重点的に実施するのかを見極めながらメニューを組んでいく。（例：話す活動を発展させたい場合はスピーチタイムを設ける等）

學級活動

適応と成長及び健康安全

學級活動

適応と成長及び健康安全

指定校番号	29009	学級活動	○	児童会	クラブ活動	学校行事		小学校用
-------	-------	------	---	-----	-------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立阿品台西小学校	校長	松江 都志美	生徒指導主事	大久保 真人
-----	--------------	----	--------	--------	--------

取組事例名	『全校で取り組む たて割り班そうじ』
取組のねらい『キーワード 6年生みんながリーダー』	
(1) 清掃活動を通して、人を大事にすること、物を大事にすることを実践的に学ぶ。 (2) 担任以外の教職員も直接児童と関わる場とし、児童と教職員が一緒に学校をきれいにする。 (3) 異年齢集団で「思いやり」「導き合い」など、日常的に関わりの場をもつことで、縦割り班を使った集団作りとリーダーの育成を実践する。 (4) 掃除道具の扱い方、手順の基本を学び、工夫して作業できるようにする。	
身に付けさせたい資質・能力	
(1) 学級集団の人間関係を離れて、新しい人間関係を作ることができる。学級集団以外の居場所ができる、活躍の場がもてる。 (2) 担任以外の教師と知り合い、評価されることで、自信をもつことができる。 (3) 異年齢集団で、日常的に関わる場がもてる。日常的に顔を合わせ仕事をする中で、異年齢での友だち（知り合い）ができ、交流が生まれる。 (4) 6年生がリーダーとして活動できる。（6年生は、全員が班長） 5年生が、副リーダーとしての自覚をもつ。（5年生は、全員が副班長） (5) 掃除の方法を学び合える。	
取組の具体的内容『キーワード 子どものよさを多角的に』	
学校全体を一定期間、同じ場所、同じメンバーで掃除する。 (1) 全校児童を、縦割りによる60班に編成し掃除を行う。 ①1班の平均人数が9人（それぞれの学年で原則1～2名ずつ） ②各クラスとも20班に分ける。（3年生のみ30班） (2) 教職員1人が約3区域の児童（約27人）を指導する。	
取組の課題・創意工夫『キーワード 異学年の課題も』	
担任がクラス内の児童を20班（3年生は30班）に分けるときに、指導上課題のある児童が重ならないように配慮しながらエクセルファイルに入力を行った。 入力は各組とも「6年生」→「5年生」→「4年生」→「3年生」→「2年生」→「1年生」 の順に行う。指導上課題のある児童の配分のバランスを考えながら行う。 各組ごとに全学年の入力が終わったら、組会（1組、2組、3組）を設け、担任で20班の構成の最適化に努めた。	

取組の成果（効果）『キーワード　自己有用感』

すべての6年生がリーダーとしての役割を果たし、下学年のお手本となっているかと言えば、端から見ているとそうでないところも見受けられるが、6年生は頼られることで自己有用感を感じて活動している。

この縦割り班を使って体育委員会の子どもたちが楽しくグループで遊ぶ活動を計画して、縦割り集団で楽しい活動もできた。

今　後　の　展　開『キーワード　リーダーに感謝』

卒業前の6年生のリーダーにお礼の手紙を縦割り班で書いたり、6年生に感謝の気持ちを表す活動も計画したい。

他校へのアドバイス『キーワード　いいところを』

多くの小・中学校ですでに行われている縦割り班活動（そうじ）、6年生にリーダーとしての自覚や自己有用感を持ってほしいということで取り組んだ。

別紙様式2

指定校番号	29042	学級活動	○	生徒会活動		学校行事		中学校用
-------	-------	------	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中緑ヶ丘中学校	校長	谷川 清二	生徒指導主事	河本 春彦					
取組事例名	『人間関係作りトレーニング』									
取組のねらい『社会的能力の育成』										
・「自己への気づき」「他者への気づき」「自己のコントロール」「対人関係」「責任ある意思決定」の5つを基盤とした応用的な社会的能力として「生活上の問題防止スキル」「人生の重要事態に対する能力」「積極的、貢献的な奉仕活動」の8つの社会的能力を育成することを目的としている。										
身に付させたい資質・能力										
・社会的能力と規範意識の向上及び対人関係能力										
取組の具体的内容『対人関係能力の育成』										
・学活の時間に年7回実施（全教職員）　・福岡教育大学小泉教授を講師に招いて校内研修会実施 ・人間関係作りトレーニングに関するアンケート年2回実施し内容の見直しを行った。										
取組の課題・創意工夫『授業での取組方法と関わらせ方』										
・生徒の学級適応を向上させるため、授業実施に際して内容の吟味、工夫や取組の定着をさせるため系統的な指導の実践とプログラムの継続や教師側の指導力や質の向上が求められる。（授業改善）										
取組の成果（効果）『思いを伝える表現方法』										
・3年間本校で実施継続してきた結果、社会的能力や学級の満足度、集団の凝集性の高まりが見られるようになった。また、学校行事や学校生活の日常での基本的な関わり合いや授業におけるグループ活動等が自然に行動できるようになった。										
今後の展開『生徒が主体となった関係作り』										
・全教員での継続的な取組の定着と体制づくりや共通理解。また、プログラムの取組が教師と生徒が一緒になって実践できる授業を作っていく。 ・教師自身がスキル、態度、価値観を身につけプログラムを日常の教育活動につなげる。										
他校へのアドバイス『予防・開発的取組』										
・学校行事や日常生活での言動において社会的能力を育成するために、プログラムを継続して取り組むことにより、対人関係（コミュニケーション）能力を育てることにつなげるとともに、日常に起こりうる様々な対人関係での問題への予防、開発的な力へつなげることができる。										

児童会・生徒会活動

児童会・生徒会の計画や運営

児童会・生徒会活動

児童会・生徒会の計画や運営

指定校番号	29001	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	吳市立阿賀小学校	校長	山下 伸一	生徒指導主事	堀江 大志
-----	----------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『AAA（あがしょう あんせんに あるこう）キャンペーン』
取組のねらい『キーワード 凡事徹底』	
「ろうかを走る」といった小さな問題行動に対して、適切かつ徹底して指導することにより、いじめ等の大きな問題行動に向かわせないよう、規範意識のさらなる向上を目指す。	
「ろうかを歩く」という行動をとることで、給食を教室前に運んだり、片づけたりする調理員さんへの感謝の気持ち、思いやりの心を示す。	
身に付させたい資質・能力	
「思いやり・感謝」「自主・自立」	
取組の具体的内容『キーワード 児童の発想を活かす』	
取組の流れ	
○ 期 間	春、夏、秋、冬の季節ごとに1回実施。一回のキャンペーンは、5日間。
○ 実施時間	昼休憩
○ 調査場所	各ワークスペース、ユーカリ広場前廊下、玄関、下足前広場
○ 調査方法	笑顔委員会の児童が、廊下等を走っている児童に声をかけ、「学級名、氏名」を調査用紙に記入する。それを毎日集計し、優秀な学級（走っている児童の少ない学級）を昼の放送で伝える。
○ 事 後	期間中に、目標（3人×5日以下）を達成した学級を表彰する。
○ 目 標	全校で1日に歩かない児童54人以下を目標に設定。（昨年度最小の57人を基準に設定）各学級の目標は1日3人以下とする。
※ 名称（AAA）については、取組をより浸透させるため、覚えやすく、耳や目につくものになるよう、笑顔委員会の児童が考えた。	
※ 調査場所、調査時刻についても、笑顔委員会の児童が本校の現状を基に、設定した。	
	
取組の課題・創意工夫『キーワード 楽しむ』	
取組を重ねるごとに成果が上がり、ろうかを歩こうという意識が少しづつ浸透・定着していった。反面、取組に対してのマンネリ感が出てきた。そこで、笑顔委員会の児童と話し合い、今年度の「冬のAAAキャンペーン」は「阿賀小冬の陣」として次のようにチーム対抗形式で行うことになった。	
「阿賀小冬の陣（冬のAAAキャンペーン）」	
○ 期 間	12月11日(月)、13日(水)、14日(木)、18日(月)、19日(火)の昼休憩
○ 調査場所	各ワークスペース、ユーカリ広場前廊下、玄関、下足前広場
○ 調査方法	笑顔委員会児童が、廊下等を走っている児童に声をかけ、「学級名、氏名」を調査用紙に記入する。

○ チーム戦

「6年と1年」「5年と2年」「4年と3年」の3チームで競い合う。走った児童の人数が5日間を通して最も少なかったチームを勝ちとする。チームの中で1日に走る児童が0人だった学級があれば、ボーナスポイントとしてそのチームの走った児童の総計から5名減らす。2学級あれば10名減らす。勝利した学年には、大型賞状を授与する。

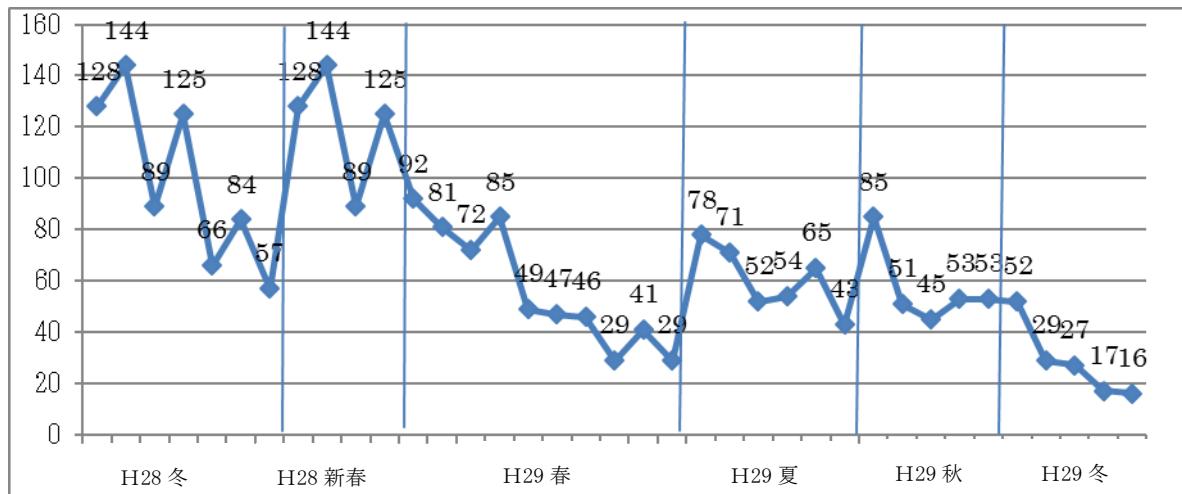
○ 大将

上学期児童の中から、チームで1名「大将」を決める。「大将」は、放送等を通し、チームを鼓舞したり、代表として表彰やインタビューを受けたりする。



取組の成果（効果）『キーワード 激減』

「ろうかを走っていた児童の数」



ろうかを走る児童は、最大144名から16名まで大きく減少した。特に、学年ごとのチーム対抗を取り入れた「H29冬」では、走る児童0人の学級が10学級以上になるなど、極めて大きな効果があった。キャンペーンの期間中だけでなく、その後においても、その姿が継続した。

今後の展開『キーワード 持続可能な取組』

子どもたちのアイデアを活かし、取組の形式を工夫することでマンネリ化を防ぐことができた。ねらいであった児童の規範意識についても、教職員のアンケート（「児童は阿賀小のきまりを守ることができる」）で肯定的な回答をした教職員が100%となるなど、その向上を実感していることが分かった。非常に効果のある取組であったが、今後はその実施が目的になることのないよう児童の実態、他の取組との優先順位等を考慮し、見極めていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 一点突破』

「ろうかを走らない」という内容に特化し、学校全体で取り組むことで規範意識の向上につなげることができた。ポイントを絞った取組は結果の充実を生み、その成果は他の分野にも広がっていくことを実感することができた。

指定校番号	29002	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原西小学校	校長	藤野 恵子	生徒指導主事	大谷 忠久
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『児童会活動の活性化』

取組のねらい『自律的に行動できる児童の育成』

- 児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
- 子どもたちの力でより良い学校にしていくための活動をしていく風土を作る。
- 児童会活動を通して、高学年は活動を行うことでの達成感、自己肯定感を高めていき、低学年はその活動をいっしょに行うことで、模範的態度、自分の理想像を具体的にもたせる。

身に付けさせたい資質・能力

- 人間関係形成・社会形成能力
- 自己理解・自己管理能力
- キャリアプランニング能力

取組の具体的な内容『児童による新しい取組の実践』

○運動委員会

- ・昼休みに一輪車や竹ぼっくりでタイムを競う「竹西ンピック」を開催した。
- ・職員室前に握力計を置き、休憩時間に児童が握力を測り、その記録を競う「握力チャレンジコーナー」を設置した。

○生き物委員会



- ・校内で飼育している金魚とウサギのえさやり体験を行った。
- ・生き物に関するクイズを作成し、昼休みにクイズ大会を開催した。また、参加した児童には、生き物に関する豆知識を書いた用紙を作成し、配布した。

○図書委員会

- ・それぞれのクラスで読んだ本の冊数を図書室前に掲示し、たくさん読んでいる人を表彰する「どんどん読書」を行った。
- ・図書室にある本の分野をbingoカードにして、読んだ分野の本に○をして、bingoにできればプレゼントを渡す「竹西読書bingo」を作成した。

○ベルマーク委員会

- ・ベルマークの仕分け作業の体験を呼びかけ、低学年がベルマークやインクカートリッジの仕分け作業を行った。



取組の課題・創意工夫『ねらいを明確に・参考例の紹介』

○ねらいを明確にして取組を考えさせる。

- ・ただ楽しむために行うのではなく、何をねらいとしてその取組を行うのかをはっきりさせて、活動を考えさせた。

例：生き物委員会 … みんなに生き物を大切にしてほしい、生き物についてもっと興味を持ってほしい → えさやり体験、生き物に関するクイズ大会（参加者には全員に豆知識カードを配る）

○参考例を全教職員で紹介する。

- ・児童が取組を考えるうえで、担当教員が参考例をもって委員会に携わっていきたい。そのために、参考例を担当教員だけで考えるのではなく、全教職員で実践例を出し合い、それを参考にして取組を実践していった。

取組の成果（効果）『取組児童・参加児童の達成感』

○取組を実際に計画し、実践した児童は、「自分たちで新しい取組を行うことができた」「お客様がたくさん来てくれてうれしかった」「みんなが楽しんでくれていたのがよかったです」と達成感を味わえることができた。

○参加した児童は、競技や取組を実際にすることで、活動を楽しむことができた。また、取組によってはその結果を全校朝会で表彰し、自己肯定感を高めることもできた。

○大会を目標に竹馬で遊ぶ児童が増えたり、本をたくさん読んだりする児童が増えた。

○運動会や学習発表会などの行事、毎日のそうじ活動、各教科の活動においても、児童が積極的に行動し、「自分たちの手で成功させよう」「見に来てくれた方々に楽しんでもらおう」「学校をきれいにしよう」と努力する姿が見られた。（「①黙って②時間いっぱい③すみずみまで」掃除することで、3項目中2項目ができる児童 93%）



今後の展開『ねらいを忘れず よりよい取組に』

○今年度行った取組を児童とともに振り返り、うまくいった取組はよりよい取組にするにはどうすればよいか、うまくいかなかった取組はどう改善していくかを来年度に引き継げるようにしていく。

○新しい取組をすることを目的とせず、自分達の委員会のねらいを明確にして、そのためにできる取組は何かを考えるようにしていく。

他校へのアドバイス『児童主体でも道筋は教員が』

○児童主体の活動や取組についてが、教員がその取組が委員会のねらいに逸れていないかをチェックするとともに、活動の道筋をつけていくことが必要である。そのためにも、教員自身が担当の委員会で「自分の委員会のねらいは何で、そのために何をするか」を考えておくことが大切である。

指定校番号	29003	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹小学校	校長	小西 啓二	生徒指導主事	箱田 知子
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『ありがとうポスト』

取組のねらい『キーワード いじめを「しない・させない・許さない』

運営委員会が中心となりいじめについて考えることで、いじめを「しない・させない・許さない」気持ちを高め、未然防止を図る。

身に付させたい資質・能力

- 感謝の心や友だちを思いやる心を育てる。（中期経営目標）

取組の具体的な内容『感謝し人を想う児童』

- ① 校内に「ありがとうポスト」を設置し、運営委員会が用意した用紙に、嬉しかったこと、ありがとうと言いたいことを書き、ポストに入れる。
- ② ポストに入れてもらった手紙の中から、運営委員会が数枚選び、期間中（約2週間）お昼の放送で紹介する。（「6年2組○○さんへ…」という手紙の場合、苗字のみ読む。）
- ③ ポストに入っていた手紙は、キャンペーン終了後、宛名のあるものは届ける。
- ④ 「ありがとうポスト」に入れた児童には、お礼のメダルを渡した。



運営委員会の児童



お礼のメダルをもらった児童

取組の課題・創意工夫『キーワード さわやかな挨拶・気持ちのよい言葉をめざして』

- 手紙が、自分の知っている人に限られていたので、知らない人にも目が向けられてより広い見方で手紙を書けたらよかったです。
- 「さわやかな挨拶・気持ちのよい言葉を交わす児童の育成」（短期経営目標）であるが、この手紙をきっかけにもっと挨拶や気持ちよい言葉が、校内で交わせるように指導していく必要がある。
- 児童会活動をさらに児童主体で取り組めるような手立てをする必要がある。



朝のあいさつ運動

取組の成果（効果）『キーワード みんなが笑顔』

- 低学年が上級生の児童に宛てた手紙がかなりあり、何気ない行動を評価してもらったことで自己肯定感をもつ機会となった。同級生同士の手紙では、友達関係がよりよくなつたと思われる。放送で紹介されたことで、より効果があがつた。
- 思った以上に「ありがとう」の手紙が集まつたことに、運営委員会の児童も喜んだし、手紙を渡された児童も喜んでいた。また、お礼のメダルを渡された児童もとても喜んでいた。
- 「児童が創る児童会活動」を目指して、各月の生活目標をもとに取組を考えている。その中で運営委員会が、昨年度とは違う取組を行うことでより達成感をもつことができた。自治的な活動に対する意欲ももつことができた。

今後の展開『キーワード もっと感謝しもっと人を想う児童』

3月の生活目標「人のために行動しよう」の取組として、「笑顔ポスト」を設置し、自分の行動や友達の行動について振り返り、評価しあう。

他校へのアドバイス『キーワード子どもたちの自己決定』

- 教師が取組を考え進めるよりも、子どもたちに主体的に活動を考えさせ実践させることで、より主体的な取組とすることができます。また、子どもたちならではの発案も大いに期待できる。

指定校番号	29004	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立寺西小学校	校長	福場 克史	生徒指導主事	植野 勝也
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『スマイルボックス』

取組のねらい『学校によい雰囲気を』

児童会執行部が中心となり、いじめゼロに向けた取組を主体的に行うことを通して、いじめを許さない意識を高める。また、うれしかった言葉や行為を朝会や放送で紹介したり、児童に届けたりすることを通して自己指導能力を高める。

身に付させたい資質・能力

- ・学校の雰囲気をよくする言葉や行為を知り、実践する力
- ・自己指導能力

取組の具体的内容『紹介し、広める』

日常生活の中で、友達にしてもらってうれしかった言葉や行為を紙に書き、「スマイルボックス」に入れる。それを児童会執行部が回収し、一部を放送で紹介する。また、紹介された手紙は校内に掲示し、その言葉や行動を広める。



取組の課題・創意工夫『全職員でイメージの共有』

取組を始める前に、児童会執行部が「児童会だより」を作成、配付し、全校放送で周知する。職員内では、紙に書く内容のイメージを共有する。また、いたずらを書いて入れないように、取組の目的を確認し、学級指導を行ってから開始する。

また、2回目の取組期間には、書く内容、見つける行為のレベルアップを図るために、職員へ提案する際、書く内容の具体例を挙げて周知し、学級指導を再度実施して開始する。

例 1・2年生→～くんが～のとき、ぼくに「～」と言ってくれてうれしかったです。ありがとうございます。

※文に行動や言葉を取り入れる

3・4年生→～くんが～のとき、～くんに～していました。とてもやさしいと思ったので、ぼくもまねしてみようと思います。

5・6年生→～くんが自分から進んで配り物をしていました。すると～くんが手伝いにいきました。みんなで協力すると団結力が高まると思いました。

※どう思い、これからどうしようと考えたかを書く

取組の成果（効果）『学校があたたかい雰囲気に』

給食時の放送で紹介するとき、学校全体が静かになり、自分の書いたことが読まれるかなというわくわく感でいっぱいになる。紹介されると笑顔があふれ、あたたかい雰囲気に包まれる。紹介された児童の自己有用感は高まり、聞いているまわりの児童は、よい行いとはどのようなことかを学び、それを実践しようとする。

今後の展開『ほめるための取組を設定していく』

学校の雰囲気をよくすることがとても大切だと考える。今後も、よい言葉や行為をクラスや学校で伝えていくことや、名札やスリッパのチェックなど全校で行う取組を設定し、ほめられること、認められることを気持ちよく感じられる学校をつくっていきたい。

他校へのアドバイス『見える化と放送』

よい言葉や行為を掲示や放送を使って広めること。その中で、聞きたいと思うような放送をしてくことが重要である。

本校では、トイレのスリッパの状態や、名札の着用状況などを調べ、数値化し、給食時間の放送において学年ランキング形式で発表している。また、掃除時間には美化委員会が校内を回り、掃除終了時に放送でよかつたところを発表している。児童はよい結果が出るようにがんばろうとするだけでなく、自分たちの学校がよりよくなっていくことを実感している。

「スマイルボックス」の取組は、児童会執行部の子どもたちにとっても、自己有用感や自己指導能力を高める取組となっている。

児童会執行部が行った児童アンケートより

- ・「だまってそうじ」は良くなっていると思います。美化委員会の人の放送を聞いていて、だまってそうじをしているクラスが多いなと思います。
- ・一人一人が時間を守ることで、学校全体の雰囲気が変わったなと思いました。
- ・教室やろう下などが前よりもきれいになった気がします。
- ・教室移動の時、他の校舎を通ると、スッキリしていて、きれいだなあと思います。
- ・放送を聞くと、90%以上スリッパがそろっていることが最近多いなと思います。それに、クラスの人が「そろえたよ！」と言っているのをたくさん聞くような気がします。
- ・放送でもあるように、「はきものをそろえる」はとてもよくなっていると思います。でも、トイレに行くと、スリッパに書いてある番号が左右ちがっていることがあるので、完ぺきにしていけたいなと思います。
- ・4月よりも、朝のあいさつ運動のときにあいさつを返してくれる人がより多くなっていると思います。
- ・一斉下校の時にたくさん的人がしゃべっていて、ひきしまった感じがないなと思っていたけれど、最近はみんながだまって集合することによって、落ち着いて帰ることができているなと思いました。

指定校番号	29005	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長	生田 徳廉	生徒指導主事	瀬尾 啓子
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『「みんなの廿小」をもっと魅力ある学校にするための大作戦』																
取組のねらい『キーワード：自己存在感・自己有用感を育む』	○児童の主体的な活動を仕組み、本校への所属感や自らの存在感、他者からの有用感を育み、児童にとって楽しい魅力ある学校づくりを進める。																
身に付させたい資質・能力	○主体性と課題発見・解決力																
取組の具体的内容『キーワード：高学年児童のアイデアを生かす』	<p>(1) 5年生・6年生全児童対象に、「廿日市小学校をどのような学校にしたいか」「もっと魅力ある学校にするためにはどんなことをしたらよいか」というアイデアを校長名で募集。</p> <p>(2) 児童のアイデアから実現可能な8つの取組を選び、委員会などの児童主体の話し合いで進めるものと、教職員が先導して行うものに分けて、児童と一緒に実現していく。</p> <p>「みんなの廿小」をもっと魅力ある学校にするための大作戦</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>廿小クラスリレー大会をひらこう</td></tr> <tr><td>2</td><td>廿小じゃんけん大会をひらこう</td></tr> <tr><td>3</td><td>廿小にリラックスタイムをつくろう</td></tr> <tr><td>4</td><td>校内に花（植物）をかざろう</td></tr> <tr><td>5</td><td>廿小ゆるキャラをつくろう</td></tr> <tr><td>6</td><td>給食時間に楽しい音楽を流そう</td></tr> <tr><td>7</td><td>トイレットペーパーフォルダーにカバーをつけよう</td></tr> <tr><td>8</td><td>雨の日に教室でトランプ遊びができるようにしよう</td></tr> </table> <p>委員会が中心になって行った取組は、3・4・5・6・7である。</p> <p>→保健委員会 →保健委員会 →生活委員会 →放送委員会 →保健委員会</p> <p>「リラックスタイム」心も体もの～んびり開放してリラックスしたい人集まれ～！</p> <p>「リラックスタイム」心も体もの～んびり開放してリラックスしたい人集まれ～！</p> <p>「生活委員が募集し、皆で決めた廿小のキャラクター「あいさつの花ちゃん」（4年生児童作）</p> <p>（例）「5 廿小ゆるキャラをつくろう」は、生活委員会主催で、『あいさつキャラクター作り』に取り組んだ。</p> <p>①あいさつ奨励に生かすために、全校児童に『マスコットキャラクター』づくりの応募用紙配付</p> <p>②生活委員会が回収し第1次選考（ベスト9）</p> <p>→最終選考（各学級・教職員で投票）</p> <p>③決まったキャラクターを使ってあいさつを奨励するポスターを生活委員会で作成し掲示</p> <p>④期間を決めて、生活委員会が休憩時間、校内を巡回し、気持ちのよいあいさつをする児童（3レベル以上）に「あいさつありがとうカード」を渡す</p> <p>⑤各自もらった「あいさつありがとうカード」を貼った台紙を生活委員会が回収</p> <p>⑥10枚以上集めた児童に『あいさつの花ちゃん』シールを渡す</p>	1	廿小クラスリレー大会をひらこう	2	廿小じゃんけん大会をひらこう	3	廿小にリラックスタイムをつくろう	4	校内に花（植物）をかざろう	5	廿小ゆるキャラをつくろう	6	給食時間に楽しい音楽を流そう	7	トイレットペーパーフォルダーにカバーをつけよう	8	雨の日に教室でトランプ遊びができるようにしよう
1	廿小クラスリレー大会をひらこう																
2	廿小じゃんけん大会をひらこう																
3	廿小にリラックスタイムをつくろう																
4	校内に花（植物）をかざろう																
5	廿小ゆるキャラをつくろう																
6	給食時間に楽しい音楽を流そう																
7	トイレットペーパーフォルダーにカバーをつけよう																
8	雨の日に教室でトランプ遊びができるようにしよう																

取組の課題・創意工夫『キーワード：さらなる自己肯定感の向上に向けて』

- 高学年児童からアイデアを募集する際、単なる興味本位でアイデアを書くことにならないように、まず、「廿日市小学校がどんな学校になったらよいと思うか」を考えさせた。その後、そのための具体的なアイデアを書かせた。
- アイデア募集に書かれた内容全てをまとめて、各教室に掲示することにより、高学年児童の自己存在感を高める。
- 委員会で話し合って取組を進める際も、できる限り児童の考え方や主体的な活動を尊重する。
- 実現できたことは、全児童に披露し、学校便り等で広く紹介することを通して、機運を盛り上げる。
- 学習発表会の大きな行事終了後も、特に高学年児童に目標や希望もって取り組ませたいという積極的生徒指導の観点から、2学期後半に取組を始めた。

取組の成果（効果）『キーワード：自己有用感の向上』

- 「こんな学校にしたい」は、「①あいさつができる学校 ②仲良く思いやりのあるいじめのない学校 ③明るく笑い声が絶えない学校」と、まとめることができた。そして、廿小をもっと魅力のある学校にするために児童が一生懸命考えたアイデアは全部で72個あり、児童が学校をよりよくしていきたいと願っていることが分かった。
- 願いは実現することができるという体験を通して、学校の主役は自分たちだという意識をもたせた。
- 委員会等で具体的な取組を話し合う際、児童が積極的に意見を出し合い、主体的に活動していた。
- 全学年において、学校は楽しいところだという意識をもち、児童が意欲的に取組に参加している姿が多く見られた。
- 他の取組とも合わせ、自己有用感が高まった。
 - ・昨年度79%→今年度83.8%

今後の展開『キーワード：次年度へつなげる』

- ・今年度、行った取組や内容は、ふり返りをして次年度へつなげる。
- 「みんなの廿小」をもっと魅力ある学校にするのは自分たちなのだという気持ちを特に高学年児童にもたせ、来年度はどんなことをしていきたいか意識させておく。

他校へのアドバイス『キーワード：全校での取組』

- ・年度当初に、実施時期を検討し、計画的に進めることができると効果的である。全校で協力体制を築き、取り組むことが重要である。

指定校番号	29006	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立宮内小学校	校長	佐々木 泰治	生徒指導主事	和田 清穂
-----	------------	----	--------	--------	-------

取組事例名	『子どもたちの笑顔を守る～学校を休まない子～』
取組のねらい『キーワード 学校を休まない子』	子どもの自己有用感を高めることで、いじめ等の問題行動の未然防止を図り、学ぶ意欲を高める。
身に付させたい資質・能力	自己肯定感、自己有用感、協調性
取組の具体的内容『キーワード 子どもからの発信』	<p>・運営委員会の児童を中心にいじめ防止のスローガンを考え、命の大切さについて考える日に「ふわふわ言葉をたくさん使おう」と全校児童に呼びかけを行った。その際に運営委員会の児童自らが考えたふわふわ言葉を伝え、どのような言葉を使うと気持ちが温かくなるかを全校児童に考えさせた。</p> <p>・いじめ防止のスローガンを職員室前に掲示し、年間を通じて取組を行っていくということ、いつでもどこでも取り組んでいくということを全校に発信していく。</p>
取組の課題・創意工夫『キーワード 子ども同士でつながる』	<p>・いじめ防止のスローガン発表の後、運営委員会児童が各学級に「一人一人がふわふわ言葉を考え、使ってていこう」と呼びかけ、全校児童一人一人がふわふわ言葉を考える取組を行い、各学級に掲示し、相手が気持ちよくなる言葉を意識させるようにした。</p> <p>・いじめ防止対策推進月間には、運営委員会の児童がいじめ防止のスローガンを各学級で考え、取り組んでいくよう呼びかけた。</p> <p>・命について考える授業を行い、命の大切さについて一人一人に考えさせた後、学級全体での意見交流を行った。</p> <p>・「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」について児童に考えさせ、どのような言葉を言われたらうれしいか、また、具体的な場面を想定し、どのような時にどのような言葉を使っていったらよいのか考えさせ、児童同士で話し合った。</p> <p>・いいところ見つけ週間を月末に設定し、児童同士がお互いにいいところを見つけ、伝え合い続けた。</p> <p>・ほめほめの木を設置し、児童のいいところ、役に立ったところ等を書いて掲示する取組を行った。この取組を通じ、自分や友達のいいところを実感させることで、自己有用感を育ませていくようにした。</p> <p>・月間、年間で皆勤賞を発行し、児童が学校に休まず通い続けることの励みにした。保護者からも「皆</p>

勤賞をもらうことを楽しみにしている。」といった声もいただいた。また、児童同士で「すごいね。」等の声をかけ合うことにもつながっている。



- ・児童のアイディアを活かしたつながりの場の設定について、今後、検討していく必要がある。
- ・児童に考えさせたり、話し合わせたりしたことを継続して取り組んでいくという意識を持たせる。

取組の成果（効果）『キーワード 全校で取組む』

- ・自己有用感を高め、いじめ等の問題行動の未然防止を図る取組等を行い、その内容を児童に発信していくことで、どの学級でも同じことを行っていることが児童にも伝わり、全校で取組んでいるという一体感を持たせることができた。
- ・学校評価の目標として、学校を1年間休まない児童の割合を35%以上に掲げている。昨年度は30%の児童が学校を1年間休まなかった。今年度は、12月末で44%の児童が1日も学校を休んでいない。

今後の展開『キーワード つながり』

- ・年間を通じて自己有用感を高め、いじめ等の問題行動の未然防止を図る取組を行っていたが、取組内容、取組回数等の充実を図っていく必要がある。
- ・児童同士がつながっていく取組を学級だけでなく、各委員会活動にも広げていきたい。また、運営委員会児童が中心となり、これまでの取組を自分たちがつなげていかなければならないという意識の高揚を図っていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 安心、安全な学校づくり』

「学校を休まない子」を育てるためには、安心、安全に通える学校づくりが欠かせないと考え、いじめ防止の取組、皆勤賞の発行、ほめほめの木の設置、いいところ見つけ週間の設定等、年間を通じた取組を行った。これらの取組を通して、児童間、教職員間で共通意識を持つことにつながった。めざす児童像からどのような取組を行うかを考えることが大切だと感じた。

指定校番号	29010	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中南小学校	校長	竹下 比登美	生徒指導主事	高田 博之
-----	------------	----	--------	--------	-------

取組事例名	『主体性を育む児童会活動～府中町一の取組を目指して～』
取組のねらい『キーワード～府中町一を目指して～』	

本年度の児童会のテーマは「主体性を育む児童会活動～府中町一を目指して～」とした。本校が本年度育てたい資質・能力である「思考力・判断力・表現力」「アイデンティティ」を児童自身が身に付けていくための方策を児童会執行部が考える事で、自己有用感や自己肯定感の向上を図った。

身に付させたい資質・能力

本校の育てたい資質・能力は「思考力・判断力・表現力」「アイデンティティ」である。その資質・能力を身に付けた具体的な児童の姿を、児童会活動の側面から学校生活を充実させ、より主体的なものにすることで、身に付させたい資質・能力の育成につながると考えた。

資質・能力のうち特に「アイデンティティ」の育成が直結すると考え、本年度は、「アイデンティティ」の育成を意識した取組を行っている。「アイデンティティ」には、「生き方」、「生命尊重」、「他者とのかかわり」の3つの観点があり、その中で、「生き方」、「他者とのかかわり」の観点に絞り取り組んでいった。本校が定めるレベル表の「生き方レベル3」では、次のような具体的な姿を設定している。

①より高い目標をたて、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く。

②社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さがわかり、自分らしい生き方や憧れる生き方について考える。

③いろいろな職業や生き方があることを知り、将来の夢や希望をもつ。

「他者とのかかわり レベル3」では、次の2点を設定している。

①社会とのかかわりから自分の良さや成長を自覚するとともに、友達のよさや成長を認め励まし合う。

②日々の生活は、家庭や地域、社会はもちろんのこと、先人の努力や知恵によって支えられてきたことに感謝し、それらを受け継いで共に生きていこうとする自覚をもつ。

「生き方」については、主に委員会活動で、「他者とのかかわり」については、主に異学年交流で資質・能力の育成を図っていく。

取組の具体的内容『キーワード～4つの府中町一～』

児童会執行部の児童が中心となって行った「4つの府中町一を目指した」取組

1 「挨拶を府中町一」では、全校朝会やポスターで取組を呼びかけ、児童の関心・意欲を高めている。あいさつ運動では、挨拶ができている子にはキラキラカードを手渡し、自己有用感や自己肯定感の向上を図っている。



2 「掃除を府中町一」では、異学年で掃除を行うことで、高学年が低学年の手本となり、関わり合うことで互いを高めることができている。また、児童玄関にゴミ箱を設置し、ゴミをよく拾った学年を表彰している。

3 発表を府中町一では、月に1回、五七五の俳句の募集を行い紹介したり、発表週間を設定したりして発表の大切さを全校に伝えている。

4 ハート府中町一では、毎月児童の投票による「ふわっと言葉チャンピオン」を決定し表彰することで児童の取組を評価している。また、学期末にアンケートを実施し取組の指標としている。

取組の課題・創意工夫 『 キーワード ~ 継続・発展 ~ 』

○取組の課題

新たな学校文化の誕生を、継続・発展させていくためのシステムの検討・制作が必要となる。（誰がなっても、誰が見ても分かる・できる各位委員会のレジュメ）また、執行部の活動は充実したが、振り返りが不十分な面があった。活動後の振り返りを充実させ、自分たちの何がよかつたのか、何を改善しなければならないかを検討するとともに、活動をより質の高いものにするために活動の精選と、次年度へ引き継ぎが必要である。

○創意工夫「キラキラカード」

キラキラカードは、昨年度から校長の発案で始まり、児童の頑張りを視覚的に評価するものとなっている。執行部が考えた府中町一への取組にもつながっており、カードが5枚たまると「キラキラバッジ」がもらえ、児童の意欲にもつながっている。（毎月一回のキラキラバッジ授与式を実行）また、キラキラカードは担任推薦もあり、クラス内で頑張っている児童にもいきわたる仕組となっている。今ではこのキラキラカードを各委員会も活用するようになってきおり、児童同士が肯定的な評価を行うための有効なツールにもなっている。1年生はもちろん6年生も、もらった時は笑顔で嬉しそうにしている。

取組の成果（効果）『 キーワード ~ 関わり合いキラキラ ~ 』

児童会執行部が、全校集会で府中一の4つの取組を伝えることで、全校児童が資質・能力を共有することができ、児童がこの取組を意識して日々の学校生活に臨むことができた。また、昨年度の課題であった、5年生への委員会の紹介・引継ぎも児童発信で行うことができた。普段の生活の中で異学年同士の関わりが増え、休憩時間には、6年生と一緒に遊んでいる1年生や2年生の姿をよく目にするようになった。また、委員会総会を立ち上げ、児童会だよりの発行を行った。児童だけでなく、職員の委員会活動をはじめとする児童会活動への取組の意識が高まった。全職員が委員会に携わることで、児童が考えた活動を具体化し、栽培委員会は水やりの必要のない雨の日には草取りを行うなど、今までになかった新たな活動が生まれた。

2学期終了時の生活向上アンケートの結果では、「学校、家庭、地域で自分からあいさつしている」の肯定的評価は87.2%であった。「人にふわっと言葉で話している」の項目では、肯定的評価は85%であった。児童会執行部によるキラキラカードの配布やバッジの表彰により、府中一を目指す児童の意識は高まってきた。「他学年と積極的に関わっている」に対する肯定的回答は77.8%であった。ペア学年が日常的に触れあう教室配置やペアの清掃活動が功を奏したと考える。今後も児童会執行部主催の縦割り遊びを企画するなど取組を充実させていく。



今後の展開『 キーワード ~ 6 + 3 = 9 への連携 ~ 』

子どもの主体性を更に育むために、中学校との連携を強化することを考えている。小学校の児童会活動と中学校の生徒会活動とのつながりを深め、小学校の各児童会の委員長の活躍の場を増やすことで、1つ1つの委員会の活動内容の充実や、児童の意識・意欲がさらに高まると考えている。

他校へのアドバイス『 キーワード ~ 児童と教員のコラボ ~ 』

委員会の指導体制を、本年度から全教員で指導することにした。委員会の数は増やさず委員会担当の教員数を増やすことで、より充実した指導ができるようになり、児童の自発的な活動も増やすことができた。

別紙様式2

指定校番号	29014	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸太田町立加計小学校	校長	佐々木 亮	生徒指導主事	田尾 佐智恵
-----	-------------	----	-------	--------	--------

取組事例名 『いじめストップ集会』

取組のねらい『キーワード 主体的な取組』

- 児童自身が、いじめを許さない学校づくりのための取組を創造する。
- 全校児童がいじめについて考え、いじめを許さない意欲を高める。

身に付させたい資質・能力

課題発見力：いじめを許さない学校にしていくために、解決すべき課題や必要な取組について考える。

自己肯定感：自分たちの取組が評価されたり、学校が変わっていったりすることで、自己肯定感を高める。

取組の具体的内容『キーワード みんなが考えてくれる集会に』

1 加計中学校生徒会との交流会

具体的な活動について、中学校生徒会の活動を参考にさせてもらおうと交流会を要望し、実現した。



2 キャラクター募集・決定

いじめ撲滅のためのオリジナルキャラクターを作成した。キャラクター名を全校から募集し、投票で決定した。

3 いじめストップ集会の開催

いじめストップ集会を企画し、開催した。

事前に、各学級に「いじめの入り口」になることはどんなことかを考え、集会では、みんなから出てきた「いじめの入り口」を加計小学校からなくしていくことを提起した。そして、一人一人ができることを行動宣言として考えていった。



集会後、児童会本部として学校全体で取り組む『加計小学校行動宣言』を考え、全校に提起した。

取組の課題・創意工夫『キーワード 主体的な取組に』

児童会役員のメンバーは、昨年度のいじめ撲滅の取組のイメージしかなく、新しい活動を考えることができなかつた。そこで、「中学校の生徒会に話を聞いてみたい」という児童の希望で、交流会を設定した。中学生からは、これまでの取組や小学校だったらこういう活動はどうかという具体的な取組の提案ももらつた。その後は、意欲をもって取り組むことができてきた。また、いじめ撲滅の取組だけでなく、児童会役員としての心構えなどを教えてもらったことで、全ての活動において、主体的に取り組もうという意欲が出てきた。

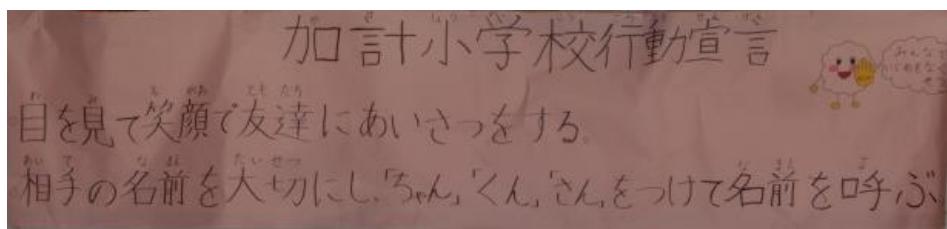


- ・「いじめの入り口」を各学級で考えてもらい集約する中で、学校の中には「いじめの入り口」がたくさんあり、児童会役員のメンバー自身が、これらをなくしていくことが大切なことだと気づいていった。そのことで、いじめストップ集会をしていく意義を自覚し、主体的に取り組もうという姿勢が見られるようになってきた。

- ・加計小学校行動宣言をつくっていくにあたっては、なかなか具体的な行動を考えつかなかつたので、「いじめの入り口」をなくしていくために、まず何ができるかを考えていった。今年度いっぱいみんながクリアできそうな具体的な取組を提起することができた。
 - ・加計小学校行動宣言を実行していくために、宣言のうちの一つを毎月



の生活目標として取り組むことにした。更に、各学級でどのようにがんばるのか具体的な目標を決め、取り組んでいいるところである。



取組の成果（効果）『キーワード 気づき』

- ・i-check の「いじめのサイン」の項目において、6 学級中 5 学級の肯定的評価について 1 学期より 3 学期の方が上がっている。いじめストップ集会の取組によって、「いじめの入り口」になっている行動に気づき、やめようと行動化したことが一因となっていると考えられる。
 - ・これまで友だちから嫌なことをされても我慢することが多かった児童会役員のある児童が、担任に相談してきた。「いじめの入り口」を自らが見逃してはいけないと感じて行動することができた結果と考えられる。
 - ・次期児童会役員選挙において、立候補者の多くは、「いじめの入り口」をなくしていくために、どんなことがしたいかということを具体的に演説で訴えていた。学校の中にある「いじめの入り口」に気づき、なくしていくことが学校をよりよくしていくことにつながると考えた結果だと分析する。

今後の展開『キーワード 繼続的な取組に』

- ・現児童会役員からは、中学校の生徒会との交流をもっと早い段階でやりたかったという声も上がっていた。年度当初に交流会を持つことで、さらに意欲的に自治的活動に取り組めるのではないかと考える。
 - ・今年度つくったキャラクターや行動宣言を来年度にも引き継ぎ、継続した取組にしてほしいという願いを持っている。
 - ・現児童会役員の児童から、次期児童会役員の児童へ上記の思いを伝えていくことで、自分たちが引き継いでいくという思いが持て、より自治的な活動を創造していくことができるのではないかと考える。

他校へのアドバイス『キーワード きっかけづくり』

- ・本取組では、中学校生徒会との交流がきっかけとなり、主体的な活動ができた。近隣の小学校や中学校との交流は、お互いに刺激となり、多くのヒントをもらうことができると考えられる。

指定校番号	29015	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	北広島町立壬生小学校	校長	松島 尚志	生徒指導主事	岡田 克朗
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『企画委員会（児童会本部）による生活改善の取組』
取組のねらい『課題発見・課題解決（主体的な生活の改善）』	
挨拶や校内での過ごし方など、集団生活の中で守らなくてはならない規範や、活動を向上させるために行う活動がある。これらの規範を守ることや活動は自分たちの生活の向上のためであることを自覚し、課題意識をもたせて、活動を進めることを通して、児童の主体性を伸ばし、自分たちで課題を発見し解決していく態度や行動力を養う。	
身に付させたい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・課題発見力・解決力 ・協調性・柔軟性 ・高い志・使命感 ・思考力・判断力・表現力 ・主体性・積極性 ・コミュニケーション能力 	
取組の具体的内容『児童自身による課題発見・改善』	
<p>① 企画委員会児童に、めざす学級像をもたせる。各委員会にも課題意識をもって取組を進めるよう意識統一する。</p> <p>② そのための、活動内容を児童に考えさせる。</p> <p>③ 具体的に考えた内容に取り組み、成果を共有する。</p> <p>④ 活動を肯定的に評価し合い、事後の活動につなげる。</p>	
<p>例 企画委員会による生活改善</p> <p>取組の経過</p> <p>生活指導上の課題（あいさつ、廊下の過ごし方、全校での集合の仕方等）について、改善すべき点を児童に発見、決定させた。児童は、「一斉下校時に静かに集合する」ことに課題意識をもち、話し合って計画を立て活動を進めた。「通学班のリーダーがカードを使って、自分の班を把握し、企画委員に知らせる」「企画委員はカードの様子から判断し、注意を促す」という方法を考え、実行した。それまでは指導者が、「静かに集まりなさい。」と指導して改善を図っていたが、なかなか成果があがっていなかった。しかし、企画委員が自分たちで訴えたことで、6年生全体にも、主体的に動こうとする意欲を高めることができ、以前より、私語が減るなど、具体的な成果をあげることができた。活動にあたっては、「6年生全体にも意図や活動を伝える」など、企画委員会だけで取組を進めないよう助言した他は、一貫して、児童の自己決定による活動であることを徹底し、指導者は支援に徹した。取組が始まってからは、成果をしっかりと伝え、「自分たちで考え、活動する」充実感を味わわせたり、自信をもたせたりするねらいをもって評価した。</p> <p>活動が定着してからは、「待っている間は座った方がいい」「使用後のカードは企画委員が回収する」など、生じた小さな課題についても、企画委員が話し合って解決しながら取組を進めている。</p>	



取組の課題・創意工夫『児童の自己決定・自己責任』

これまで、生活指導上の課題については生徒指導部を中心とする指導者が発見し、全校で意識統一して改善を図ってきた。しかし、指導や注意が取組の中心になり、児童は、「注意されるから〇〇しなくては」という意識から脱することができにくかった。また、改善されても一定の期間を過ぎるとまた課題が生じることの繰り返しであった。そこで、「困るのはいったいだれか」「何のために決まりがあるのか」といったことを再確認し、自分たちのために取り組むという目的意識をもって活動できるようにした。また、生活の中で規範が乱れている事実は、まさに自分たちの課題であり、このことを「改善しよう」という意識をもち、取り組んでいくことは課題発見・解決能力を身につけるための取組としても有効だと考えた。日常の指導者の支援の中に「誰の課題か?」「自分たちはどうしたいのか?」ということに気づかせる声かけや働きかけを意識して行うよう意識統一した。

取組の成果(効果)『活動への意欲、自己肯定感の向上』

6年生の児童アンケートにおいて下記の質問に対する児童の肯定的評価は次のように向上した。

1学期末 2学期末

「自分は友達から認められている」 81% → 93%

「自分は、クラスの友だちや他の人の役に立っている」 74% → 83%

「友だちと協力して活動することができる」 97% → 97%

この結果から、「特別活動に関する取組」や、この他の活動において児童の自己肯定感は向上したとされている。

企画委員会の児童はこの取組の終了後に、「いじめ撲滅宣言」に取り組んだ。「学校からいじめをなくす」という目的意識をもって活動し、積極性も出てくるなど、活動に対する態度も育ってきたように感じた。また、他の委員会でも、主体的に活動する児童の姿が多く見られた。

今後の展開『児童の意識の変換』

昨年度、今年度と活動の目的や意義を踏まえて取組を進めるとともに、児童が主体的に活動する姿をとらえ、肯定的に評価することで、「自分たち自らが学校生活を高めていく」という自覚とやりがいに基づいて活動が進むよう配慮してきた。結果として、意欲的に生き生きと児童会活動に取り組む児童の姿が見られるようになってきた一方、「やらなくてはいけない」という意識のみで「やらされ感」を払拭できないまま、常時活動に取り組んでいる児童もいる。

今年度は、年度末の委員会の引継ぎ時に、課題を意識して解決のために取り組んだ場面での児童の姿をしっかりと評価するよう意識統一した。それを5年生の児童に見せることで、次年度、学校のリーダーとなる5年生に、「自分たちの学校を自分たち自身でよりよくしていく」という意欲をもたせたい。その上で、企画委員会や各委員会の活動を、児童が感じている課題を解決することに重点をおいて取組を進めていく。日々の活動には常時活動も多く、「やることが義務」「責任を果たす」ということに重点を置きがちである。もちろん、このことで集団参画の意義や責任感を鍛えることは大切なことである。これに加えて、活動一つ一つの目的や意義をしっかりと確認し、成果を評価することを継続して、「今ある課題を解決する」と「新たに課題を見つけ解決する」で生活を改善していっていることを児童に認識させる。このことでより、活動への意欲が増し、自主的な態度や、自治の力がついていくと考えている。

他校へのアドバイス『時間の確保・課題の把握』

指導者のみが課題と感じていることに取り組ませると、「自己決定の場」がなくなる。取り組む課題は、児童に見つけさせ決定させることで、活動の動機が明確になり意欲が高まった。また、高学年で、主体的な委員会活動を成立させるためには、中学年までの学級活動の充実が欠かせない。このことと、児童に対する評価をどのように進めるかも踏まえて、取組にあたっては、高学年の児童会活動に直接かかわる指導者のみでなく、全職員の意識統一が必要である。

指定校番号	29016	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立田野浦小学校	校長	神田 秀浩	生徒指導主事	東 英治
-----	------------	----	-------	--------	------

取組事例名	『ゼロ・プロジェクト そうじ時間おしゃべりゼロ』				
取組のねらい『キーワード きれいな学校 三原一』					
・掃除を徹底して行い、学校をきれいにする。 ・掃除用具を整頓して片付ける。					
身に付させたい資質・能力					
・集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方について考えを深め、自己を生かす能力を養う。 ・集中して黙って物事に取り組む力をつける。					
取組の具体的内容『キーワード 全教職員・全児童みんなで取り組む』					
・「ゼロ・プロジェクト」週間として、毎月一週間期間を決めて取り組む。児童会役員も校内放送で呼び掛ける。 ・学級担任は、児童に掃除の仕方を事前に指導する。 ・全教職員が率先して掃除を行い、範を示す。(教職員も一言もしゃべらず掃除をする。) ・児童会役員が担当場所を点検し、よかつた学級を掃除終了直後に校内放送で紹介する。					
			【掃除の仕方に沿って】	【担任も率先して】	【黙ってきれいに】
取組の課題・創意工夫『キーワード 行動化につなげる評価』					
(1) リアルタイムの評価					
・点検の方法は、児童会役員が前・後半に分かれ、分担して行う。 ・掃除時間の前・後半を2回点検し、ともに合格であれば、がんばり表にシールを貼る。 ・掃除終了直後に、児童会役員が特にがんばっていた学級を校内放送で紹介する。					
(2) 評価の見える化					
・合格した掃除場所ごとにシールを貼り、児童のがんばりを評価する。 ・掃除終了後に、学級代表の児童が、がんばり表を見てその日の評価をクラス全員に報告する。					
(3) 全校朝会で表彰					
・がんばり表を集計し、学年で第1位の学級を発表する。 ・呼ばれた学級は、全員返事をして起立することで、達成感や満足感を味わわせる。 ・多くの学級を表彰することで、意欲につなげる。					
	【全校朝会で表彰】				

取組の成果（効果）『キーワード 全教職員・全児童みんなで』

- ・学級の取組だけでなく、学年で目標を明確にし、黙って掃除する学級・学年が増えてきた。
- ・校内放送によるリアルタイムの評価と、がんばりシールを貼って評価の見える化を行うことで、さらなる意欲や行動力につなげることができた。
- ・「くらしのスタンダード」に掲げている「黙って掃除している」項目において、7月のアンケート結果では、教職員と児童の肯定的評価の差が17%であったが、12月のアンケート結果では、差が3.4%になった。

※12月のアンケート結果：教職員（83.3%） 児童（86.7%） 意識の差（3.4%）

今後の展開『キーワード 学級から学年、学年から全校へ』

- ・ふだんの掃除時間も、すみずみまで黙ってきれいにすることを継続する。
- ・「黙って掃除をすること」を全校でやり切る。そのために、教職員が児童に「やり切らせる指導」を徹底する。

他校へのアドバイス『キーワード 一点突破の取組』

- ・改善していく部分はあるが、ポイントを一つにしぼり取組を進めていく。
- ・児童も教職員もみんなで目標に向けて取り組んでいく。
- ・全校朝会で、頑張っている学級に表彰状を渡し、学級に掲示することで頑張った「あしあと」を残す。

指定校番号	29017	学級活動	○	児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	---	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷小学校	校長	沖 章生	生徒指導主事	村上 敦
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『いじめ防止隊』

取組のねらい『キーワード 児童の課題発見解決の力の育成』

全校児童が課題意識をもち、児童会本部をリーダーとして効果的な方策を考えさせることにより、いじめ防止を目指した課題発見・解決能力の向上を図るとともに、児童の自主的・実践的な態度を育てる。

身に付させたい資質・能力

- 主体性
- 自己肯定感・自己有用感
- 課題発見・解決能力

取組の具体的内容『キーワード 全校児童が意識を高める』

①児童会児童と全学級の代表による「いじめ防止委員会の実施」

児童会本部役員の公約を受け「いじめ防止隊」を結成し、各学級の代表者による「いじめ防止委員会」を開催した。

②いじめ問題（公正・公平）を主題とした「全校道徳」の実施

児童会役員の発案により、いじめ問題について縦割り班で考える全校道徳を実施した。

③「いじめ相談箱」の設置

悩みを相談できるいじめ相談箱を設置した。

④児童会児童による「悩み相談時間」の設定

いじめ相談箱へ投函された悩みを、児童同士による話し合いの実施。また、学年ごとに曜日を決めて、児童が自由に悩みを相談できる場を設定した。

⑤全学級による「いじめ防止ポスター」の作成

いじめ防止委員会で具体的な取り組みとして決定した、学級ごとでいじめ防止のためのポスターの作成と掲示。ポスター作りを通して、いじめを許さないための学級での話し合いを実施した。

⑥いじめ防止隊の取組を保護者・地域への発信

いじめ防止に関わる取組について、生徒指導便りにて保護者・地域へ発信した。



取組の課題・創意工夫『キーワード 全学級共通意識の構築』

課題

児童会の生活目標と合わせていじめ防止の取組を行ったため、その期間のみの短期的な取組となっている。

創意工夫

前期児童会役員（3月～9月）による提案を受けた取組を、後期児童会役員（10月～2月）が引き継ぎ、年間を通して児童が主体となっていじめについて考える機会を設定した。

後期児童会役員には、具体的な事例を挙げ、事例のようないじめが起きてしまった原因とそれを起こさないための方法について各学級で話し合うように、いじめ防止委員会にて提案させた。それを受け、各学級で学級活動の時間に話し合せた。話し合った内容を、第2回のいじめ防止委員会で、各学級のいじめ防止隊に発表させた。それを、児童会本部がまとめ、児童会のスローガンとともに各学級へ配布した。

取組の成果（効果）『キーワード 児童主体の未然防止の取組』

○学校全体でいじめを許さない雰囲気づくり

いじめに対して、相談できる場所として、教師や保護者など大人という思いが子どもたちにはあったが、今回の取組を通して、友達に相談し、子ども達同士で解決しようという雰囲気ができ始めた。

児童アンケートでは、「いじめは絶対に許されない96.5%，いじめを見たり聞いたりしたらやめさせることができる83%，みんなで協力し合ってよりよい学級や学校を作ろうとしている93%」といじめを自分たちの問題として主体的に考えることができる児童が増えた。

○自己肯定感、自己有用感の醸成

児童が中心となって取組を進めることで、いじめ防止隊として責任をもって活動する様子が見られた。学校のいじめに対する問題を全校児童が主体となって取り組んでいくことで、児童アンケートでは、91%の児童が自己有用感を感じているということが分かった。また、89%の児童が自分にはいいところがあると自己肯定感を高めることができた。

今後の展開『キーワード 短期的な取り組みから長期的な取り組みへ』

○短期的な取り組みから長期的な取り組みへ

今年度の児童会の役員の公約を達成するための取組としていじめ防止隊の活動が始まったが、来年度からの児童会が引き継いでいくことができるかどうかが分からぬ。児童の中にいじめを許さない雰囲気ができつつあるため、児童のいじめを許さない意識を低下させないために、短期的な取り組みではなく、長期的な取り組みへとつなげていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 学校の課題を児童の課題に』

学校の課題を児童へ発信することで、児童が主体的に解決しようとする意識が生まれてきた。いじめの問題だけではなく、生徒指導上の課題を児童の課題発見解決能力を育成させるための絶好の機会として、児童に提起することが大切だと感じた。

指定校番号	29018	学級活動		児童会	<input type="radio"/>	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	-----------------------	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保小学校	校長	村上 みどり	生徒指導主事	内田 哲雄
-----	-----------	----	--------	--------	-------

取組事例名	『児童会活動』
取組のねらい『キーワード 自他を思いやる心の育成』	
全児童が相手意識を持って学校生活を送ることができるようになるために、協力して諸問題を解決しようとする共感的な人間関係を育成する。	
身に付させたい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> 相手に思いやりをもてる力。 自己の能力をのばす力。 	
取組の具体的内容『キーワード 相手意識』	
あいさつの取組	<p>○あいさつ運動</p> <p>全児童が「美しいあいさつ」ができるようになることを目指し、児童会役員（水、金曜日）と職員が正門に立って、あいさつ運動を行う。</p> <p>○あいさつ貯金魚週間</p> <p>児童会役員と職員が、あいさつをしている児童を肯定的に評価し、あいさつのよい児童に対して「あいさつグッドカード」を配る。各学年の一人当たりの獲得枚数で比べ、優勝した学年は全校の前で表彰する。</p>
学級委員会	<p>○代表委員会</p> <p>共感的な人間関係の育成を図るとともに、児童の主体性、自主性を高めることを目指し、児童会の自治活動や各学年のクラスの話合い活動の充実及び活性化を図るために代表委員会を開く。</p> <p>(各学年で話し合ってくる内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月の生活目標を守れたかの反省と次月の生活目標 学校生活の中でよかったと思うことや困っていること 児童会や他の学年にお願いしたいこと（緊急の場合は隨時児童会に連絡する） <p>※事後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童会だよりを全教職員と各クラスに配布し、教室に掲示しておく。 よかったことや気になっていること、困っていることは、全校集会で話し共有することで、課題に対しての意識化を図る。 児童会から各クラスに連絡したり、啓発ポスターなどを掲示したりして問題解決をしていく。
リーダーの育成	<p>○縦割り班活動</p> <p>灯篭づくりの際、縦割り班の6年生が1年生に作り方を指導したり、全校集会</p>

など縦割り班で活動するときなどは主になって動いたりする。

○集会などの引率

毎週火曜日の集会に、6年生が他学年を並ばせ、体育館に引率したり、ランランタイムやジャンピングタイムなど他学年の前に立って指導したりする。

【ありがとう週間】（生徒指導部としての取組）

自他を思いやる心を育成するために、月に1回（1週間）、ありがとう週間を行っている。帰りの会で、児童が一日を振り返り、何人の友達に「ありがとう。」と言ってもらえたか確認する。

「ありがとう！」と書ってくれた人の名前を書こう！						
未お書きでない人は人數だけでもいい。						
曜日	月	火	水	木	金	土
月	火	水	木	金	土	日
火	水	木	金	土	日	
水	木	金	土	日		
木	金	土	日			
金	土	日				
土	日					
日						

上のわくの中にはそれを書きましょう。
○-2人以上多かった
△-あっついうえなかった
□-いいえ

取組の課題・創意工夫『キーワード 工夫』

- 代表委員会で決まった生活目標を意識して生活する児童が多くいたが、一過性の取組になってしまい、月が変わって生活目標が違うものになると、再びできなくなってしまう傾向があった。
- あいさつ貯金魚週間では、「あいさつグッドカード」をもらうことへのマンネリ化が進み、カードをもらうことに無関心になる児童がいた。
- ありがとう週間では、普段、児童が何気なく「ありがとう。」を言っていることに気付かず、振り返りが困難なときがあった。

※ いずれにしても、児童が意識して取り組めるような工夫を考え、実施する必要があった。

取組の成果（効果）『キーワード 習慣化』

あいさつ貯金魚週間の目標達成度は94%だった。また、ありがとう週間の目標達成度は66.5%で大きく下回っていた。しかし、「ありがとう。」などの言葉は、日常生活の中でよく聞こえてきた。児童の振り返りでも「『ありがとう。』と言ってもらったかどうか、覚えていない。言ってもらったとは思います。」などの記入が見られた。

つまり、あいさつや「ありがとう。」の言葉が習慣化され、無意識のうちに言えるようになってきたのだと考える。

今後の展開『キーワード 繼続と発展』

- あいさつ貯金魚週間については、あいさつができるようになってきたが、地域に出ると「児童からあいさつができない。」との声もある。あいさつ運動を来年度も継続して行うとともに、主体性をもってあいさつができるような取組を考えて行く必要がある。
- ありがとう週間については、児童が振り返りやすいようなワークシートを作成したり、評価の基準・仕方などを考えたり必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード 周知・徹底・連携』

児童が有意義に活動できるように、職員に取組の内容を周知し、指導にブレがないように取組を徹底する。また、取組について職員間で連携し合うことで、取組に改善の必要性が生じた場合には、部会員で取組について練り直し、再度、職員に内容を周知する。この「周知・徹底・連携」のスパイラルが重要だと考える。

指定校番号	29020	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原北小学校	校長	本藤 展康	生徒指導主事	利田 政美
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『児童会活動の活性化による集団としての高まりの涵養』
取組のねらい『キーワード：児童会活動による集団凝集性の涵養』	
これまで本校には、自分が好きなことには積極的に取り組むが、集団における役割を十分に果たさない等、他者と協力してものごとに取り組もうとしない児童の姿が見られた。こうした状況に対し、高学年となった児童は、「みんなで同じ方向を向いて高まっていかなければいけない。もっと良い学校集団にしていかなければ・・・。」という強い課題意識と使命感を抱いてきた。そこで、高学年児童のこうした前向きな思いを現実化するため、高学年がリーダーとなる児童会活動の活性化を図ることにより、児童一人一人の集団に対する帰属意識を高め、児童が集団の中で相互に高まり合う学校づくりの実現を目指した。	
身に付させたい資質・能力	
スキル：情報活用能力、コミュニケーション能力 意欲・態度：粘り力、多様性適応力 価値観・倫理観：自らへの自信	
取組の具体的内容『キーワード：児童の主体性を尊重した児童会活動の展開』	
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の姿を良きモデルとして受け止めさせ、生活態度の向上についての取組を進展させる。 ・児童集会において学級委員に決意表明させたり、学年発表をさせたりすることで、学級リーダーとしての主体性、使命感とともに、集団凝集性を高める。 ・「心うきうき」の紹介、いじめ防止標語作成といった児童の心情にかかわる取組を通して、受容的な学級、学校風土や児童同士の信頼感の醸成に努める。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校生徒会執行部との交流 中学校生徒会が小学校に来て、小学校児童会執行部と一緒に挨拶を行う。 中学校や小学校の取組を交流したり、将来に向けての心構えを中学生に質問したりする。 ・児童集会の活性化 1年生を迎える会、6年生を送る会、縦割り遊び、大縄跳び大会、学級委員の決意表明、学年発表、「心うきうき」の紹介、いじめ防止標語等、児童が主体的に活動する。 ・児童会を中心とした挨拶運動 6年生と教職員が一緒に挨拶運動を行う。 ・児童会の取組に対する評価の見える化 行事や学年発表後には相互評価を行い、取組の成果と課題を明確に認識する。 	
<p>＜児童の感想より＞</p> <p>○中学生と交流して、中学校では、行事内容を自分達で計画・練習して創り上げていったり、より良い学校にしていくために、自分達で課題を見つけて解決していったりしていた。ぼくたちも、より良い小学校にしていくために、まずは自分達が手本となるよう、良い行動を示していこうと思う。また、同じ目標に向かってみんなで高め合えるように、声をかけていこうと思う。(6年児童)</p> <p>○中学生に、中学校に入学するまでに、小学校の勉強ができるようになっておくことや、自分で勉強</p>	



をする習慣を身につけておくことが大切であることを教えていただいた。しっかりと自主勉強をするなどして、勉強をする習慣を身につけていきたい。(6年児童)

○中学生から、「挨拶をすると、みんなが楽しくなります。地域も元気になります。小学校と中学校で元気に挨拶をし、一緒に歴史を作りましょう。」と言われた。挨拶の大切さがよくわかった。中学校と一緒にがんばっていきたい。(5年児童)

○児童集会で友達の「心うきうき」を聞いて、わたしの「心うきうき」と一緒だった。同じ思いを持っているんだなと思い、うれしくなった。(3年児童)

＜いじめ防止標語 優秀作品より＞

【1年】やさしいともだちいっぱい あたたかい学校

【2年】やさしいことば どんどんつかって なかよしクラス

【3年】このルール ちゃんと守れば 楽しいよ

【4年】みんなには いじめを止める 心がある

【5年】思いやり 相手の立場に なってみて

【6年】「やめようよ」 その一言で 救われる



取組の課題・創意工夫 『キーワード：小中連携、主体性の尊重、評価の見える化』

＜創意工夫＞

- ・中学校生徒会との連携により、児童会活動の良きモデルを考えさせ、望ましい姿に向けてのモチベーションが高まるようにした。
- ・教職員が児童会リーダーを中心に高学年の意欲やスキルの程度について把握し、高学年が自ら考えて下学年に指示、指導が行えるようにした。
- ・他学年の児童や保護者による多角的な評価を行い、評価を掲示する等、評価の見える化を図った。



＜課題＞

- ・教職員が児童の特性を十分に捉えきれず、児童の主体性を十分に伸ばしきれない場面があった。
- ・高学年児童に、望ましいコミュニケーションの方法を身につけさせる必要がある。

取組の成果（効果）『キーワード：主体性の向上による集団凝集性の涵養』

- ・活動を重ねる毎に、児童会リーダーを中心とした高学年に自分達が活動を進めていくといった自覚と責任感が高まってきた。
- ・多様な挨拶運動や工夫された児童集会等により、学級や学校集団において受容的な雰囲気が醸成され、様々な活動において児童の協力する姿が多く見られるようになった。
- ・高学年が、下学年児童の良きモデルとなって行動しようとする姿が見られるようになった。また、下学年児童は、高学年に対する親和性を強めた。

共感的人間関係肯定感をもつ児童の割合

6月	12月
90%	92%

自己肯定感をもつ児童の割合

6月	12月
90%	90%

今後の展開『キーワード：児童会活動の創造的発展』

- ・これまでの児童会活動を評価した上で今後の取組を見直し、集団凝集性や児童の自己肯定感をさらに高めることができるよう生徒指導部が計画的、系統的な指導、支援を行っていく。
- ・児童会の活動を高めるために、中学校生徒会との連携を強めていく。

他校へのアドバイス『キーワード：主体性を尊重した児童会活動』

- ・児童会リーダーの意欲やスキル等の実態を十分に把握した上で中学校と連携し、全教職員が共通理解の基に取り組むことが、児童会活動の活性化を促し、児童が集団の中で相互に高まり合う学校づくりに有効であると考える。

指定校番号	29023	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因島南小学校	校長	上野 克典	生徒指導主事	兼田 和佳
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『新設校の伝統の構築～システムの確立とリーダー性の発揮～』
取組のねらい『キーワード：課題解決システムの確立と6年生のリーダーシップ』	<ul style="list-style-type: none"> 児童会が主体的に問題を吸い上げ、それに取り組み解決するシステムを確立する。 6年生のリーダー性を育て、それを下級生に伝えるなかで自校の校風の一つとする。
身に付させたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> 課題を発見し、それを協議しながら解決していく力 児童会を中心とした6年生のリーダーシップ
取組の具体的内容『キーワード：児童会の主体的活動と6年生のリーダーシップ』	<p>児童会本部役員の公約（子供の願い）掲示（自覚化の促進）</p> <p>・誰もが楽しく、明るい学校にしたい ・元気のよい挨拶が飛び交う学校にしたい ・無言で隅々まで掃除ができる学校にしたい</p> <p>※子供の願い（児童会の公約）を具現化する支援を行いながら、 自校の伝統や校風に引き上げる。</p>
①【誰もが楽しく、明るい学校】	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活における問題点（課題）に気付かせ、それを話し合い活動を通して、解決するシステムの構築と充実
【夏季職員研修会：特別活動】	<ul style="list-style-type: none"> 夏季職員研修会で特別活動の意義や目的を職員全員で共通認識 話し合い活動のレジメ（協議用シート）及び学級会のスタイルを全学級で統一し話し合い活動を充実 <問題の発見・確認、議題の設定→解決に向けての話し合い> 各学級で話し合ったことを代表委員会（児童会）に提出
【代表員会で協議】	<p><解決に向けての話し合い→解決方法の決定→実践></p> <p>【実践1：因島南小学校いじめ防止集会】</p>

【実践2：委員会の常時活動と提起】



【実践3：児童集会でレク】



【実践4：全学級共通の係】



※実践化では、自己有用感・肯定感、意義目的を理解し役割を自覚する力、責任ある行動力の育成を目指す。

②【元気のよい挨拶が飛び交う学校】

(児童会「あいさつ発掘カードの取組」)



③【無言で隅々まで掃除ができる学校】



【6年生リーダー
シップの発揮】
(遠足)



取組の課題・創意工夫『キーワード：話し合い活動の充実』

- 取組の過程において、大切にしたことは課題の解決に向けての話し合い活動を重視したことである。課題の解決の方向性や方法を協議する活動の充実は、よりよい学校生活を創造する態度や仲間と協働して解決しようとする態度の育成に繋がった。

取組の成果（効果）『キーワード：学校生活の充足感』

- 6年生は最高学年としての役割や学校の形成者としての役割を自覚しリーダーシップを発揮することで、自尊感情を高めた。（アセス）
- 取組の結果として、「あいさつを自分から大きな声で相手に伝えている」の児童アンケート肯定的評価は、84.4%と目標値に近づき、挨拶に対する気運が高まった。また、学校全体として自分から挨拶をする児童が増えてきた。無言掃除を校風に引き上げる取組での肯定的評価は84.6%と昨年同期と比較して大幅な数値的な上昇が見られた。児童の学校生活への満足感は上昇している。

今後の展開『キーワード：自治的活動への引き上げ』

- 児童は発見した課題を解決する手順を知った段階である。今後はよりよい学校生活を仲間と共有するために生活のきまりやルールを児童自らが修正し、創り上げていく活動ができるように支援していく。

他校へのアドバイス『キーワード：意識付け・共有』

- 児童の主体性を育成するには、児童と課題を共有し、実行のための計画（方策の思考）、振り返りを意識付けることが重要である。
- 全児童による課題（取組の存在意義を含む）の共有化と児童との取組の方法の共通理解は取組を推進するうえで必要不可欠である。

指定校番号	29025	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

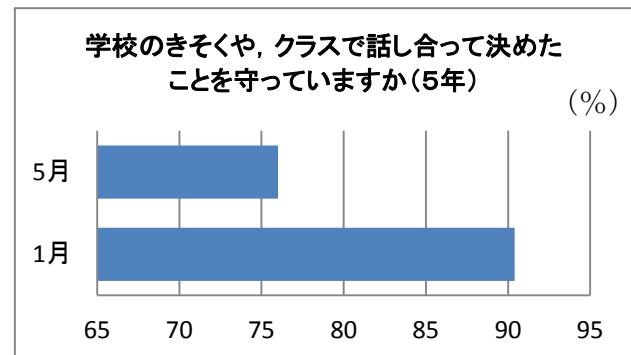
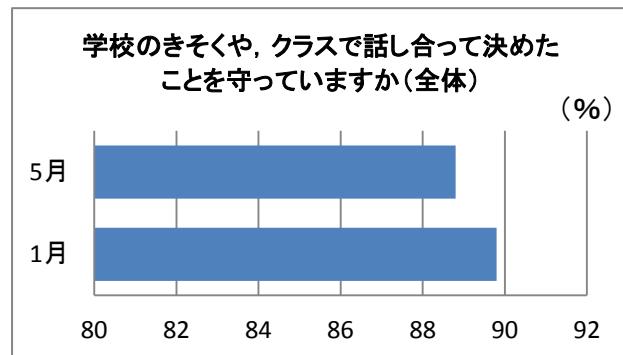
平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長	坂田 邦彦	生徒指導主事	丸山 信宏
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『代表委員会の活性化』																								
取組のねらい『キーワード リーダーの育成と風土づくり』																									
<p>○自伸会活動（児童会活動）を通して、自主的、実践的な態度を育てる。</p> <p>○よりよい学校にしていくために、課題解決に向けた取組を実践することを通して、成就感や達成感を感じさせ、リーダーの育成を図る。</p> <p>○児童自身のもてる力を發揮させ、よりよい学校にしていくとする風土を育てる。</p>																									
																									
身に付けさせたい資質・能力																									
<p>○課題をとらえ解決しようとする力</p> <p>これまでの生活や体験をもとにして、だれもが安心して過ごせる学校にするためには何ができるのか、課題を設定し追究している。</p>																									
<p>○主体性</p> <p>自伸会目標の達成に向けて積極的に取り組み、次の目標達成に向けた意欲を高めている。</p>																									
取組の具体的な内容『キーワード 児童によるよりよい学校づくり』																									
<p>○毎月の委員会活動の時間をはじめとして、執行部会（児童8人で構成）を行い、自伸会月目標を達成するための具体的な方法を話し合う。</p> <p>○執行部会で話し合ったことを、2～6年生の学級代表委員が参加する代表委員会で提起する。（1年生については、執行部の児童が各学級に行って説明する。）</p> <p>○目標達成に向けて学級ごとに点検活動等を行い、その結果を翌月の代表委員会で報告する。</p> <p>○執行部から全学級で話し合ってもらいたいことを提起したり、各学級から意見や要望を出したりする。</p>																									
																									
<p>課題提起：「安心して過ごせない」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当に悲しい。どうしてするの？ ・落書きされたら困る。 ・自分がいやなことをされたらどうか、考えてほしい。 																									
取組の課題・創意工夫『キーワード 学年独自の取組』																									
<p>○毎月の自伸会目標達成に取り組むだけでなく、学年独自の目標も設定して、学年全体の規範意識を高めようとする取組も行っている。</p> <p>○代表委員会を活性化させるためには、自伸会執行部の児童が「話し合いをリードし、まとめていく力」が不可欠である。そのためには、低学年の段階から学級活動等における話し合いにおいて、必要なスキルを身に付けさせておく必要がある。</p>																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">今週の目標：大きな声でいさつをする。 入室「おはようございます。」退室「さようなら。」</th> </tr> <tr> <th colspan="6">目標100%</th> </tr> <tr> <th>月 (19日)</th> <th>火 (20日)</th> <th>水 (21日)</th> <th>木 (22日)</th> <th>金 (23日)</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20 24</td> <td>25 25</td> <td>24 24</td> <td>21 24</td> <td>22 24</td> <td>92%</td> </tr> </tbody> </table> <p>☆必ず100%達成を！☆</p>		今週の目標：大きな声でいさつをする。 入室「おはようございます。」退室「さようなら。」						目標100%						月 (19日)	火 (20日)	水 (21日)	木 (22日)	金 (23日)	結果	20 24	25 25	24 24	21 24	22 24	92%
今週の目標：大きな声でいさつをする。 入室「おはようございます。」退室「さようなら。」																									
目標100%																									
月 (19日)	火 (20日)	水 (21日)	木 (22日)	金 (23日)	結果																				
20 24	25 25	24 24	21 24	22 24	92%																				

取組の成果（効果）『キーワード 規範意識の高まり』

○総合質問紙調査（i-check）において、「学校のきそくや、クラスで話し合って決めたことを守っていますか」という質問項目の肯定値が、5月と1月を比較すると全体で1ポイント高まっている。特に、5年生の肯定値が10ポイント以上向上している。高学年となり、「来年度は自分たちがリーダーになるんだ」という意欲が高まつたものと思われる。



今後の展望『キーワード 各委員会の参画』

○本校では、美化、保健・給食、環境、広報、図書、放送、運動、ベルマークの各委員会が活動している。今後は各委員会の委員長が代表委員会に参加することにより、活動する上で困っていることなどを呼びかける場を設けていきたい。また、各委員会の活動内容と自伸会目標を関連付けて、自伸会執行部とともに目標達成に向けた具体的な方法を話し合せ提起させるなど、活動の幅を広げていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 「自分のこと」としてとらえさせる』

○校内でさまざまなトラブルや困ったことがあると、教職員がその対応にあたることは当然のことである。しかしながら、児童自身にも「自分たちの学校をよりよくしたい」「安心して楽しい学校生活を送りたい」という意識をもたせるこも重要である。そのためには、どの児童にも自分のこととしてとらえさせるために、学級や全体での話し合い活動を充実させていきたい。



指定校番号	29026	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次小学校	校長	古本 宗久	生徒指導主事	原 勝明
-----	-----------	----	-------	--------	------

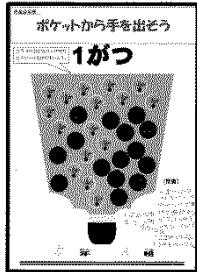
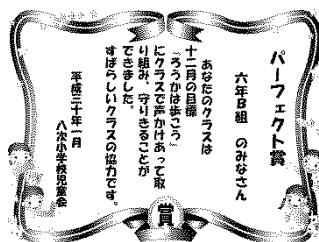
取組事例名	『学校生活をよりよくするために』
取組のねらい『キーワード 楽しい学校にしよう』	自分たちの学校実態から、改善していきたい部分を見つけさせ、取組を考えさせる。
身に付けさせたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> 表現力 自己認識力 市民性
取組の具体的内容『キーワード 今の学校を見つめて』	<p>①「気持ちのよいあいさつができる学校」にしていくために、自分たちで取り組める行動を設定する。</p> <p>⇒ 児童会執行部がめざすあいさつのモデルを児童朝会で劇化して全校児童に示す。</p> <p>⇒ 児童会執行部が呼びかけ、登校時の「あいさつ運動」を推進する。</p> <p>②月ごとの児童会目標を設定し、全クラスで取り組む。</p> <p>⇒ 各クラスにカードを配布して、クラスごとの具体的な取組を設定させる。</p> <p>⇒ 目標達成できたクラスは、児童会が表彰する。</p>
取組の課題・創意工夫『キーワード 自分たちにできること』	<p>①について</p> <p>【課題】「めざすあいさつのモデル」を具体的にすること</p> <p>【工夫】・自分たちのあいさつの日常の様子（全校）を把握させる。</p> <p>・「めざすあいさつのモデル」が分かりやすく伝わるように「劇化」して示す。</p> 

②について

【課題】マンネリ化しないように、学校実態から目標を考え、取り組ませる。

【工夫】・期間を決めて、児童会執行部に今の学校の様子から自分たちが工夫して改善できそうなことを目標設定させる。

・児童会目標に対して、各クラスで具体的な取組を考えさせ、毎日振り返らせる。



取組の成果（効果）『キーワード 前向きに』

①について

○学校評価アンケート調査の結果「進んであいさつをする」

7月…保護者（85.6%）児童（90.6%）

12月…保護者（86.7%）児童（92.6%）

・保護者も児童も1学期調査より向上している。

・朝の「あいさつ運動」で交わされるあいさつの声が大きくなった。

②について

○目標達成したクラスにはパーフェクト賞を児童会から表彰していったが、パーフェクト賞にはならなくても、各クラスで具体的な取組を考え、協力して取り組もうとするクラスが増えた。

今後の展開『キーワード 自分たちにできること』

・指導者の働きかけがなければ取組が進まないことが多い。児童の視点で、達成したかが分かりやすい課題を設定し、評価していくことで、最後まで意欲的に取り組むことができるを考える。

・児童会執行部は熱心に取り組んでいる。一部の児童の活動にならないよう、全校に広げていくための工夫を行うことが必要だと考える。

他校へのアドバイス『キーワード 任せる』

子どもたちに、どれだけ『任せて やりきらせるか』を教職員が協議し、全職員でベクトルをそろえたうえで、実践させることが大切だと考えている。

指定校番号	29027	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	西田 早苗	生徒指導主事	深田 剛史
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『さわやかあいさつ推進委員』

取組のねらい『キーワード：自主的・自発的』

本校の児童は、あいさつに対する意識が高まりつつあり、友達や先生に対してはよくあいさつをしている。しかし、校外に出ると、保護者の方や地域の方にはあいさつが十分にできていないという課題がある。

また、校内であっても、外部から来られた方にはなかなか自分からあいさつができない。さらに、あいさつをしている児童とそうでない児童が二極化している傾向にある。そのため、誰に対しても自分からあいさつができるように、本取組を実施した。

身に付させたい資質・能力

- 課題を見つけ、追究する力
- 相手に伝える力
- 自らの学びへの自信

取組の具体的内容『キーワード：役割意識・責任感』

月ごとに各学級から2名、「さわやかあいさつ推進委員」（以下、あいさつ委員）を認定する。認定方法は立候補、推薦と学級により様々である。認定されたあいさつ委員を中心に、各学級で、あいさつに関する課題について話し合い、それを解決するための目標を設定する。そして、1ヶ月の終わりにはその目標の達成度について振り返りを行う。

また、あいさつ委員に認定された児童は、朝登校したら校門の前で児童会執行部の児童とあいさつ運動を行う。あいさつ委員に認定された児童には「あいさつバッジ」を渡して、胸に付けさせる。



校門であいさつをする児童達



校内でもあいさつをしています

取組の課題・創意工夫『キーワード：責任感』

本取組の工夫点は、あいさつ委員を認定し、その児童に缶バッジを渡すことである。目に見える形で役割を意識することができ、より責任感が増す。自分が任せられている、という自信にもつながる。周りで見ている児童や保護者の方にも、あいさつ委員が誰であるかが分かる。



取組の成果（効果）『キーワード：相乗効果』

本取組によって、児童のあいさつへの意識はさらに高まっている。あいさつ委員は自分が任されたという使命感から、それまでよりも自主的・自発的にあいさつをするようになった。また、周りにいる児童も、あいさつ委員のように、あいさつ委員を見習って、という気持ちであいさつをしている。さらに、全ての学年が一緒になって取り組むので、低学年は高学年のあいさつを見ながらそれを真似し、高学年は低学年のよい手本になるようにと意識をする。このように、児童同士が意識し合い、互いにあいさつレベルを高めていくという相乗効果が得られる。

本取組を始めた後に、全児童を対象に生活アンケート（2学期の状況）を行った。そのアンケートでは、あいさつに関する項目において、自分からあいさつをしていると回答した児童が1学期よりも増えていた。

今後の展開『キーワード：学級から学年、全校児童へ』

今後の取組としては、学級で話し合っているあいさつに対する課題を学年で話し合って、学年としての目標を決めていく。そうすることで、学年で統一した指導ができると共に、児童が共通の課題をもつてあいさつをすることができる。

さらに、学年で話し合った課題を、月に1回の代表委員会で話し合い、庄原小学校としての課題をあげていく。そして、次の月にはその課題をもとに児童会が月目標を設定し、全校で取り組んでいく。

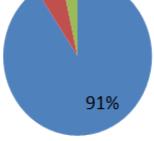
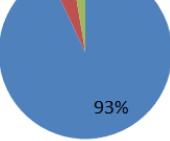
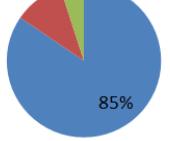
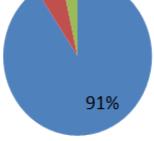
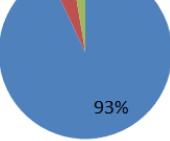
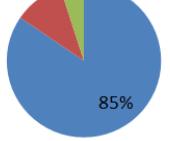
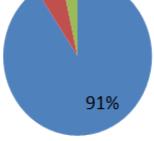
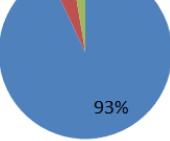
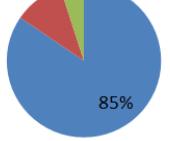
他校へのアドバイス『キーワード：評価』

本取組を進めるに当たって、あいさつ委員の意欲が持続するように、様々な方法で評価をしていく必要がある。学級の中で評価し、あいさつ運動をしている場面で評価し、全校朝会では全体で紹介する。生徒指導通信等で保護者へもがんばりを知らせ、PTAの日には玄関前のホールであいさつの様子をビデオ撮影したものを流して見ていただいた。たくさんの人々にがんばりを知ってもらうことで、児童はますます意欲をもって取り組むことができる。

指定校番号	29028	学級活動		生徒会活動	○	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	---	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立神辺中学校	校長	金田 耕治	生徒指導主事	丸尾 亮太
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『いじめSTOP集会』													
取組のねらい『キーワード 傍観者にならない』													
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会本部が主体となり「いじめ」について考える集会を企画し、神辺中学校からいじめをなくす。 ○ 生徒がいじめの構造を理解し、いじめの「傍観者」にならないために自分はどう行動すればよいかを考える活動を通して、いじめの「仲裁者」となれる生徒を育てる。 													
身に付させたい資質・能力													
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己コントロール（自己の言動に対する振り返りができる、適切に改善できる） ○ コミュニケーション（自己の対人関係や社会（集団）とのかかわりに対する振り返りができる、適切に改善できる） ○ 思いやり・感謝（他者や社会（集団）に対する自己の在り方を振り返り、適切に改善できる） 													
取組の具体的な内容『キーワード 主体的』													
<p>神辺中学校からいじめをなくすため、生徒会本部が「いじめSTOP集会」を企画立案し、実施した。</p> <p>【9月8日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会本部が、パワーポイントを使用して「いじめの4層構造」を提示し、全校生徒に「傍観者にならないこと」を訴えた。 ○ いじめの場面を3つの視点で捉えた自作の動画を提示した。また、動画の最後では、解決策として2つの例を提示した。 ○ 全校生徒は、集会後、各学級でアンケートに記入する等、振り返りを行った。アンケート結果は生徒会本部で集約した。 <p>【9月15日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会本部が全校生徒にアンケート結果を報告し、決意表明を行った。 													
取組の課題・創意工夫 『キーワード つなぐ』													
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「いじめSTOP集会」を、日常的な活動に十分つなげることができていない。 ○ 本年度は計画や準備のために2学期の実施になった。年度初めに実現することができない。 <p>【創意工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度、他校の生徒会と交流する中で、生徒自らがいじめを未然に防止するため行動することの必要性に気づき、本年度の「いじめSTOP集会」の企画立案・実施につながった。 ○ 動画の作成では、見る人はいじめについて自分事として考えることができるように、いじめの現場を「全体的な視点」「加害者の視点」「被害者の視点」の3つの視点で編集した。 ○ 動画の中で、「傍観者」にならないための行動例を示した。 													
取組の成果（効果）『キーワード 考える』													
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校生徒が、生徒会本部の作成した動画を集中して見る等、真剣に集会に臨むことができた。事後のアンケートでは、多くの生徒が「いじめについて考える事ができた」等、肯定的な回答をしている。 													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p>いじめについて考える事ができた</p> <p>■肯定的評価 ■どちらでもない ■否定的評価</p>  <table border="1" style="margin-top: 5px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>91%</td> <td>6%</td> <td>3%</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p>「いじめは絶対に許されない」という考えを持った</p> <p>■肯定的評価 ■どちらでもない ■否定的評価</p>  <table border="1" style="margin-top: 5px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>93%</td> <td>4%</td> <td>3%</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p>「傍観者も許されない」という考えを持った</p> <p>■肯定的評価 ■どちらでもない ■否定的評価</p>  <table border="1" style="margin-top: 5px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>85%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>		<p>いじめについて考える事ができた</p> <p>■肯定的評価 ■どちらでもない ■否定的評価</p>  <table border="1" style="margin-top: 5px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>91%</td> <td>6%</td> <td>3%</td> </tr> </table>	91%	6%	3%	<p>「いじめは絶対に許されない」という考えを持った</p> <p>■肯定的評価 ■どちらでもない ■否定的評価</p>  <table border="1" style="margin-top: 5px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>93%</td> <td>4%</td> <td>3%</td> </tr> </table>	93%	4%	3%	<p>「傍観者も許されない」という考えを持った</p> <p>■肯定的評価 ■どちらでもない ■否定的評価</p>  <table border="1" style="margin-top: 5px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>85%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> </tr> </table>	85%	10%	5%
<p>いじめについて考える事ができた</p> <p>■肯定的評価 ■どちらでもない ■否定的評価</p>  <table border="1" style="margin-top: 5px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>91%</td> <td>6%</td> <td>3%</td> </tr> </table>	91%	6%	3%	<p>「いじめは絶対に許されない」という考えを持った</p> <p>■肯定的評価 ■どちらでもない ■否定的評価</p>  <table border="1" style="margin-top: 5px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>93%</td> <td>4%</td> <td>3%</td> </tr> </table>	93%	4%	3%	<p>「傍観者も許されない」という考えを持った</p> <p>■肯定的評価 ■どちらでもない ■否定的評価</p>  <table border="1" style="margin-top: 5px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>85%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> </tr> </table>	85%	10%	5%		
91%	6%	3%											
93%	4%	3%											
85%	10%	5%											
今後の展開『キーワード 継続』													
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会主体による「いじめSTOP集会」を、来年度も継続して実施する。次回は、加害者に焦点をあてた集会を計画している。 ○ 「いじめSTOP集会」の企画立案・実施を通して、いじめを未然に防止する日常的な活動として、あいさつの大切さに気づくことができた。現在のあいさつ運動を、さらに充実させる。 ○ 道徳等の授業や学校生活の中で、生徒がいじめを自分事として考えるような取組を仕組んでいく。 													

他校へのアドバイス『キーワード 気づく』

「平成29年度全国いじめ問題子供サミット」に生徒会本部役員3名が参加し、「いじめSTOP集会」についてポスターセッションで発表した。参加した生徒は、他の参加者との意見交換を通して、加害者の背景やいじめ未然防止のための日常的な取組等について、気づくことができた。

広島県福山市立神辺中学校 広島県福山市神辺町字湯野 1313 番地 電話 084-962-0400 FAX 084-962-0339



神辺中学校生徒会のいじめ防止策は、
傍観者にならないこと。
そして、仲裁者になること。



私たち生徒会は、このことを考えるために「いじめSTOP集会」を開きました。

いじめの構造

見て見ぬふりをする子
面白がっている子
いじめられている子
いじめのされている子

傍観者
(ぼうくんしゃ)

傍観者の思い

「いじめは自分に
関係ない」「自分が
いじめられたくない」と
思っている
人が多いかも
しれません。

いじめでいる人からみると
・みんな止めないし
・周囲の人も済しそうだ
からいいじゃん

いじめでいる人からみると
・誰も手方を
してられない
・周囲の人もいじめている
人と同じ気持ちにな
らんでも…

いじめの構造

見て見ぬふりをする子
面白がっている子
いじめられている子
いじめのされている子

行動を起こす
傍観者
(ぼうくんしゃ)

傍観者はいじめを認めている

3つの視点

起こっている事実をしっかりと見つめることが大切です。私たちの身近な出来事を描いた動画を作成しました。

① 全体の様子
→この動画だけでは、大切なことに気づきにくくないと考えました。

② 加害者のしている行為の「酷さ」を描きました。→加害行為の人としての恥ずかしさを感じてほしい。

③ 被害者の「思い」を描きました。→被害者のその時の思いを感じてほしい。共感してほしい。

いじめが始まる

周りは見ているだけ

おもしろ半分で、
言いがかりをつける

怖い、助けて!!

いじめ STOP 集会

◆ 1日目の流れ (9月8日)

- パワーポイントのスライドを使って「いじめの4層構造」を確認した
- 「傍観者にならないこと」を訴えた
- 動画で身近ないじめの場面を3つ視点から提示した
- 動画で解決策として2つの例を提示した
- 振り返り → 生徒会本部で整理した

◆ 2日目の流れ (一週間後 9月15日)

- 整理した振り返りを報告した
- 決意表明をした

工夫したこと

- 私たちの身近に起こっているいじめを、全体から見るだけでなく、「加害者からの視点」と「被害者からの視点」の双方から見ようとしたこと
- 傍観者にならないための行動例を示したこと

解決策②

気を引いて、その間にフォロー

こっちに気を引くぞ!!

解決策①

直接、加害者に言う

やめなよ!!

見てるだけの傍観者から、
一歩踏み出してみませんか?

あなたが勇気を出して「傍観者」から一歩進むことで、
助けられる人がいるかもしれません!!

生徒会で確認をする機会をもつ

みんながしっかりと考
えてくれたことがう
れしいです。後輩に
も引き継いでもら
たいです。

いじめについて考
える事ができた

「いじめは絶対に許
されない」という考
えを持てた

「傍観者も許され
ない」という考
えを持てた

つながる

先生は、この動画の続きについて、道徳で授業をしてくださいました。

BULLYING STOPS HERE!

大丈夫か!!

もう1人が近寄って!!

集まってきたぞ!!

おいで、実家か?

※全国いじめ問題子供サミットで使用したポスター

指定校番号	29029	学級活動		生徒会活動	<input checked="" type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	----------------------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立済美中学校	校長	小川 誠	生徒指導主事	山口 裕三
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『朝のあいさつ運動と清掃ボランティア』

取組のねらい『キーワード あいさつと環境美化へのこだわり』

特別活動は、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることを目標としている。本校では、望ましい集団づくりに向け、生徒会活動の充実を図り、生徒が主体的に考えて行動すること及び地域社会へ貢献できるボランティア活動を行うことを重点とした。よりよい生活と人間関係を築くことの基礎は「あいさつ等の礼節」であると考え、毎朝のあいさつ運動と環境を整えるための清掃・美化活動ボランティアの取組を進めた。

このように、生徒会活動を充実させ、学校全体の教育活動として計画的に展開することを通して、生徒の望ましい成長を目指した。

身に付させたい資質・能力

- 集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする態度
- 望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度



取組の具体的内容『キーワード あいさつと環境美化について生徒が考える』

豊かな充実した学校生活を基盤として、生徒一人一人が生徒会の一員として自覚と責任を持ち、共に協力・信頼し支え合える人間関係を築くために、あいさつ運動の充実を図った。

1学期は、月2回のあいさつ運動を生徒会執行部が中心となり行った。2学期からは、生徒全員が生徒会の一員として参加する「毎日のあいさつ運動」へ変更し、すべての委員会と部活が参加することにした。生徒が参加する曜日を生徒会が奇数週偶数週で担当を決める等、生徒が主体的に取り組んだ。

また、年2回、生徒会執行部の生徒が中学校区の小学校へ出向いて小学生と一緒にあいさつ運動を行い、異年齢集団との交流に取り組んだ。

校内の環境美化活動としては、各部活が中心となり、安全に活動できる環境づくりを目指してグランド整備等を年2回実施した。本校は山の斜面に隣接している立地であり、校舎周辺には大量の落ち葉があるので、すべての部活が参加した側溝の泥上げや落ち葉拾い等の清掃活動も実施した。

また、地域が主催した清掃や夏祭りのボランティア活動を生徒へ案内し、参加する生徒を募集した。2学期末までに地域主催の清掃等は7回あり、延べ人数245名の生徒が参加した。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 気持ちのいいあいさつとは・・・、環境を整えると何かが起こる』

現在、生徒会を中心とした「毎朝のあいさつ運動」は定着し、多くの生徒が参加することができている。しかし、PTA役員による登下校指導の報告から、すべての生徒が元気で気持ちのいいあいさつができている実態ではないことが明らかになっており、あいさつのレベルが課題となっている。

望ましい人間関係は気持ちのいいあいさつから始まるということを、生徒会から全校へ呼びかけ、最高のあいさつのモデルとして「立ち止まり、相手を意識し、礼をして、大きな声で、明るくあいさつをすること」を目標に、あいさつ運動を展開する必要がある。

環境を整える美化活動については、1学期の校内美化活動と2学期の校外清掃活動を計画することで、生徒自身が、周りの環境を整えることが安心・安全な学校生活につながることに気づき、普段の掃除時間についても考えるようになってきていることから、年間を通して美化活動を計画的に進めることが必要である。



また、地域が主催する清掃ボランティア活動については、実人数を増やせるように、生徒募集の案内をより早い時期から周知できるようにする。

取組の成果（効果）『キーワード 明るく元気な生徒』

生徒会の各種専門委員会や各部活による「毎朝のあいさつ運動」に、多くの生徒が参加し、登校する生徒にあいさつをするようになった。定期的に本校へ来られる方は「最近は明るくあいさつをする生徒が増えた」と話された。この話を全校集会でタイムリーに生徒へ伝え、肯定的評価をすることで、生徒の「毎朝のあいさつ運動」に対する意欲を高めることができた。

地域の清掃活動ボランティアでは、地域の方から「生徒が一生懸命に動いている姿に感動した」との声が学校に寄せられた。今年度は全校生徒の63%が地域のボランティア活動に参加した。



これらの「地域を大切に思い、主体的に行動している生徒の行い」に対して、福山市教育委員会から福山学校元気大賞「あなたが素晴らしい」部門の表彰を受けることができた。

今後の展開『キーワード 生徒がより主体的に企画する生徒会活動』

今後は、生徒会がより主体的に「毎朝のあいさつ運動」や環境美化活動の企画を立案する。生徒会執行部が、最高のあいさつを実践するモデルとして自主的に行動することや、校内環境美化及び校外清掃ボランティア活動への積極的な参加を全校生徒に呼び掛ける取組を進める。

また、生徒会が主体となつたいじめ未然防止の取組も計画している。生徒自身が、本校のいじめの実態等、学校の状況を真剣に受け止め、「いじめを絶対許さない」という立場に立ち、どのような活動が必要であるか対話を重ね、活動の方向性を考えるようにしたい。

他校へのアドバイス『キーワード 継続は習慣を定着させる』

「毎朝のあいさつ運動」を継続してきたことで、生徒は「奇数週の何曜日がどの専門委員会、偶数週の何曜日がどの部活である」と自覚するようになった。継続してきたことで、あいさつ運動の習慣が定着した。

また、環境美化活動に取り組んで「きれいになった」と実感したり、頑張ったことを肯定的に評価されたりすることで、生徒のあいさつや環境美化への意欲がさらに高まった。生徒の活動を肯定的に評価することで、特別活動の内容の充実とともに、生徒の自己肯定感を醸成することができる。

指定校番号	29034	学級活動		生徒会活動	<input checked="" type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	----------------------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長	小田 大介	生徒指導主事	大原 厚彦
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『いのち輝く学校をめざす生徒会活動』
取組のねらい『生命尊重』	
<p>◎自分の命はもちろんのこと、他人の命も大切にする気持ちをもち続けることができる生徒を育てる。</p> <p>◎いのち輝く（自分を輝かす）学校生活を送ることが出来る生徒を育てる。</p>	
身に付させたい資質・能力	
<p>◎生徒の自治能力。</p> <p>◎自分のことを大切にし、他者のことを大切にする力。</p> <p>◎お互いを認め合い、互いの良さを生かす力。</p>	
取組の具体的内容『ハートプロジェクト』	
<p>◎平成27年度の生徒総会で決定し、取組が始まる。</p> <p>◎毎月23日に9クラスが順番に全校生徒に向けて「生命尊重」をテーマに発表する。</p> <p>◎内容はクラスの話し合いで決定する。（道徳の授業で学んだ内容・感想、伝えたいことや訴えたいこと）</p> <p>◎生徒朝会の場で発表したり、朝読書の時間を使って校内放送で発表したりする。</p>	
取組の課題・創意工夫『日頃も輝く』	
<p>◎「イチガン挨拶」「ヤリキリ清掃」・・・プライドバッジでやる気を高める。</p> <p>◎「ユニティカップ」・・・当たり前のことが当たり前にできる。</p> <p>日頃が充実しているクラスを表彰。（各委員会の決めた評価項目を数値化）</p>	
 	
取組の成果（効果）『自己肯定感の変化を検証』	
<p>◎「あなたは自分の命を大切にしていますか」</p> <p>質問に対して「大切にしている」85%</p> <p>◎「あなたは周りの人を大切にしていますか」</p> <p>質問に対して「大切にしている」91%</p> <p>◎「あなたの学校生活は輝いていますか」</p> <p>質問に対して「輝いている」75%</p>	
今後の展開『取組の継承』	
<p>◎取組を上級生から下級生へ受けついでいく様に</p> <p>サイクルを構築する必要があるので、縦割り</p> <p>活動を活用したり、小中連携を充実させていく。</p> <p>◎教職員が変わっても、活動が継承される様に、</p> <p>組織的に取り組む。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>OC活動(小中連携)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>小6の掃除体験</p> </div> </div>	
他校へのアドバイス『最高のモデルイメージ』	
<p>◎めざす姿を明確にし、「掃除指導」や「授業の受け方」などを生徒会が寸劇や映像を工夫して、生徒へ呼びかけを行っている。生徒が行動の具体的なイメージを持つことができる。</p>	

指定校番号	29035	学級活動		生徒会活動	<input checked="" type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	----------------------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立中央中学校	校長	左田和幸	生徒指導主事	岡真吾
-----	------------	----	------	--------	-----

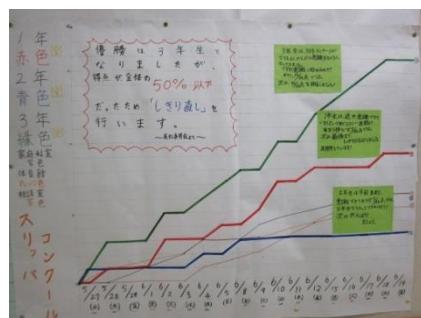
取組事例名	『生徒の主体的な活動を通し自己指導能力を育成する特別活動』				
取組のねらい『キーワード 生徒会活動を通した主体的な活動』					
○行事等において、1年間を通して縦割り活動を取り入れ、生徒自らが企画、運営に携わることで、生徒の主体性を高めるとともに学校等への所属感や仲間同士の連帯感を育む。また、活動後等に、異年齢集団の中でお互いのよさを認め合う活動を仕組むことで、生徒同士のより好ましい人間関係を構築する。					
身に付させたい資質・能力					
○主体性 ○学校、学年、学級への所属感や連帯感 ○自己指導能力の向上					
取組の具体的内容『キーワード 生徒会を中心とした縦割り活動』					
○生徒会を中心とした縦割り活動 ・各団にわかれ1年間の目標、スローガンを決定させ、結団式で発表させた。 ・新入生歓迎遠足を実施した。 今年度から、生徒会執行部を中心に3年生が遠足の計画を考え、実施することで学級や学年を超えた生徒相互の交流を図ることができた。 生徒会中心のレクリエーションでは、全生徒、全教職員が一緒に取り組んだことで、学校全体の連帯感が高まり、より好ましい人間関係を深めることにつながった。					
			(遠足スタート)	(生徒会レクレーション)	(3年を中心に各団の校歌練習)
・体育大会や文化祭でも縦割り活動を取り入れた。 体育大会での縦割り活動は3年目を迎えるが、生徒自らが主体的に取り組む姿が伝統になってきた。 特に今年の全校ダンスは、男女関係なく参加した生徒全員が笑顔で踊ることができた。3年生を中心としたリーダーの取組や声掛けが、とても良い雰囲気を作り出した。					
					

取組の課題・創意工夫『キーワード リーダーの育成』

- 各取組を教員主体から生徒主体へ変更していくために、リーダーの育成が不可欠だった。生徒会執行部を中心とした3年生のリーダーや各学級にいるリーダー自らが取組を計画し、実施していく流れを作った。また、小グループでも進んで取組ができるようにミドルリーダーの育成にも力を入れた。
- 生徒会執行部については、週1回給食の時間を生徒会ミーティングとして取組の計画や反省を行なった。その都度、教員が学校のリーダーとして必要な資質能力について話をした。その結果、生徒会執行部のアイデアにより、行事だけではなく委員会活動にも縦割り活動を取り入れるなどして委員会活動が活性化した。
- 課題としては、各委員会などで取組を行ったが、その結果や反省がその後に活かされていないことがあった。また、評価をしていくうえで、どう状況が改善されてどのように良くなつていったかが評価ににくいものもあった。



(生徒会リーダー研修)



(各委員会の縦割り活動)



取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感の高まり』

- 1年を通して縦割り活動に取り組んできたことで、生徒間の信頼関係も深まり、学校への所属感や連帯感も高まつたことが生徒の姿やアンケートから見てとれた。
- 生徒意識アンケートでも、『学校行事・生徒会行事に満足している』という項目に対し、肯定的な回答が91.5%と初めて90%超える満足度となった。
- 生徒自らが行事等を企画、運営していくことで、ルールを守ろうとする生徒が増え、生徒間で注意しあう姿が見られた。また、行事後には多くの生徒が「自分たちでやりきった」という達成感を味わうことができた。

今後の展開『キーワード 中央中伝統の深化』

- 生徒会執行部を中心に、活動を主体的に進められるようになってきた。しかし、現状に満足することなく各行事や取組を充実させるとともに、学校への所属感を深め、よりよい校風の確立と学校の伝統の継承、発展を今後も目指していく。特に、委員会活動では各リーダーが課題解決のために取組を実践しているが、改善や効果が不十分な取組もあることから、今年以上に深まるように取り組んでいく。

他校へのアドバイス『キーワード 教職員の情報の共有と行動の一元化』

- どんな取組を行なっていくにも、教職員の共通認識と行動の一元化が重要である。年間を通して行なう取組では、年に3回から4回は研修の時間をとり、生徒・教職員間で繰り返して確認することが必要である。

別紙様式2

指定校番号	29038	学級活動		児童会・生徒会活動	<input checked="" type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-----------	----------------------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東中学校	校長	田浦由紀夫	生徒指導主事	京谷 隆宏
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『命の大切さを考える日』
取組のねらい『キーワード いじめの未然防止』	
	この取組を行うことにより、生徒間トラブルの抑止となる啓発活動とする。また、これらの取組により、社会性の構築につなげ、より良い人間関係づくりの基盤となるものを育成する。
身に付けさせたい資質・能力	生徒自らが、人を思いやり行動できる気持ちになり、人を大切に思い接することのできる態度を育てたい。そのために、相手を傷つけたり、嫌な思いをさせたりした自身の言動に気づかせ、改善させていく取組を行っていく。
取組の具体的内容『キーワード 心に訴える』	全校集会で「いじめ撲滅宣言」「人権作文の朗読」「生徒会執行部からのメッセージ」により、いじめがいかに人の心と体を傷つけるか、生徒会執行部自身の辛い思いをした経験等を訴え、相手の立場になっての関わりを伝えた。
	
その後、学級でクラススローガンを決定し、そのスローガンをもとに学級旗を作成	
	
後日、集会で発表（発表後、一年間教室に掲示）	
取組の課題・創意工夫『キーワード 各取組をつなげる』	
1学期末に自分の言動を振り返らせ、「いじめ」に関しての自己評価を行った。自身の振り返りでは、大変前向きな回答をしている生徒が多く、友達との関係性について失言を繰り返す友人に対してのサポートに関連するものが数多く書かれていた。	
しかし、一部の生徒の中に、人に対しての誹謗中傷があつたり、そのことで辛い思いをしている生徒もいる。	

取組の成果（効果）『キーワード 生徒会執行部からの発信』

2学期に入って生徒会執行部から提案があり「いじめ防止」に向けて『平和集会』を行った。



「原爆の子の像」の
モデルとなつた
佐々木禎子さん
の同級生（語り部）

5月の「命の大切さを考える集会」から定期的に行われた取組により、生徒自身の中に、友人関係の構築といった社会性が培われてきた。継続的に訴えることにより、生徒が行動を振り返りやすくなつた。また、全体での取組をうけて、各学級や学年で取組の「つながり」も見られるようになつた。

今後の展望『キーワード 自分たちが今後できること』

5月の「命の大切さを考える集会」から「1学期の振り返り」、10月には「平和集会」、12月には「いじめ防止について考える集会」といったように『いじめ防止』をテーマに生徒会執行部を中心に取組をつなげてきた。また、年に3回のいじめに関するアンケートも実施している。次回のアンケート等も踏まえ、今年度取り組んできた内容を自分の生活に置き換えさせ実践できる生徒を育てていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 生徒会執行部の育成』

生徒会の執行部を育てることによって、生徒会が学校のリーダーとして活躍し、さまざまな事項に對して推進していくことができました。生徒会担当者が執行部の意見をうまく吸い上げアレンジしながら独自のものを作り上げていくといった循環が、本校生徒会執行部のスキルアップに大きく役立つています。

児童会・生徒会活動

異年齢集団による交流

児童会・生徒会活動

異年齢集団による交流

指定校番号	29007	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	甘日市市立大野東小学校	校長	光廣 敏樹	生徒指導主事	前田 真一
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『全校児童による縦割り班活動』
取組のねらい『キーワード 思いやり・導き合い』	<p>○日常的に異年齢集団での関わりの場をもたせることで、「思いやり」「導き合い」などの心情を高めるとともに、縦班を使った集団作りとリーダーの育成を実践する。</p> <p>○学級集団の人間関係を離れて、新しい人間関係を作り、学級集団以外の居場所と活躍の場をもたせる。</p>
身に付させたい資質・能力	<p>○役割を分担して協力して活動し、相互評価することで、責任感と自己有用感の高まりを目指す。</p> <p>○異年齢での教え合いや関わり合いを通して、円滑な人間関係づくりを行う。</p> <p>○6年生は、学校のリーダーとしての資質を養う。</p>
取組の具体的内容『キーワード 清掃活動・長縄チャレンジ』	<p>①各学級20班に分け、同じ組集団で1~6年生混在の異年齢集団を作る。全校で80班を作る。班編成に於いては各児童の実態を考慮して担任が行い、組集団の担任で調整する。</p> <p>②校内の掃除場所を80ヶ所に分け、2ヶ月周期で担当場所を換えながら、日常的に掃除を行う。掃除後は班長を中心に反省会を行い、振り返りと、その日に頑張った児童をMVPとして選出する。掃除場所交代時にMVP表彰を朝会で行う。</p> <p>③縦班活動の一環として長縄チャレンジ大会を企画し、班ごとに練習、記録挑戦を行う。(冬期)</p> <p>④縦班掃除の最終日に、6年生へ班員が感謝のメッセージカードを作って送る。</p>
取組の課題・創意工夫『キーワード 多人数円滑な活動を目指して』	<p>○児童数が約800人のために班の数が80班と多く、職員が複数班を担当することとなる。自主的に活動が行えるように、掃除担当場所が代わる際には、各場所でオリエンテーションを行った。</p> <p>○6学年担任を中心に、異年齢集団のリーダーとしての意識付けを常に行つた。(6年生)</p> <p>○長縄チャレンジは、全部の班で一度に行うことは難しいので、日にちをずらし、各組集団別に行つた。</p>
取組の成果(効果)『キーワード 明確な役割と有用感』	<p>○6年生には班長としての自覚と責任が育ち、下の学年を思いやる気持ちや、しっかりと掃除をやり遂げようとする態度が見られた。上の学年が下の学年に教えたり、手伝ったりし、また、下の学年も頼ったりしながら、相互に関わり合いながら活動する姿が見られた。自分の役割が明らかであることから責任感が生まれ、異年齢の子どもたちの関わり合いの中でやり遂げ、評価されることを続けていく中で、自己有用感の高まりにつながった。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>学校評価アンケート結果 (1学期→2学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのためになることを進んで行う···85.8%→86% ・自分にはよいところがある。···82.8%→81% ・自分のよさは周りから認められている。···69%→73% ・黙って掃除をする。···91.3%→92% </div>	



役割を意識した掃除



相互評価による認め合い



異学年での教え合い

今後の展開『キーワード 日常的な活動』

○日常的な取組が掃除活動に限定されたので、学校行事や児童会活動の場面で、縦班を生かした取組を計画・実践していく。

他校へのアドバイス『キーワード リーダーの育成』

○6年生の班長としての自覚とやる気をいかに高めていくか、それをサポートする5年生との関係をどのようにつくるかが、班全体の雰囲気や活動の様子に関わってくると考えられる。

別紙様式2

指定校番号	29019	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長	小田原 まゆみ	生徒指導主事	藤田 光洋
-----	-----------	----	---------	--------	-------

取組事例名 『児童が主体的にかかわる生徒指導の取組』

取組のねらい『キーワード: 共感的人間関係づくり』

児童会活動において、児童会行事や委員会活動を児童が主体的にかかわる中で、積極的な生徒指導の取組を組み込んでいく。その取組を通して、共感的な人間関係づくりを目指していく。

身に付させたい資質・能力

集団としては、自治能力を養う。

個人としては、自己指導力の向上を目指す。特に自主・自立の力を中心として、創造性や判断力・表現力を養うと共に、社会性やコミュニケーション能力・協調性を養う。

取組の具体的な内容『キーワード: 子供の意見や主体的な行動を尊重して』

○1年生を迎える会と6年生によるお世話

・児童会が計画・運営する

「1年生を迎える会」

・年間を通して、1年生に

かかわる6年生



○児童が主体となる運動会と振り返りの紹介

・児童が目標を立て、盛り

上げる「運動会」



○「あったか言葉」「友だちよいとこノート」月間と「栗原しぐさポスト」の実施

・栗原しぐさの具体的な

行動としての一日一善

・他学年・他学級のよい

行動を紹介する「栗原し

ぐさポスト」



○児童会執行部と栗原中学校生徒会との交流

・お互いの活動紹介

・中学生からのアドバイス



○児童会まつりと学年間交流遊び <長縄大会>



<手つなぎ鬼>



取組の課題・創意工夫『キーワード：先生の率先垂範』

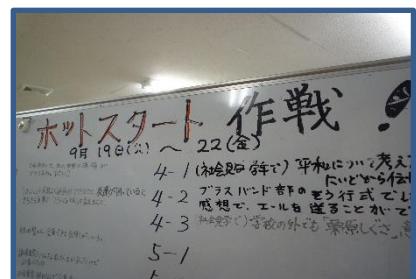
今年度の校内研修の中で、積極的な生徒指導を展開していくには、指導者自らの姿勢や態度・行動が極めて重要であることを互いに確認し、児童に対する「育みの行動」が何よりも大切であることを学んだ。特別支援教育の視点から、個の課題に適応した指導や対応を大事にしながら、自己存在感や自己肯定感を高める声かけや行動を教職員が率先して行う次のような作戦を展開してきた。

○朝1番の「ホット・スタート作戦」

- 1日のスタートは、先生の温かい言葉がけから出発しようという作戦で、職員室のホワイトボードに紹介し、全体共有した。

○帰りの会で「ホット・エンド作戦」

- 帰りの会で、児童同士のよいところ見つけだけではなく、先生から5人以上の児童を温かい言葉がけで賞賛しようという作戦を1月に提起した。



○構成的グループエンカウンターの研修と実施

- 共感的人間関係づくりとして、夏季には構成的グループエンカウンターの研修を行い、9月より計画的に実施してきた。(月初めの学級会に組み込む。)

取組の成果（効果）『キーワード：学級満足度アップ！』

児童実態をとらえるために、今年度は6月と1月にQ-U調査を実施した。その中で、学級満足度を比較してみると、次のような結果となった。

- 「承認得点」の向上した学級 ・・・・・・・ 14学級／18学級 (78%)
- 「被侵害得点」の減少した学級 ・・・・・・・ 16学級／18学級 (89%)
- 「学級満足度」の向上した児童の割合 ・・・・・・・ 全校児童の 79.2%

今後の展開『キーワード：6年生ありがとう！』

今年度も2ヶ月足らずの中で、まとめの時期として、縦割り班活動を中心として、6年生に対する感謝とお礼の気持ちを込めた活動を仕組んでいく。

最終的には、「6年生を送る会」において、全校児童が互いの良さに気づき、思い出に残る児童会行事となるように工夫し盛り上げていく。

他校へのアドバイス『キーワード：やっぱり栗原しぐさ！』

本校には、10年前から期待する児童像として「栗原しぐさ」の実践がある。

「 時を守り 場を清め 礼を正す 」という人間像を追求し、常に相手意識を持って行動することが栗子の目指す目標としました。このことは、あらゆる場と空間で子供たちが自らの姿や行動の指針が明確になり、落ち着いた学校生活が送られ、自分が所属する学級への満足度も向上していくと考える。

指定校番号	29021	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和小学校	校長	津田 秀司	生徒指導主事	高岡 和也
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『チャレンジ・ランキング大会』

取組のねらい『自発的かつ自主的・自治的活動』

- 異学年集団の中で仲良く、協力し、信頼し支え合う。
- 集団の一員として自分の役割を果たす。
- 学校生活を楽しく豊かにするための活動を、自発的かつ自主的・自治的にやりきる。

身に付させたい資質・能力

- よりよい人間関係を築く力
- 集団の一員としての望ましい態度
- 自治的な能力や社会性

取組の具体的内容『異学年交流』

- 縦割り班（全20班）ごとに校内オリエンテーリングを行う。

- 開会式** ①班ごとに体育館に整列
②はじめの言葉
③ルール説明



- ⑤各班とも、高学年を中心に、ルールを守って静かに待つ。



- ④オリエンテーリング**
6年生の考えた10種類（ジェスチャーゲーム・カンジャム・バスケットボール・ボーリング・玉入れ・イントロドン・聖徳太子・どれだけ乗れるかな・宝探し・ストラックアウト）のゲームが用意されている教室を回り、得点を積み重ねていく。



どれだけ乗れるか



聖徳太子



ボーリング

取組の課題・創意工夫『自主的な計画・準備・運営・振り返り』

○児童会・6年生が中心になって計画・準備・運営させる等、自主性を大切にする。

①児童会役員から「チャレンジ・ランキング大会」について提案する。

(代表委員会)

②児童会役員が6年生全員に協力を依頼する。

・係・役割分担の決定をする。

・ルールを決め、全児童に周知し、自分たちで守らせる。

・ゲーム等の準備物作りをする。

○5年生がオリエンテーリング時のサポートをする。

○児童自身が活動の評価をし、各班に手作りの賞状を渡す。

○低学年から6年生へ感謝の手紙を書かせる。



取組の成果(効果)『自己存在感の高まり』

○一人一人の思いや願いを大切にして取り組んだことで、自己存在感を高めることができた。

○協力し助け合って取り組んだり、互いのよさを認め合ったりすることで、共感的な人間関係を育てることができた。

○内容や役割分担、ルール作りなど自己決定の場や機会を多く設定することができた。

○自己肯定感が高まった。

○高学年(6年生・5年生)一人一人が役割を分担し、協力して活動することができた。

○上級生が下級生のことを思いやり、下級生が上級生をよい手本にしながら、楽しく活動することができた。

○自分たちで決めたルールを守ることで規範意識が高まった。

○高学年としての責任や自覚、リーダーシップ等を、6年生から5年生に引き継ぐことができた。

チャレンジ・ランキング大会後アンケート集計 6年・5年(77人)

1 そう思う 2 ややそう思う 3 ややそう思わない 4 そう思わない

項目	1	2	3	4	
①(6年生)先生の手をかりずに、自分たちで考え計画したチャレンジ・ランキング大会をすることができた。(5年生)来年も、自分たちで考え計画して楽しいチャレンジ・ランキング大会にしようと思った。	人数 %	54 70	20 26	3 4	0 0
②一人一人の思いやねがいを大切にしたチャレンジ・ランキング大会をすることができた。	人数 %	42 54	29 38	4 5	2 3
③高学年(6年生・5年生)一人一人が役割を分担して、協力して活動することができた。	人数 %	51 66	19 25	7 9	0 0
④高学年(6年生・5年生)が手本となり、低中学年(1~4年生)を思いやりながら活動することができた。	人数 %	50 65	25 32	2 3	0 0
⑤チャレンジ・ランキング大会中のルールは自分たちで決め、低中学年(1~4年生)に守らせることができた。	人数 %	38 50	34 44	5 6	0 0
⑥高学年としての責任や自覚、リーダーシップを6年生から5年生に引きつぐことができた。	人数 %	49 64	23 30	5 6	0 0
⑦チャレンジ・ランキング大会後、あなた自身に達成感(やり切ったぞ)や満足感(やってよかった)がわいてきた。	人数 %	55 72	17 22	4 5	1 1
⑧この大会を通して、あなた自身が成長したと思いますか。	人数 %	54 71	18 23	5 6	0 0

今後の展開『広げる』

○チャレンジ・ランキング大会で身に付いた力を他教科や日頃の生活に広げていく。

○特別活動だけでなく、教科・総合的な学習の時間・道徳等の授業においても、主体的な学びを構成し、児童一人一人の自己肯定感を高めていく。

他校へのアドバイス『年間を通した取組』

○特別活動や学校行事が、年間を通して生徒指導の三機能を育むための取組になっていることが大切である。

4月:遠足(1年生を迎える会)→5月:運動会(応援合戦)→8月:宿泊体験学習(体験学習)→9月:修学旅行・社会見学(校外学習)→10月:学習発表会(全校合唱)→11月:社会貢献活動(地区児童会)→12月:チャレンジ・ランキング大会(オリエンテーリング)→3月:6年生を送る会(各学年の発表)

指定校番号	29039	学級活動		生徒会活動	<input checked="" type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	----------------------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立七尾中学校	校長	藤井 哲也	生徒指導主事	志茂 孝昭
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『ほめほめの木』
取組のねらい『キーワード 認め合う』	
○子ども同士の関わりを意図的に設定し、認め合える集団づくりを通して子どもの「自己有用感」を高め、いじめ等の問題行動の未然防止や学ぶ意欲へと繋げていく取組として、生徒間や教職員による肯定的評価活動を活発に行う。そのことを通してお互いを高め合うこと、信頼関係を築くことにつなげ、生徒相互及び教職員と生徒の共感的、親和的な人間関係づくりを促進する。	
身に付させたい資質・能力	
○人とのかかわりを大切にする教育活動を様々な教育活動で実践していく中で、お互いのよさに気づき、伝え合う取組を通して、自己だけでなく他者を尊重しあい互いを伸長し合うことができる。	
取組の具体的内容『キーワード 委員会活動を通して全体に周知』	
<p>○ほめほめカードを個人や学年、クラス対象に書く。 (定期的な学級委員会の呼びかけや各行事等を通して行う)</p> <p>○各クラスに配付された模造紙に、ほめほめの木(カードを貼る木)を生徒が描く。 (4月○日に模造紙配付、4月○日までに準備を完了する)</p> <p>○個人のほめほめカードを貼る台紙(レモン：美術部へ依頼)をほめほめの木に貼る。</p> <p>○個人に書かれたほめほめカードを台紙に貼る(各クラスで貼る係、担当を決める)。</p>	
取組の課題・創意工夫『キーワード かかわる場と承認の場づくり』	
<p>○学校行事との関連<BIG ほめほめカード(異学年交流)></p> <p>体育祭や文化祭を振り返り、学年を超えての仲間づくり、学年間の団結力や一体感を深め、学校全体としての仲間づくりをしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭：結団式や縦割り種目、解団式、当日までの取組や準備など、思いを「一文字」で表わすとともにエピソードなどをほめほめカードに書いて贈り合う。 ・文化祭：異学年・同学年での合唱練習のときや、文化祭終了後に縦割りでほめほめカードを贈り合う。 <p>○学級活動へいかす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の帰りの会(通常+10分)で、話し合い活動やほめほめカードの交流を行う。 ・席替えの際、これまでお世話になった班の仲間にメッセージを贈り合う。 <p>○いじめを生まない風土づくりに向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの防止に向け、生徒会執行部から呼びかけるとともに、お互いにされると嬉しいサービスをし合う取組「ほめほめシークレットサービス」を実施した。 <p>○感謝の気持ち・歓迎の気持ちを込めて</p>	
    	

- ・卒業する3年生へ感謝のメッセージ、
- 新入生への歓迎のメッセージ

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感』

○体育祭では、練習を重ねるごとに声をかけ合う姿が多く見られるようになり、本番では縦割り種目以外でもお互いに応援し合ったり、3年生のソーランなど一緒に取り組もうとする姿が見られた。また、お互いに贈り合ったBIGほめほめカードを嬉しそうに眺める姿が各教室で見られた。

～体育祭感想～

2年：3年生のみなさんは、前日の準備、いろいろな取組で、私達をひっぱってくださいました。とても心強かったです。先輩方は、何事にも挑戦し、やり遂げていて、その姿は、私にとってはとてもかっこよく映っていました。先輩達の背中を見てどうしたらしいかも分かったし、すぐ行動に移すことができました。先輩方と繋がれた瞬間はとても嬉しかったです。ありがとうございました。

1年：最後の体育祭、たくさんの役割がある中、私たちのお手本となるような姿を見せてくれて、私たちも3年生をこえるぐらいすばらしい1年生になろうと思いました。涙を流している人も見かけました。それほど責任感がかかるついたんだなと思いました。本当にお疲れさまでした。学年をこえて、これからも仲良くしてください。

○ほめほめシークレットサービス

シークレットサービスを行うことで、いじめ未然防止に向けた気運の醸成が図れた。取組に対する生徒の評価は、①「人のために行動してみて」、②「人からされて」ではそれぞれ肯定的評価①87%、②86%，否定的評価①13%，14%，主な感想①・小さな気配りができた。・困っている人を見つけられるようになった。・気づかなくても人のために行動するのが嬉しいことだと思った。②・今まで気づかなかつた優しい行動に気づくことができた。・次は自分から何かしてあげようという気持ちが湧いた。

～ほめほめシークレットサービス感想～

- ・見えていない所でも人の役に立つということは大切ということが分かりました。これからも見えている所や、見えていない所でも行動していきたいと思いました。
- ・気付かない所で良いことをしても目に見えなかつたけど、今回は目標があつて、きっかけになった。とても楽しかったので来年もあってほしい。みんなが進んでよいことをすることで、うれしい気持ちになった。
- ・どんなことでも自分が嬉しいと思うことをされると気持ちがいいし、その人の仲も深まると思うのでもっと人にいいことをたくさんしようと思いました。もっとお互いがサービスし合って、このクラス全体がよくなればいいなと思いました。
- ・人に喜んでもらえたり、自分から人が喜びそうだな、と思うものを行動して、すがすがしい気持ちになつたり、ふだん見なかつたことも見るようになつたりと、変わることができました。とてもうれしくなり、気持ちがポカポカしました。

今後の展開『キーワード 自己有用感・小中連携』

○本年度より中学校区小中一貫教育協議会において各小学校の「ほめほめ」の取組を「小中一貫教育だより」で紹介し合い、小中を通して「ほめほめ」の心を繋げていく取組を始めた。各校で行っている「ほめほめ」を小中の垣根を越えて実施できる場を設けたい。

他校へのアドバイス『キーワード 守る伝統 築く伝統』

○「ほめほめの木」は十数年続く伝統となっている。しかし教員が変わることによって取組が形骸化したり本質が失われたりすることがある。地域に根付く学校としてこれまで大切にしてきた伝統は教員同士が連携して繋いでいくとともに、生徒同士が引き継いでいけるよう支援が必要である。さらに生徒の実態に合わせて新しい試みに挑戦していく必要もある。地域の声や生徒の声をじっくり聴き、生徒の発意や発想を生かして生徒が活躍できる場や機会を意図的、計画的に設定し、様々な視点から評価することで自覚と活動意欲が高まる。教職員全体で共通理解を図り、学校として生徒会活動を推進していく体制づくりを行うことで生徒会活動の活性化と豊かな学校文化の創造につながっていくものと思われる。

指定校番号	29044	学級活動		生徒会活動	<input checked="" type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	----------------------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長	松本 貴文	生徒指導主事	三宅伸之
-----	-------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『縦割り班清掃』

取組のねらい『無言清掃の徹底を図る』

今年度から生徒指導の目標を「当たり前のこと普段以上にやり切る『凡事徹底』」とした。そこで、昨年度スタートした上級生が自覚を持ち、グループのリーダーシップを取ることで自信を持たせることを目的とした縦割り班清掃を発展させて10分間すべての生徒が無言で清掃することを定着させるまで取り組むこととした。



身に付させたい資質・能力

- 自己肯定感 蹄めずに粘り強く取り組む力
(我慢する心…清掃時間、担当の仕事を徹底してやり遂げる。)
- 課題発見・解決力 自ら課題を見出し、解決しようとする力
(気付く心…掃除場所を見て、汚れているところに気付く。)
- 協働性 他者と協働し、課題を解決しようとする力
(仲間を大切のする心…仲間と協力して清掃活動ができる。)



取組の具体的な内容『生徒のリーダーによる清掃活動の活性化』

学期はじめに掃除ミーティングを行い、292人の全生徒を30グループに分けて、グループリーダー1名、副グループリーダー1名を中心に目標の設定し、掃除場所を確認し、掃除の仕方を確認した上で役割分担を行わせた。

通常の清掃時間は生活委員会の放送の指示により、清掃場所にリーダーを中心に集合させ、黙想を行い気持ちを切り替え、清掃活動を無言で行うようにさせ、最後に終わりの会を行い、掃除点検カードに各自の評価を記入させていく。



取組の課題 『個人評価の適性化』・創意工夫『グループ活動の活性化』

取組の課題

掃除場所2～3か所につき1名の担当職員がおり、生徒のリーダーといっしょにグループのメンバーの個人評価をつけているが、リーダーを育成して将来的には生徒が相互評価できるようにするために、個人の評価基準の内容を生徒が判断しやすい内容に少しづつ改善していく。

<評価カード>

評価		今日の評価(メン)					
29年 2月 2日(金)	×試	S	S	S	好S	S	S
5日(月)	S	A	A	A	好S	S	S
6日(火)	S	好S	A	S	S	S	S
7日(水)							
8日(木)							

創意工夫

職員がグループ編成を行う際に、メンバーの組み合わせについては学年を超えて何度も意見交換を行い、リーダーの生徒がリーダーシップを發揮しやすいように、また異学年間の人間関係を様々配慮しながら編成している。

<ループリック評価>

生活目標のループリック評価	
S	10分間時間いっぱい決められた場所を無言清掃できる。 自分の担当が終わっても、他のメンバーを手伝い、気づき掃除が協力体制○ 時間厳守○ 捕除の完成度○ 無言清掃○
A	時間を守り掃除時間（大半）決められた場所を無言清掃できる。 協力体制○ 時間厳守○ 捕除の完成度○ 無言清掃○
B	自分の役割を果たして、決められた場所を概ね清掃活動できる。 協力体制△ 時間厳守○ 捕除の完成度△ 無言清掃○
C	一応自分の役割を果たして、決められた場所を一応清掃活動でき協力体制△ 時間厳守△ 捕除の完成度△ 無言清掃△

取組の成果（効果）『異年齢の人間関係による緊張感』

学年を超えて異年齢のグループを編成しており、そこには人間関係の微妙な緊張感が生まれている。それが自分の役割をまつとうし、責任を果たす結果につながってきている。縦割り清掃への肯定的評価は生徒アンケートが85.3%で、職員アンケートにおいても91%以上の評価が出てきている。



今後の展開『生徒会の自治活動の一貫として発展させる！』

リーダーの意識レベルをさらに向上させるために、リーダーの生徒を対象の効率的な清掃の仕方を研修したり、他校の先進的な取組を学んだりする機会を持たせる。生徒の中に少しずつリーダーシップが取れる生徒を育て、増やしていくことで、生徒会が縦割り班清掃を自治活動の一貫として行える条件整備を行っていく。



他校へのアドバイス『清掃場所の広さと生徒数のバランス』

この取組は、一定の清掃場所の広さに対して、適切な数の生徒を配置して、目的意識を持たせて、一人ひとりの生徒が持っている力を出し切らせることが成功の秘訣である。

指定校番号	29049	学級活動		生徒会活動	<input checked="" type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	----------------------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長	宮里 浩寧	生徒指導主事	向井 大
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名	『児童会と生徒会による合同あいさつ運動・交流会』
取組のねらい『キーワード つながり』	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と中学生がふれあう機会をつくり、中1ギャップ解消につなげる。 ・児童会と生徒会の交流を深め、お互いの取組の良さを認め合い、今後の活動の発展につなげる。 	
身に付させたい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりをもって相手に接する力 ・自他の良さを見つけ認める力 ・相手に分かりやすく説明をする力 	
取組の具体的内容『キーワード 良さを認め合い、お互いの発展へつなげる』	
<p>本校は主に2つの小学校から児童が入学してきます。生徒会執行部の生徒は母校の合同あいさつ運動と交流会に参加します。</p> <p>○合同あいさつ運動</p> <p>はじめにお互いに自己紹介を行い、生徒会から児童会に向けて元気が出るメッセージを送ります。その後、各小学校の正門で20分間あいさつ運動を行います。</p> <p>○交流会</p> <p>児童会と生徒会がお互いに学校行事や生徒会・児童会活動の取組の実践発表を行います。お互いの取組の良さを認め合い、関心のある活動については質疑応答を行います。その後、来年度の中学校入学に向けて不安に思っていることや疑問、心構えなど、事前に6年生から募集したものを持ち、児童会が代表して質問します。それに対して生徒会が自分の経験を踏まえて答えます。</p>	
 	
取組の課題・創意工夫『キーワード 児童・生徒の直接的な関わり』	
<p>小中連携の1つとして、生徒指導主事等が小学校に訪問し、中学校の様子や心構え等を児童に講話することがあると思います。しかし、教師の言葉よりも中学生が実際に感じているありのままの思いを自分の言葉で伝えることで、小学生にはより伝わります。また、小学生は中学生の姿にあこがれを持ち、目指す姿を具体的に見ることができます。このようなことから、児童・生徒同士の直接的な関わりや会話を重視しています。</p>	

取組の成果（効果）『キーワード 安心と自己肯定感』

- ・小学校と中学校お互いが取組の良さや課題を確認することができるとともに、お互いの活動を取り入れることにより、9年間通した取組にすることができます。
- ・中学校生活への不安や疑問、心構えなどについて、中学生から経験を踏まえた話を聞くことにより、小学生は安心感を持つとともに心構えや見通しをもつことができます。
- ・中学生は先輩として、後輩に対して自分の経験を踏まえたアドバイスをすることにより、自己存在感や自己肯定感を向上させることができますとともに、思いやりをもって関わる態度が身に付きます。
- ・小学生は、中学生の姿にあこがれを持ち、目指す姿を具体的に見ることができます。



今後の展開『キーワード 深く広い関わりへ』

- ・児童会と生徒会とに限定した活動なので、対象を6年生全体へと広げていきたいです。
- ・この活動に参加した生徒会は3年生なので、6年生が入学した時には卒業しているため、新生徒会（2年生）も関わりをもつことができるようにしていきたいです。

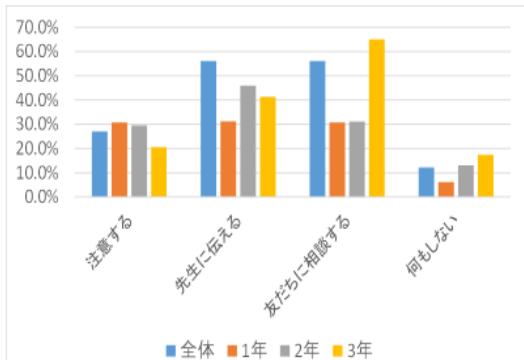
他校へのアドバイス『キーワード 小中連携の充実』

中学校において目指す学校像や生徒像の実現のためには、中学校だけの努力や取組では難しいと考えています。小学校と中学校が同じ方向を向いて教育活動を行うことで目指すところに近づくと感じています。今後も児童・生徒同士の直接的な関わりや会話を重視した取組を行い、教職員だけでなく、児童と生徒も同じ方向を向いて学校生活をおくることができるよう、小中連携の充実を図っていきたいと考えています。

指定校番号	29052	学級活動		生徒会活動	<input checked="" type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	----------------------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立向東中学校	校長	井上 一男	生徒指導主事	岡野 大助
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『いじめ撲滅プロジェクト』																				
取組のねらい『いじめを許さない機運づくり』																					
生徒会活動を通じて、学校全体に「いじめは絶対に許されない行為である」という機運を醸成するとともに、いじめを発見した際の具体的な対処法について全校で共有する。																					
身に付させたい資質・能力																					
いじめに対し「No」を示す力 いじめに対する正しい理解、認識に基づき、いじめを許さない具体的な行動力を身に付けさせる。																					
取組の具体的内容『いじめの実態把握に基づく対処法の提示及び共有』																					
<p>生徒会による「いじめ撲滅プロジェクト」を展開している。本校における「いじめ」は遊びやからかいかから始まるという、生徒目線の分析から、「いじめを許さない」生徒集会等で、生徒会執行部がプレゼンテーションを行い、全校生徒に呼びかけた。</p> <p>さらに、生徒アンケートを実施し、加害・被害の実態や嫌がらせへの対処法等、自校の実態から傾向を分析し、いじめ撲滅に向けた生徒主体の機運づくりを進めた。</p>																					
<p>3 もしクラスメイトが嫌がらせをされていたらあなたはどうしますか。</p>  <table border="1"> <caption>生徒会プレゼンテーション資料から抜粋</caption> <thead> <tr> <th>行動</th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>注意する</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>先生に伝える</td> <td>30%</td> <td>40%</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>友だちに相談する</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>何もない</td> <td>5%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </tbody> </table> <p>結果 「先生に伝える」「友達に相談する」が多い。 →直接注意する者は3割程度であるが、だれかに伝える等の行動が多い。 →加害者に恐怖を感じている可能性もある。</p>		行動	1年	2年	3年	注意する	30%	30%	28%	先生に伝える	30%	40%	48%	友だちに相談する	30%	30%	65%	何もない	5%	10%	15%
行動	1年	2年	3年																		
注意する	30%	30%	28%																		
先生に伝える	30%	40%	48%																		
友だちに相談する	30%	30%	65%																		
何もない	5%	10%	15%																		
取組の課題・創意工夫『生徒目線のいじめ分析』																					
<p>生徒の間で、「いじめ」と「『いじり』や『からかい』」の境界線が明らかになっていない実態があった。その課題に対し、生徒会が、全校生徒アンケートの結果を基に「これは『いじめ』です」を明らかにしたことには意義があった。また、いじめ発見時に、生徒目線で「こんな対応ができるのでは」という提案をすることができたことで、いじめへの認識と具体的なアクションについて全校で考える機会になった。</p>																					
<p>つまり、「いじり」も「いじめ」も変わらない</p>																					

取組の成果（効果）『「傍観者」「観衆」の立場の者がいじめを発見した際の対応例の共有』 『「いじめ撲滅プロジェクト」の校区小学校への広がり』

生徒のリーダー達（生徒会執行部）が、自校の実態を明らかにしたことで、全校が「自分事」として、いじめの問題について考えることができた。

また、いじめと思われる事象を発見したときの対応としていくつかのパターンについて劇を通して例示したことにより、具体的な行動を学ぶことができた。



学校生活アンケート結果（全校生徒対象）

「学校はいじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいる」70.8→82.0



さらに、この生徒会主体の実践を小学校児童会に広げ、校区をあげての取組へと発展させた。

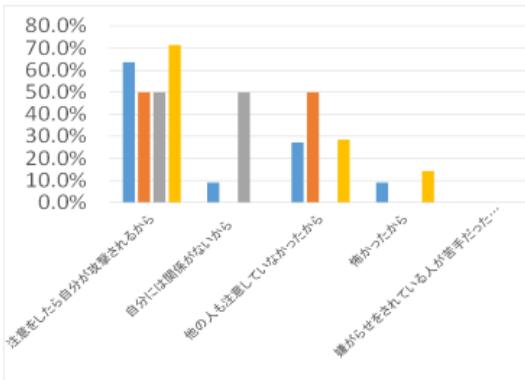
中学生は自分たちの実践に自信をもてたこと、小学生はより高いイメージをもてたこと等、異年齢交流の効果も顕著に見られた。「いじめを許さない」小中をつないだ実践を今後も継続して行い、その風土づくりに努めることを小中連携の中でも確認している。

今後の展望『生徒会活動と学級活動、道徳の時間の関連』

生徒会による「いじめ撲滅プロジェクト」に絡めて、学級活動や道徳の時間に話し合い、学級単位で課題解決に向けての具体策を練るなど、実践につないでいく必要がある。

さらに、生徒総会等で、いじめについての議論を通じて、いじめ撲滅に関わる合意形成を図る機会をつくっていきたい。

7 嫌がらせを見ても何もしなかった理由を教えてください。※「何もしなかった」と答えた者のみ回答



生徒会プレゼンテーション資料から抜粋

結果

「注意したら自分が攻撃されるから」や「他の人も注意していなかったから」という理由が多数。→次に自分がターゲットになることを恐れている。
→場の空気を読み、周囲に溶け込むことで保身している。

他校へのアドバイス『生徒発信』

生徒が本気で発信するメッセージには「力」がある。生徒会活動を活性化することで、よりよい学校づくりの「主体」へと生徒を鍛え、伸ばしていく学校体制の構築が求められていると考える。

指定校番号	29053	学級活動		生徒会活動	<input checked="" type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	----------------------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長	大原 俊哉	生徒指導主事	金田 耕治
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『一生懸命について考えよう』
取組のねらい『キーワード 一生懸命』	
<p>・本校では、知・徳・体の土台となる「挨拶・姿勢・一生懸命・思いやり」の精神を大切にし、「さわやか十中」をキヤッチフレーズに取り組んでいる。昨年度は、生徒会活動や学級活動を通して「思いやり」について考えさせた。本年度は、「一生懸命」をテーマとし、学校生活の中での自分や周りの人の一生懸命な姿に気付き、互いに認め合う関係づくりを育成している。</p>	
身に付けさせたい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感及び自己有用感を高める。 ・共感的人間関係を形成する。 	
取組の具体的内容『キーワード 自律・自己調整』	
<p>・生徒会執行部で企画、総務委員会で今年度のテーマについて提案し、総務委員を中心に日頃の「学級の一生懸命」に立ち返らせ、各学級の一生懸命を定義づけさせた。</p> <p>・各学級で話し合った「学級の一生懸命」を受け、「十日市中学校の一生懸命」について、総務委員会及び生徒会執行部で協力し定義づけした。</p> <p>・決定した「学級の一生懸命」とともに、「十日市中学校の一生懸命」を掲示することでお互いの一生懸命を確認するとともに、生徒一人ひとりが日頃から自分や周りの人の一生懸命な姿に気づき、互いに認め合う関係を築く。また一生懸命に取り組むことを茶化したりする行動を改め、生徒の自己調整の指針とした。</p>	
  	
取組の課題・創意工夫『キーワード 取組を通して「日常化」』	
<p>・生徒会の委員会活動や学級活動で、今回の「一生懸命」をはじめ、他にも体育大会等の学校行事に向けてのメッセージカードを作成する等の取組をしている。今後は、これらの取組を通して、生徒たちが気づいたことや考えたことを、自らの学校生活に日常化していく取組の継続性と、さらに、取組の内容を教科学習やあらゆる教育活動と連動させるなどの工夫改善が必要である。</p>	
取組の成果(効果)『キーワード 自己有用感の向上』	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事や活動後の生徒アンケートによると、「自分の良さは、まわりの人から認められていると思う」の項目の目標値70%に対して、肯定的評価の割合は72%（1年74%，2年72%，3年70%）であった。 ・「学校は楽しい」（生徒アンケート）の項目の目標値85%に対して、肯定的評価の割合は90%（1学年 	

93%, 2学年90%, 3学年88%)であった。

今後の展開『キーワード 居場所づくり、絆づくり』

- 今後とも、授業や学級活動、生徒会活動（部活動、委員会活動、行事）等の取組を通して、生徒同士のコミュニケーションで自己有用感が高められる場を増やしていく。そして、生徒たちの活動の様子や感想等を掲示することで、お互い「一生懸命な姿」を認め合い、「頑張ること」の視野も広げていけるよう仕組む。

他校へのアドバイス『キーワード 縦割り集団の活用』

- 学年を越えた縦割りでの体育大会等の学校行事や生徒会活動を通して、下級生は上級生が集団をリードする一生懸命な姿を見て上級生の良さを、上級生は集団の一員として前向きに協力しながら活動する下級生の良さを実感させることができる。今年度も学級活動で、3年生の立志式の発表会に2年生が、2年生の職場体験学習の発表会に1年生がそれぞれ参加することを計画した。2年生が参加する立志式は、インフルエンザ予防のため実施できなかったが、上級学年の生徒の発表を聞き、自分より一步先の体験や考え方につれて触れることで、自分の将来について短期的な目標が持てるような取組を継続していきたい。今、生徒会では卒業式を前にして、3年生から後輩へ、1, 2年生から先輩に向けてのメッセージの取組を行っている。メッセージを生徒玄関に掲示し、互いにそれぞれの思いを共有する場となっている。今後とも、縦割り集団を効果的に活用した教育内容を工夫改善していきたい。

指定校番号	29054	学級活動		生徒会活動	<input checked="" type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	----------------------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次中学校	校長	小丸 幸則	生徒指導主事	宮部 英巳
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒会活動と連携した積極的生徒指導』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感の向上』

本校の生徒指導上の課題として、服装の乱れ、授業妨害、授業エスケープ、指導に従えない、暴言、携帯等の不要物の持ち込み、自転車通学違反、地域の施設や登下校でのマナーの悪さ、生徒間トラブルなどが挙げられる。問題行動を繰り返すのは一部の生徒であり、生徒同士の関わり合いが十分行えていない状況が、全体の落ち着きのなさにつながっていると考えている。現状の改善のためには、生徒自身の自己肯定感を向上させ、自分が学校や地域社会の一員として認められる場をつくり、生徒同士の結びつきを深め、自治的活動を活性化させることが問題行動の減少につながると考えた。そのため、生徒会活動やボランティア活動等の、生徒の自治的活動や主体的な活動の推進を行った。(今年度3年目)

身に付けさせたい資質・能力

自分が学校や地域社会の一員として認められる

(充実感 達成感)

生徒同士の結びつきを深める

自己肯定感の向上(生徒の自主的、主体的な活動)

取組の具体的内容『キーワード 無理なく』

平成27年度の取組として、生徒会と連携し不十分な掃除から見直した。縦割りの掃除班をつくり、3年生執行部と有志を中心に掃除リーダーが掃除を運営する形を実行した。(無言清掃の取組)

平成28年度には、学期前の掃除リーダーの育成、掃除分担の見直し、配置教職員との連携等、変更を加え、並行して生徒会活動の一環としてのボランティア活動の充実を意識させ、放課後15分間の自由参加のボランティア活動を計画し実行している。また、リーダーの育成という観点から、生徒会執行部が独自の行事として全校で参加できる『全校駅伝』を企画し運営した。

平成29年度には、自主的に時間を管理し、行動することを目標に、ノーチャイムを実施し生徒は時計を見て行動することを行っている。また、ボランティア活動の推進という観点から、今まで1年生の授業で行っていた「八次地区連合自治会女性部との花植え作業」を生徒会中心のボランティア活動とし、年2回放課後に全校生徒で花植え作業を行った。

取組の課題・創意工夫『キーワード 一歩ずつ』

今年度の取組は、一昨年度、昨年度の取組に修正を加える方向で行っている。生徒会リーダーだけでなく、教職員との連携を行うことで、生徒が教職員と共に目的を共有し、生徒が生徒を指導する負担感を軽減し、生徒間のトラブルを減少させる方向で行っている。掃除の質が以前よりもよくなっている。また、『全校駅伝』は生徒会執行部中心で2回目を企画運営することができた。

今年度より実施したノーチャイムは、教職員から生徒へという形ではなく、生徒会が考え提案する形として実施した。生徒や教職員自身の意識を統一するために、研修を全体で行い、教職員の意識改革を行った。現在はスムーズに時計を見て行動することができている。また、「地域女性会との花植えボランティア」では、八次地区連合自治会女性部の協力も頂き毎回全学年で約150名の参加で行うことができている。



取組の成果（効果）『キーワード 充実感 達成感』

自己肯定感の向上のため、充実感 達成感をもたせるために充実させてきたボランティア活動であるが、今年度は八次地区連合自治会女性部の協力も頂き、さらに進化させる取組となった。昨年度までは1年生の総合の授業で行ってきた内容をボランティア化し全校生徒に呼びかけ参加を募った。1グループを約8人に分け、そのグループごとに地域女性会の方に1人ずつついて花植えの指導をしていただき、約10個のプランターを作り上げていく作業を行った。生徒は約150名が参加し、女性部の方と会話し、楽しみながら作業を行った。また、その様子を地元のケーブルTVに取材して頂き、生徒の生き生きした姿を発信することができた。



◆生徒のアンケート結果

○掃除を時間いっぱい行っている（平成28年6月 88.1%）

（平成29年1月 90%）

（平成30年1月 89.4%）



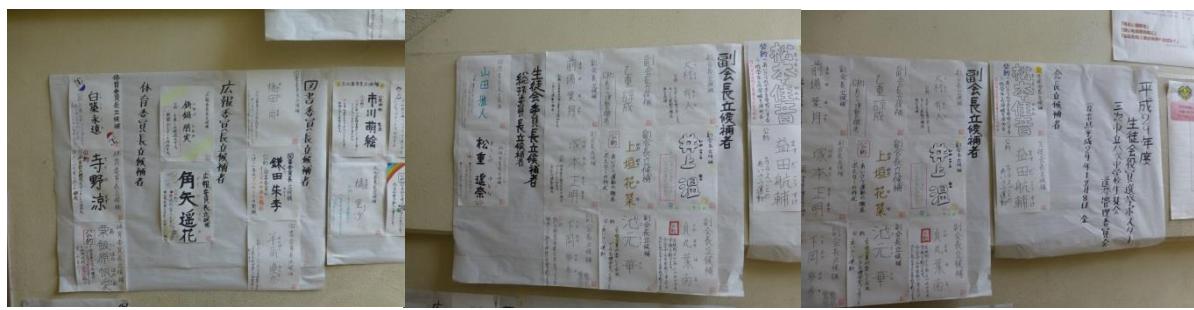
○生徒会活動に積極的に取組んでいます（平成28年6月 77.5%）

（平成29年1月 77%）

（平成30年1月 78.8%）

今後の展開『キーワード 憧れ』

今年度の生徒会執行部には定員10名のうち28名が立候補する選挙となった。各立候補者が自分の公約を掲げ選挙で発表することから、立候補者本人の強い意志はもちろんだが、選挙する在校生も自分の1票をどの人に託すかで、非常に意味のある選挙となった。生徒会を中心として自治的活動の活性化に取組んできた部分からすると、意識の高まりが感じられるものであった。また、立候補者に「どうして立候補したのか」を尋ねると「前の執行部の人が、かつこよかったから」等という上級生に対するあこがれや尊敬といった答えが返ってきた。リーダーが自分たちの目標に向かって努力し活動する姿を見て、次の学年が憧れをもつような場面が作れていたことは、改めて、今の方針性が間違っていないことにつながっていると思われる。1つ1つの取組を単年度で終わらせる事なく、修正・改善を加えてさらに意識づけを行っていき、意識の高まりが教職員や生徒の負担感を軽減させ、さらに新しい取組へと深化するといった良い流れができている。今後もさらに目的意識をもたせ、自己肯定感の向上につながるよう充実を図る取組を引き続いだ行う予定である。



他校へのアドバイス『キーワード教職員との連携と意識向上』

生徒の意識変革の前に、指導する教職員の意識変革が不可欠である。生徒会担当の教職員や各委員会担当の教職員との連携や調整が、生活への指導の徹底や取組の充実につながる。今後も教職員・生徒の目的意識の向上を図り、生徒会への働きかけにより自治的活動の活性化につなげていきたい。

児童会・生徒会活動

ボランティア活動などの社会参加

児童会・生徒会活動

ボランティア活動などの社会参加

指定校番号	29011	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校

「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中小学校	校長	奥 金美	生徒指導主事	林 寛
-----	-----------	----	------	--------	-----

取組事例名 『児童会執行部を中心とした諸活動（クリーンキャンペーン）』

取組のねらい『キーワード・・・社会参加』

小・中学校及び高等学校、家庭、地域、関係機関が一体となった体験活動を行う中で、児童の自尊感情を高め、社会参加の意欲や態度などの豊かな心の育成を図る。

身に付させたい資質・能力

自発的、自動的に学校生活や地域活動に関する諸問題を解決していくことにより、地域・全校・学年・学級集団への所属感や連帯感を深めさせたい。

取組の具体的内容『キーワード・・・小中連携』

町内の児童会生徒会が集まり、クリーンキャンペーンに向けて連携して活動する。

- ・児童生徒会議において、本年度のクリーンキャンペーンの実施計画を発表するとともに、各小学校でスローガンを検討する。
- ・準備会においては、中学校の生徒会執行部メンバーが分担してそれぞれの小学校児童会執行部の中に入り、話し合いをリードする。
- ・活動ルートの中で危険個所がないかを検討し、地図上に留意事項を表記しながら確認する。
- ・当日は、小中高校生、教職員、保護者、地域の方々が15名程度のグループをつくり、校区内を12のルートに分かれて行動する。
- ・当日の司会と進行は中学校の生徒会執行部メンバーを中心に行い、小学校の児童会メンバーも目的のアピールや振り返りの言葉を述べることで会の進行の中で役割を担う。

取組の課題・創意工夫 『キーワード・・・プロセスの明確化』

児童が主体性をもって取り組めるように、活動の目的と方法を明確にする。

- ・話合い→決定→実行→振り返りのプロセスの定着を進める。特に、振り返りをしっかりと行い、次の活動への目標をもたせるようにする。
- ・司会者や進行係に対してシナリオ原案の書き方の工夫や話合いの進め方について指導する。
- ・振り返りの場面では、回収したゴミの量を確認する等、参加者全員が自分たちの活動の成果を実感できるようにする。

取組の成果（効果）『キーワード・・・活動の意義』

準備段階から、当日の活動、さらに活動後の振り返りまでを児童生徒中心で実施する。

- ・事前の話合いに参加した小学校児童会執行部のメンバーは、会を取り仕切る中学校生徒会執行部の姿に感銘を受け、自分たちもあんなふうになりたいと憧れを抱くことができた。
- ・的確な話合いの司会進行を目の当たりにして、良いモデルケースとして学習できた。
- ・活動中は、低学年の参加者にも積極的に声をかけ、小学校の代表としての責任を果たせた。

- ・校庭に集められた回収したゴミの量を確認することで、一日の活動の成果を実感し、地域のために自分たちにもできる取組があるということを実感できた。
- ・地域の美化活動を通して、校内における縦割り掃除への意欲につなげることができた。

今後の展開『キーワード・・・活動を広めて』

中学校区合同研修会において、各校児童会生徒会のメンバー・教職員・保護者が見守る中、各校の代表によるパネルディスカッションを実施した。それぞれの代表は、各校の様子や自分たちの学校での学び合いや地域への思い、さらに将来の夢などについて自分の言葉で語った。

他校へのアドバイス『キーワード・・・つながる楽しさ』

いろいろな形で近隣の学校とつながることには大きな意義があると思われる。新しい出会いを設定することで、お互いに刺激しあって、より良いものをめざそうとする心が育まれることが期待できる。

指定校番号	29013	学級活動		児童会		クラブ活動	○	学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	--	-------	---	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立小田東小学校	校長	信末 実智則	生徒指導主事	佐々木 祐司
-----	--------------	----	--------	--------	--------

取組事例名	『ボランティア活動 保育所でのボランティア』
取組のねらい『キーワード 自己肯定感』	
<p>・地域の園児が通っている保育所で、これまでの自分を育ててくださった保育所の方への感謝の気持ちを込めて園児と遊ぶ活動を通して、地域の一員としての自覚ややり遂げたという自己肯定感を高める。</p>	
身に付させたい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を発見し、意欲的に課題を解決しようとする主体性。 ・他者とのかかわりで課題を解決しようとする協働性。 ・課題を解決し、自分にもできる、自分にも価値があると自分を認める自己肯定感。 	
取組の具体的内容『キーワード 必然性』	
<p>・ボランティアクラブ創設2年目、児童が「もっと地域の役に立ちたい」という願いをもち、4月に活動内容を計画した。活動内容として、「地域の方にゲストティーチャー等でお世話になっている。その感謝の気持ちを込めて、自分たちでできることは何か。」と投げかけ、ボランティアクラブで考えた。話し合いを進める中で、地域のお寺や神社や施設の清掃活動だけでなく、人と直接かかわるボランティア活動をしたいという思いを持った。そこで、自分たちが育ててもらった地域の保育所で園児と遊ぶ活動をすることを決定した。</p>	
取組の課題・創意工夫『キーワード 主体性』	
<p>・昨年度ボランティア清掃に参加したボランティアクラブ部員の児童が体験を話し、ボランティア活動をして気づいたこと等を新しくボランティアクラブに入った児童に説明をした。「甲立駅を利用する人から、あたたかい声をかけてもらい、やってよかった。」「きれいになったトイレを見て気持ちがすっきりした。」等の感想を聞いた児童がボランティア活動をやってみたいという意欲につながった。その後、ボランティアクラブが保育所のどの組で誰が遊ぶのか等計画を立て、保育所の所長と目的や日時等の連絡をとり、ボランティア活動を実現していった。</p>	
取組の成果(効果)『キーワード 貢献する意欲』	
<p>・自分たちで考えた自発的な活動であり、一生懸命に活動した児童が、「楽しかった。」「先生や児童に喜んでもらえた。」「やってよかった。」という感想を広めていくことで、自己肯定感の育成はもちろん、他の児童も「やってみたい。」という意欲をもつようになっている。学校生活では見せないようなやさしい表情を園児に見せ、指導者も児童一人一人の良さをさらに感じた。また、児童にとっても新しい自分発見につながったと考えている。このような取組を継続していくことで、児童会等の活動で意欲的、主体的に活動をする児童が増えてきた。</p>	



今後の展開『キーワード 広げる 伝統』

- ・平成28年度4月にクラブ活動の一つとしてボランティアクラブを結成した。今年度は2年目。活動は地域の寺院や施設の清掃、学校内外のボランティア清掃や学校の遊び道具の片付け・整理を行ってきた。自分たちで計画を立て、主体的に活動を行っている。この活動を、より日常的な活動に広げていく。
- ・平成30年度、これまでのボランティア活動を広げ、統合された甲田小学校でも地域に貢献する活動を伝統にしていく。



他校へのアドバイス『キーワード 工夫』

- ・児童が「ボランティア活動をしよう」とする意欲や方向性を、クラブ担当者と生徒指導主事が連携をし、見通しをもって、児童が活動できるように支援を行った。全校朝会でボランティア活動を全校児童に呼びかける機会を設けることで、ボランティアの輪が広がっていった。本校は「学びの変革」にかかりわり、児童が「やってみよう。」「やらなければいけない。」等の意欲や必然性をもたせる課題設定の工夫を国語科、総合的な学習の時間を中心に行ってきた。この取組とつなげて、今年度もボランティア活動では、地域への貢献や感謝を課題にした。課題解決の方法を児童に考えさせ、主体的な活動になるように仕組んでいった。これらの工夫が「もっと地域の役に立ちたい。」という気持ちにつながっていったと考えている。



指定校番号	29033	学級活動		生徒会活動	<input checked="" type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	----------------------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原中学校	校長	住元 康男	生徒指導主事	望月 貢樹
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『V-SAT』(ボランティア活動)
取組のねらい『キーワード：自己有用感』	地域貢献活動を通して、地域、保護者、異年齢と交流し自己有用感を高める。
身に付させたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性 ・規範意識 ・思いやり
取組の具体的内容『キーワード：主体性』	<p>○5年前から始まった地域貢献活動 (Volunteer Student Association of Takehara junior high school) の取組である。今まで取り組んできた活動は、「竹の搬送」「スタディーサポート」「竹の灯」「資源回収」「小学校の校内美化」「賀茂川清掃」「校内の緑化」など多岐にわたっていた。地域に中学生にできるボランティア活動を募集し、それに対して答えていく形で進めてきた。しかし、実際に中学生にできる内容には限界もあり、現在は「スタディーサポート」「資源回収」「賀茂川清掃」「小学校の校内美化」に限定して実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタディーサポート：夏休み、冬休みに小学校からその小学校の卒業生に対して募集があり、小学生の補習学習に対してサポートする中学生を募集する。 ・賀茂川清掃：地域からの要望を受けて、地域主体の活動に参加する活動である。 ・その他の資源回収、小学校の校内美化についても増加傾向にある。 <p>上記の活動が定着しており、子どもたちが主体的に参加する状況が拡大してきている。</p>
取組の課題・創意工夫『キーワード：主体性・創造』	<p>【課題】定着してきたV-SATではあるが、参加者の中には「内申点があがるんじゃろ?」とか「外部のクラブチームで参加が強制されているから参加した。」など本来の趣旨とは違う力が働き、活動に参加しても真面目にやらない生徒が見られることがある。生徒には「内申点には関係ないよ」「無理やり来るなら来なくていいんだよ」と返しながら、本来あるべき姿を求めている。</p> <p>【創意工夫】小中の連携をしていく中で、新たなボランティア活動を模索している。今年度は出身小学校に出向いて「中学生になるまでの必要なことを話す」という内容をV-SATという形で募集し、20名近くの立候補者の中から4名にしほり小学校へ出向いて中学生が話をした。</p>  

取組の成果（効果）『キーワード：主体性・思いやり』

- ・年々主体的な参加者が増えている。「スタディーサポート」の参加者は、H26年度は38名、H27年度は84名、H28年度は86名、H29年度は127名と年々参加者が増加している。「賀茂川清掃」の参加者はH26年度は雨のため中止、H27年度は152名、H28年度は148名、H29年度は177名の参加となった。
- ・それぞれの活動を通して、地域から、小学生から何らかのことを学んでいる。多面的な考え方を身につけることができた生徒がいる。
- ・スタディーサポートの生徒の感想：みんな暑い中がんばっていて、言ったことをすぐに理解してくれたので助かりました。教える大変さも分かったのでよかったです。来年も是非挑戦していきたいと思いました。とても楽しい体験をさせてもらうことができました。（2年生女子）



今後の展開『キーワード：継続・規範意識』

- ・今まで5年間続けてきた活動もあるが、なくなったもの、新たに始まったものなどがある。今後も今定着している取組を継続させ、生徒・職員の意識を高める中でより良いものになっていくと考える。
- ・多くの活動は中学校とは違う場所で行われ、その場所でのルール説明を受け、それにしたがって活動をしている。時には地域の人から注意され、時には小学校の先生から注意されということを聞いている。場に応じた対応がまだしっかりと身についていないことが考えられる。



他校へのアドバイス『キーワード：信頼』

- ・活動スタート時には、外に生徒ができるいくことをためらう声もあったが、実際に活動を行っていく中で、多くのお褒めの言葉や生徒の達成感のような声が届いてきた。学校では活躍できにくい生徒でも違う場所ではしっかりと活動している場面もある。今では生徒を信用して任せられる場面も増えてきた。
- ・地域から、校区内の小学校から積極的に依頼が来るようになった。このことは、竹原中学校の取組が信頼されているからだと考える。

指定校番号	29047	学級活動		生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	-----------------------	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷中学校	校長	大畠 文信	生徒指導主事	片山 新
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名	『本郷中校区クリーン活動』
取組のねらい『キーワード地域貢献』	
<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々とコミュニケーションをとりながら清掃することで、自分たちが本郷地域の一員であることを再確認する。 自分たちの住む町をきれいにすることで、地域のために自分たちができることについて考える。 	
身に付させたい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力 リーダーシップ 主体性、積極性 	
取組の具体的内容『キーワード縦割り班』	
<ul style="list-style-type: none"> 美化委員長を全体のリーダーとして生徒全員に朝会で説明。 自分の住んでいる場所をもとに全校生徒221名を16の班に分ける。 班のリーダーが小学校へ行き、小学校のリーダーと打ち合わせする。 清掃当日、集合場所に移動。中学校のリーダーが班ごとに始めの会を運営。 小学生や地域の人とふれあいながら清掃活動を行う。終わりの会を行い、解散する。 ゴミについては担当の教員が学校に持ち帰り分別を行う。 	
取組の課題・創意工夫『キーワード小中連携』	
<ul style="list-style-type: none"> 今まで、中学校だけで行っていたが、今年度は小中合同で行った。 小中合同のリーダー会を行い、リーダーとしての自覚をもたせた。 校区内の2つの小学校の内1つの小学校だけと行った。 清掃班の数を増やしたため、担当教員の数が足りなかった。 	
取組の成果(効果)『キーワード小・中・地域とのつながり』	
<ul style="list-style-type: none"> 小学生と関わりながら、楽しく清掃活動ができた。 ゴミを拾っていくうちに、きれいになることをうれしく感じる生徒がいた。 自分の住んでいる地域にポイ捨てが多いことに気付いた。 ゴミを拾っている中で、自分がポイ捨てをしたゴミは誰かが拾ってくれていたことに気付き、自分を振り返ることができた生徒がいた。 	
今後の展開『キーワード地域を巻き込む』	
<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学活の授業などで清掃やボランティア活動等の学習をする。 保護者に協力を要請し、参観日の後の活動を仕組む。 町内会への呼びかけで一緒にできる活動を考える。 	
他校へのアドバイス『キーワード生徒主体』	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒に達成感を味わわせるためには、事前の準備が大切。 小中間や地域の方との連携が必要。 生徒ができる部分は生徒にやらせる。 	



JR本郷駅



ふれあい公園

指定校番号	29048	学級活動		生徒会活動	○	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	---	------	--	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保中学校	校長	利田 亨次	生徒指導主事	富田 竹則
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒会主体の活動』

取組のねらい『キーワード 学習意欲の向上』

「キーワード、学習意欲の向上」をめざして強力一致・大きな輪になれ進化久保中」をスローガンとして自己肯定感を高め望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活作りに参画し諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる。

身に付させたい資質・能力

身に付けさせたい資質・能力は考える力や伝える力そして生徒自ら困難な課題に対して諦めることなく思考し、互いに思いやり協力しながら解決へと向かうことを育成する。

取組の具体的内容『キーワード積極的なボランティア活動の実施』

校区内高齢者施設「星の里」・校区内保育所「るり保育所」でのボランティア活動・ノルディックウォーキング活動・灯りまつりや住吉花火清掃活動・敬老会でのボランティア活動

○生徒会執行部生徒が施設に出向いて事前の打ち合わせをする。

○生徒会執行部がボランティア参加を呼びかける。



星の里



るり保育所

ノルディック
ウォーキング

灯り祭り

住吉花火
清掃活動

○部活動による朝の清掃活動とあいさつ運動

毎朝 7:40～8:05、部活動ごとに正門で清掃活動とあいさつ運動を行う。

朝のあいさつ
運動の様子

取組の課題・創意工夫『キーワード 考えを伝える』

○自己肯定感は高まったが、生徒の学びに向き合う姿勢等から明確に学習意欲の向上に至っているとは言い難い。

○1つのテーマに沿って各クラスの代表が協議する久保中トーカーを実施している。活発な意見交流をすることで自分たちのクラスの意見をまとめて説明したり、他者の意見を尊重し、自分の意見を述べたりなど生徒自ら課題解決に向けての必然性の活動になったり自らの見方・考え方の高まりにつながった。



久保中トーカー

取組み成果（効果）『キーワード 自分のよさに気付く』

○学校評価に関する生徒アンケートから「自分には良いところがある」という自己肯定感はH29.12月とH28.12月との比較で13.3ポイントの向上、またH29.12月とH29.5月との比較では5.2ポイントと上昇している。

○アセスの結果から受容的な学級風土が築かれてきたことで集団の帰属意識が高まり自己肯定感が向上したものと考える。

	H28.12月	H29.5月	H29.12月
	肯定	肯定	肯定
自分にはよいところがあると思う。	49.7%	57.8%	63%



学校評価(生徒アンケート)



今後の展開『キーワード 達成感』

○生徒が自ら企画・計画し生徒の自発的・自治的活動が展開できるよう生徒の意志や主体性から活動を実施している。また、今後もボランティア活動を取り入れ生徒も活動に興味を持ち積極的に参加しようと働きかけをしていく。「自分には良いところがある」と思うことに気付いていない生徒が4割と高い割合を占めている。引き続き生徒主体の活動を工夫し達成感・充実感のある取組を進めていく。

他校へのアドバイス『キーワード 久保中トーク』

テーマに沿って学校全体で協議した「久保中トーク」は課題発見・解決学習として生徒の主体性を育む活動にすることことができた。生徒の自発的・自治的活動を通じて異年齢集団での話のすり合わせがよりよい学校生活や集団づくりに有効だった。

学校行事

文化的行事

学校行事

文化的行事

指定校番号	29032	学級活動		生徒会活動		学校行事	<input type="radio"/>	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	-----------------------	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立昭和北中学校	校長	松田 恭尚	生徒指導主事	東風 剛
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名	『合唱コンクール&壁画』
取組のねらい『キーワード…クラスの団結』	
<p>ア 合唱を通して喜びと感動を体験させ、学級での仲間意識、協調性、連帯感を育てていく。</p> <p>イ 学級・学年でお互いに協力し、目標を達成するために努力し、より高い文化を創造していくようにしていく。</p>	
身に付させたい資質・能力	
生徒会執行部を中心として生徒が自主的に企画・運営していくことで、リーダーシップの向上やリーダーに協力しようとする意識を高める。	
取組の具体的内容『キーワード… one for all all for one』	
<p>1 合唱コンクール…各学年学級対抗方式で競わせる。</p> <p>(1) クラス全員が同じ目標に向かって団結し、級友の良いところを発見する場とする。</p> <p>(2) 合唱の練習は音楽の時だけでなく、朝、昼休憩、放課後に行ってもよいことにする。</p> <p>2 壁画…学年が同じ目標に向かって団結する場とする。</p> <p>(1) 3年生全員で一人1枚のパーツを描き、240枚を組み合わせて壁画(4m×6m)を作成する。</p>	
取組の課題・創意工夫『キーワード…自己有用感、所属感』	
<p>1 課題…歌が苦手な生徒のやる気をいかに高めるか、また、その生徒に対する級友たちへの指導・助言をいかに行うか。</p> <p>2 創意工夫…テーマや原画を全校生徒から募集することで、生徒の主体的な取組を促した。また、各学級でパートリーダーを決めて自主的な練習を考えさせた。</p> <p>(1) 合唱コンクールのテーマ「結～五線譜が結ぶ僕らの絆～」 プログラムに入れたり、生徒会執行部が横断幕を作成してステージに掲げたりした。</p> <p>(2) 壁画…原画を3年生全員から募った。</p>	
取組の成果(効果)『キーワード…達成感』	
「自分の良さがまわりから認められている」と思う生徒の割合(11月のアンケート)が、目標値59%に対して達成値61.1%で、達成度が103%。「学校に来るのが楽しい」と感じている生徒の割合(11月のアンケート)が、目標値83%に対して達成値89.6%で、達成度107%であった。合唱コンクールでは、生徒同士が励まし合い、協力し合い、時には意見を戦わせながら優勝に向かって心を一つにしようと練習に取り組み、本番ではクラスの一員として全力を出し切ろうとする姿が見られた。また、入賞できなかったクラスも達成感に満ちた表情が見られた。壁画は、自分がどこを描いたなど、保護者や後輩に説明している姿が見られた。	
今後の展開『キーワード…団結』	
生徒の意欲を高めるために競争意識をあおるのはよくないが、生徒同士が協力しながら目標に向かって取り組めるものを様々な場面に取り入れていく。	
他校へのアドバイス『キーワード…生徒同士の絆を信じる』	
生徒は教職員よりも同級生からどう思われているかについて敏感に感じ取り、結びつきも強い。大人から決められたり与えられたりしたものではなく、自分たちで決めたことには真摯に取り組む。『生徒起点』がキーワードである。	

本番前の練習風景①



本番前の練習風景②



本番前の練習風景③



本番前の練習風景④



本番前の円陣



最優秀クラスの合唱



壁画作成風景



完成した壁画



指定校番号	29036	学級活動		生徒会活動		学校行事	<input checked="" type="radio"/>	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	----------------------------------	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長	枝廣 泰知	生徒指導主事	濱田 真司
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『文化祭における合唱の取組』
取組のねらい『キーワード 感動』	
<ul style="list-style-type: none"> ○合唱を創りあげる中で、クラス・学年・全校の和をはかる。 ○ハーモニーが響きあう喜びを感じ、合唱を創りあげることを通して、歌声の響く廿日市中学校の文化をさらに推進する。 ○目指す生徒像である「感動」を創造する力をもつ生徒を育成する。 	
身に付させたい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ○責任感 ○自己有用感 ○協調性・コミュニケーション能力 	
取組の具体的な内容『キーワード 主体的な活動』	
<ul style="list-style-type: none"> ○練習時間や場所の割り当てを事前に各学級へ周知し、その予定に合わせて各学級のリーダーを中心に練習計画を立てる。 ○日々の練習の目標や評価、振り返りを生徒に行わせ、よりよい活動や合唱で人を感動させることの意味や価値を生徒に考えさせる。 ○コンクール終了後、各学級のリーダーが、合唱に取り組んだことでの成長や仲間への感謝等を学級の生徒に伝える活動を行う。 ○教員は全体の動きを把握しながら、必要に応じて支援や指導を行う。 	
	
取組の課題・創意工夫『キーワード ルールの遵守』	
<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の課題に応じて目標を連鎖させ、一過性の取組とならないように留意する。 ○決められた時間や割り当てられた場所での練習というルールを遵守する。生徒が結果にこだわるあまり、練習による過重負担や時間外での練習については教員が制止していく。決められた範囲の中でどう自分たちの合唱をよりよいものにするかという視点をもたせることについて留意する。 	
取組の成果(効果)『キーワード 自己有用感』	
<ul style="list-style-type: none"> ○学級での取組を進める中で、生徒がそれぞれの立場における役割や、やるべきことを生徒同士のかかわりを中心に考え、行動に移すことができるようになった。特に、リーダーをした生徒については、自分を客観的に振り返るよい機会となった。 	

○コンクールの結果に関わらず、自分たちの取組を振り返ることでどの生徒も自分の合唱への取組について成果と課題を整理することができた。

○学校評価アンケート（学校、学級への所属感について）

- ・クラスの中に自分の居場所がある

7月	肯定的評価	93%	否定的評価	7%
11月	肯定的評価	96%	否定的評価	4%

- ・自分の所属するクラスに満足している

7月	肯定的評価	85%	否定的評価	15%
11月	肯定的評価	89%	否定的評価	11%

今後の展開『キーワード つなぐ』

○合唱への取組を通して整理した成果や課題を学校生活や次の活動へつなげていき、節目ごとの評価と振り返りを行う。

○学年があがるごとに生徒の主体的な活動の割合を増やしていくことで自主・自律の精神を学校の文化として定着させる。

○アンケート結果の否定的評価に留意し、自己有用感の醸成につなげる。

他校へのアドバイス『キーワード ベクトルを合わせる』

生徒の動きが想定していたものと違った場合、次の3点についてチェックしていく必要がある。

○生徒に取組の目標や具体的な動きや方法が明確に伝わっているかどうか

○リーダーの役割を担っている生徒に取組の実態を把握させ、成果や課題を整理させているかどうか

○全教職員が、取組の具体を明確に把握し、動きを揃えているかどうか

指定校番号	29037	学級活動		生徒会活動		学校行事	<input checked="" type="radio"/>	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	----------------------------------	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立野坂中学校	校長	植松寛雄	生徒指導主事	川本 宏
-----	------------	----	------	--------	------

取組事例名	『文化祭における合唱の取組』
取組のねらい『キーワード つながり』	
<ul style="list-style-type: none"> 合唱活動を通じて仲間と心を通い合わせ、合唱を創りあげることの達成感、やり遂げた充実感や感動を味わう。 自主的に練習を組み立て、一人ひとりが協力して合唱に取り組み、相手の心や立場を考えながら思いやりや支え合う気持ちをはぐくむ。 文化祭後の行事の合唱につなげる。 	
身に付させたい資質・能力	
<p>異学年交流を通して生徒の自治活動を高め、お互いを認め合い、高め合うことで自己有用感を育てる。</p> <p>【合唱コンクールでつけられると期待できる力】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>コミュニケーション力 <input checked="" type="checkbox"/>思いやり <input checked="" type="checkbox"/>自主性 <input checked="" type="checkbox"/>協力性 <input checked="" type="checkbox"/>表現力 <input checked="" type="checkbox"/>創造性 <input checked="" type="checkbox"/>男女の理解</p>	
取組の具体的な内容『キーワード 他の行事とリンク』	
<p>① スローガン作り（全員が意識して、高まっていこうとするシンボル）</p> <p>② 練習計画（自分たちで作り上げるハーモニー）</p> <p>③ 専門家の指導（より高い技術を習得）</p> <p>④ 道徳での授業とリンク</p> <p>○ 事前</p> <p>・集団生活の向上4ー(1) 「私の存在」（道しるべ 正進社） 合唱コンクールに向け、学校やクラスでよりよい人間関係を築こうとする意欲をもつ。</p> <p>・愛校心、校風の樹立4ー(7) 「合唱コンクール」（明日をひらく1 東京書籍） 学級や学校を愛しその生活の中で自分の役割を果たし、よりより学校生活の実現に努めようとする意欲を高める。</p> <p>○事後</p> <p>・男女の協力2ー(4) 「班でのできごと」（明日をひらく1 東京書籍） 男女はそれぞれの立場や考えを理解し、協力し互いに尊重しようとする態度を育てる。</p> <p>・友情2ー(3) 「勝利への坂道」（明日をひらく2 東京書籍） 相手の立場を思いやり、眞の友情とは何かということを深く考え、よりよい行動をする態度を育てる。</p> <p>「班でのできごと」（明日をひらく1 東京書籍） 男女はそれぞれの立場や考えを理解し、協力し互いに尊重しようとする態度を育てる。</p> <p>⑤ 学年合唱（3年生を送る会、卒業式につなげる。）</p> <p>⑥ 夢つながり合唱祭（廿日市市主催）へつなげる。</p> <p>⑦ メッセージカードの作成（自己有用感の育成）</p>	

取組の課題・創意工夫『キーワード 時間確保』

- 発表の順番の工夫（1、2年の発表を先に行ったり、学年合唱を一番最後にプログラムするなどすれば、もっとより多くの保護者の方に見てもらえるのではないかと思う。）
- 練習時間の確保、時間の厳守
- 盛り上がってくるはよいが、廊下を歌いながら（異常な歌い方）移動をしたりするなどは課題である。
- 合唱曲の選定の問題（文化祭実行委員→全教職員という流れを確実に）

取組の成果（効果）『キーワード 効果的な取組』

- 年々、生徒の取組も普段の様子を見ていると、盛り上がってきてている。
- 他学年と練習をする機会がそれぞれのレベルが確認でき、非常に有効である。
- 専門家の先生に指導していただく機会は、生徒のやる気を掻き立てるのに大変有効である。
- 学年合唱が学年集団という意識も高めることができる機会となっている。
- 他の行事とリンクさせた取組なので、継続的に意識を高めていくことができる。
- メッセージカード等で自己有用感を高める取組になっている。

今後の展開『キーワード 縦のつながり』

- クラスのつながり、学年の横のつながりは高まってきたので、学年でクラス数が違っていても、縦のつながりをさらに高めていけるような取組みを展開させてていきたい。
- 合唱だけでなく、他の行事や日常の生活の中で、縦のつながりを高めていけるような取組を展開させていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 各取組みをリンクさせる』

各行事・各取組みが途切れ途切れにならないよう、それぞれをリンクさせて、系統立てて、計画的に、しかも生徒が主体的に取組めるようにしていけたらと思います。

指定校番号	29045	学級活動		生徒会活動		学校行事	<input checked="" type="radio"/>	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	----------------------------------	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立高宮中学校	校長	佐々木生祐	生徒指導主事	北村 清
-----	-------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『たかみや大地の祭り』への参加

取組のねらい『キーワード 地域の良さを発見』

- ①郷土学習を通して、多様な人との関わりや生き方に触れることで、自らの「生き方」を将来の姿に結び付ける。
- ②地域振興会との連携の中で、「郷土の活性化・継承」といった取組を目の当たりにし、主体的に地域の一員としての自覚を高めるとともに、地域の良さを発見する。

内容項目 (3) エ 望ましい勤労観・職業観の形成

身に付させたい資質・能力

- ①課題解決に向けての共同的な態度を養う
- ②将来や生き方について考えを深めていく力

取組の具体的な内容『キーワード 地域とのふれあい』

地域行事である「たかみや大地の祭り」の実行委員会に参加し、趣旨、運営、中学生の参加態勢（全校活動）について把握、具体的な取組は、総合的な学習の時間で準備、練習等を行う。

- ①「たかみや大地の祭り」実施計画の職員への周知



- ②指導計画作成と生徒への周知

- ③生徒の活動内容

(ア 応援団の発表【黄組】 イ 駄菓子屋販売【3年】 ウ オムそば【各学年4名】
エ キッズハローワーク【1・2年】)



- ④準備物の作成及びお菓子の値段の決定

- ⑤オムそば作り体験

- ⑥机・椅子の搬入

- ⑦最終の打ち合わせ



- ⑦振り返り（当日に振り返りを行う）

地域の方に『オムそば作り』の手ほどきを受け、当
日は完売しました

取組の課題・創意工夫 『キーワード 誠意』

○取組の課題

①生徒にとって慣れない商売体験は、地域・保護者等へどのように対応したらいいか予測がつかない。

②自分たちの手で作ったもの売るという厳しさがある。

○取組の創意工夫

①商品を買う人の気持ちを考慮し、商品の値段の設定及びPOP作りの工夫を行う。

②「オムそば」を体得させるために、地域の方の実技指導を要請する。



取組の成果（効果）『キーワード 地域の温もり』

①商売の難しさと、売れた喜び、完売した喜びによる達成感を味わった。

②商売や各地域のブースの手伝いの体験により、地域の方々とのふれあいのきっかけを作り、コミュニケーション力を身につけた。

③地域の方々の中学校への支援や温もりを感じることができた。



**キッズハローワーク参加
(地域のブースのお手伝い)**

今後の展開『キーワード 工夫改善と継続』

①来年度につながる工夫改善と行事を継続して行う。

②各教科、領域との関連を整理し、人とのつながりの大切さや地域に誇りをもち、自らの生き方につなげていく。



他校へのアドバイス『キーワード 地域の学校』

生徒や教職員に「地域の学校」という意識とつながりをもたせるための体験活動を実態に応じて仕組んだらよい。

生活ノートから～生徒の感想～

今日は大地の祭りでした。オープニングでダンスをしました。「ファミリーねこの手」の手伝いにいきました。私は物を作るのが好きなので、こういう仕事ができて良かったです。仕事を中学生がいっぱいやっていたので、いいなと思いました。ボランティア活動をしたので地域の方々も喜んでもらえたかなと思います。中学生になって初めての大地の祭りがとても楽しかったです。

今日はオムそばを売りにいきました。いろんな人が買いに来てくれました。今まで、練習をしてきたことをがんばろう！と思いましたが、私はずっとたまごを割って混ぜることしかできませんでした。私も作りたかったなと思う反面、お客様がたくさん買ってくれて笑顔になっているのを見ると本当にうれしくなり、少しでも役に立てるなら、たまごの下準備だけでもいいわ。と思いました。休憩時間に、友だちが『オムそば、おいしかったよ』と言ってくれました。うれしくなり、心から参加してよかったです。

指定校番号	29050	学級活動		生徒会活動		学校行事	<input checked="" type="radio"/>	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	----------------------------------	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和中学校	校長	村田 聰之	生徒指導主事	濱原 光伸
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『吉中太鼓』

取組のねらい『自己存在感を高める』

吉中太鼓は今から31年前、「荒れた学校の立て直しと居場所を無くした生徒の学校への定着」を念じて生まれたものです。当時の吉和中学校は、暴力行為も多発し、学校に位置付かない生徒たちを、どうやったら学校に位置付かせるか、課題のある生徒の居場所づくりを目的として誕生しました。その後、吉中太鼓を通じて自己存在感を高めることを目標に、全生徒を対象として、総合的な学習の時間を利用し、「心で打つ太鼓」を目指しています。



身に付させたい資質・能力『コミュニケーション能力の育成』

生徒の育成したい資質・能力を「コミュニケーション能力・思考力」と設定し、生徒の吉中太鼓に対する意欲を向上させ、コミュニケーション能力の育成を図る。

取組の具体的な内容『主体的な学び』

太鼓の練習は、総合的な学習の時間を利用し、6月からスタートし、3月(12月は無し)まで、毎週学年に応じた練習を行っています。文化祭やバチの受け渡し式ではそれぞれの学年が、練習してきた成果を発表しています。また、3年生は校内での発表にとどまらず、地域のイベントや、尾道市のイベントにも積極的に参加しています。

吉和こども祭り(8月)	運動会(9月)	吉和地区敬老会(9月)
尾道トラック祭り(9月)	吉和町民フェスティバル(11月)	文化祭(11月)
尾道青少年健全育成大会(11月)	バチの受け渡し式(3月)	



発表の場をいくつか設定することで、1・2年生は、3年生の太鼓を目標に、3年生は今回の演奏よりは次の演奏と、昼休憩の時間も積極的に体育館へ行き、曲を聴いてくれる方々をいかにして感動させるかを、自ら考え課題を持って、主体的に練習に励んでいます。

取組の課題・創意工夫『継承』

現在、3年生が31期生となり、練習は退職された吉中太鼓創始の先生の協力のもと、本校職員で指導に当たっています。昨年度、吉中太鼓創設30周年を迎える尾道市教育委員会より「きらり賞」を頂きました。しかし、誰もが指導できるわけでは無く、指導の後継者を育成しながら、今日に至っている。今年度は新しいメイン指導者のもと、職員が一丸となって、太鼓の指導を行っています。



取組の成果（効果）『太鼓が人を変える』

3年生になり、人前での発表が増える頃になると、3年生の意識が変わり、ルールを守らなかった生徒も、リーダーや周りの生徒の声かけにより、次第に集団の中に入って行っています。

更に太鼓の頭(リーダー)は、太鼓の練習を仕切るだけにとどまらず、吉和中学校を仕切っていくリーダーとして大きく成長し、吉和中学校に在籍する、すべての生徒のあこがれのリーダーへと成長しています。



今後の展望『吉和中で学んで良かった』

近年、本校への入学者が大きく減っています。吉中太鼓の取組を通して、主体的な学びを継承し、生徒の自己存在感を高め、吉和中で学んで良かったと言える生徒を多く輩出していきたいです。



他校へのアドバイス『核』

ひとつの行事を継続することの大切さと、自校の教育の根幹をなすものを見つけることです。

指定校番号	29055	学級活動		生徒会活動		学校行事	<input type="radio"/>	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	-----------------------	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原中学校	校長	定宗 謙二	生徒指導主事	小田 昌滋
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『合唱祭に向けての取組』
取組のねらい『キーワード：自己肯定感』	
<p>本校は、生徒の自己肯定感が高くななく、また、自己有用感を感じる場面が少ないことが問題行動や不登校の原因にもなっている。そこで、生徒主体で活動することが達成感になり、成功体験が他の学校生活全体へのやる気にも繋がればと考えている。また、自己肯定感の高まりが問題行動や不登校の減少に繋がると期待している。</p>	
身に付させたい資質・能力	
<p>「社会性の育成」の為に、相手からのメッセージを受け止める力を養い、言葉を理解するだけではなく、場や相手の雰囲気からメッセージを読み取る力を付けさせたい。また、最善を尽くす為に、自ら考え仲間と協力し行動できる力を育てたい。</p>	
取組の具体的内容『キーワード：縦割り練習による異学年交流』	
<p>合唱祭に向け、各クラスでは、指揮者、伴奏者、スピーチ、めくり作成、パートリーダーなど役割分担をして取組を行っている。合唱祭当日に向け、各クラスではパートリーダーが中心に指示を出して練習を行っており、クラスの中での練習だけでなく縦割り練習も行う中で、異学年交流を行っている。縦割り練習の際は、3年生が司会をするなどして全体の進行を行っている。</p>	
取組の課題・創意工夫『キーワード：メッセージカード』	
<p>学年練習や縦割り練習の際には、お互いの良い点・改善点を「メッセージカード」に記入させている。記入されたカードは各クラスに掲示するなどして、書いてある改善点などをその後の練習の参考にしている。また、肯定的なアドバイスは、生徒のやる気にも繋がっている。</p>	
取組の成果（効果）『キーワード：達成感』	
<p>合唱祭に向けた練習では、様々な生徒間の課題を解決しながら、合唱祭のステージに向けて、クラス全員が一つになる事ができた。合唱祭当日の達成感は、これから学級の大きな力になったと考えている。自分たちで、創意工夫を行い、仲間と共に同じ目標に向かう努力をしたことは大きな成果であった。また、特に1年生は、2・3年生の迫力を目のあたりにして自分たちも頑張ろうと目標をもつことができた。3年生は、1・2年生の模範になるよう歌声だけでなく、ステージ上での態度も意識して取り組む事ができた。</p>	
今後の展開『キーワード：生徒会活動の発展』	
<p>合唱祭では、生徒会執行部が中心となり、当日の運営や準備を行った。生徒自ら意欲をもって取り組むことができたのは生徒会執行部の存在が大きかったと考える。今後も、生徒会が前面に全校をリードしていく流れを作っていく。</p>	
他校へのアドバイス『キーワード：環境』	
<p>合唱祭は、学校外の公共施設を会場にして保護者や地域の方を招いて行っている。発表の場が校内とは違ったため、緊張した中で、より達成感が増しているように思われる。評価や表彰においては専門家の方にも参加して頂き、より達成感を高めることができた。</p>	

校番	031	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事	○	高等学校用
----	-----	----------	--	-------	--	------	---	-------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	松永高等学校	校長	山垣内 俊行	生徒指導主事	石田 達生
-----	--------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『遺芳祭（文化祭）』

取組のねらい『Power of Smile ~ひとつになる時~』

皆で協力をして、何かをつくりあげる事により、集団としてのまとまりを高め、つくりあげる事の喜びや達成感を感得する。また、自己表現力の育成にもつなげる。

身に付させたい資質・能力

主体的に行動する力。

課題を発見し、解決していく力。

取組の具体的な内容『ENNOSITA（縁の下）』

現在の文化祭実行委員はクラス企画での活動が中心となるため、全体運営まで関わることが難しい。

そこで生徒会執行部とともに文化祭のさらなる充実を図るため、全体運営に関わるスタッフを募集する。体育館入り口や館内の装飾を施す。

アンケートを行い、新企画を立案する。

スタッフシャツを作成。

文化祭ボランティア

ENNOSITA

募集開始!!

「やりたいこと」を「かたち」にする。

生徒会企画実現のための準備・文化祭を充実したものにする意見交流などを行います。

- 放課後の活動に積極的に参加する人
- 文化祭を盛り上げたいと思っている人
- 体を動かすのが好きな人

こんな人待っています!!

募集人数 約30人

活動時間 平日の放課後

活動内容 会場の飾り付け 新イベントの準備





取組の課題・創意工夫『企画・準備・運営』

担当ブロックごとに人員を配置し、責任を持って運営を行うようにした。

生徒に企画書作成を義務付けた。

生徒全員にアンケートを取り、新企画を立案した。

初めての取組みであり、スタッフが十分に集められるか不安であった。今後も主体的に参加する生徒をいかに安定して集めることができるかが課題である。



取組の成果（効果）『行動させる』

教員の指示による運営ではなく、生徒自身に考えさせ判断させ行動させることで、年次の枠を超えた生徒同士のつながりが深まり、連帯感や達成感を得ることができた。また、身に付けさせたい資質や能力も徐々にではあるが高めることができてきている。

今後の展開『一般公開に向けて』

今回の行事をステップにし、校内のつながりに留まることなく、一般の方にも楽しんでいただける内容のものを企画し、地域の方との絆を含められればと考えている。

年度ごとにレベルアップしていく生徒集団を育んでいきたい。

他校へのアドバイス『月イチボランティア』

他校へのアドバイスではなく自校のもう一つの課題として、生徒同士のつながりが薄い現状の中で、いかにつながりを深めていくかが課題である。昨年度より始めた「月イチボランティア」を基盤により大きな輪に広げ、学校行事などを支える主体的な生徒会活動が本校の伝統となるよう願っている。

校番	050	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事	<input type="radio"/>	高等学校用
----	-----	----------	--	-------	--	------	-----------------------	-------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立河内高等学校	校長	西山 光人	生徒指導主事	川原 栄治
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『全校写真コンテスト』

取組のねらい『伝える力・受け取る力』

自分の気持ちを伝えることができ、人の気持ちを感じ取ることができれば、望ましい人間関係を築くことが容易になる。そのため『伝える力・受け取る力』を様々な機会を通じて育み、自分とは異なるものを受け入れ尊重する態度を養うことにより、よりよく生きる力を身につける。

身に付させたい資質・能力

- ・自分の考えや気持ちを、正確に伝えることができる。
- ・人の考えや気持ちを、正確に受け取ることができる。

取組の具体的内容『表現する・感じる』

全校生徒一人一人がテーマに則して写真を撮影し、文化祭当日に展示する。校内選考委員会によって展示を見た人の反応も含めて評価して受賞作品を決め、文化祭閉会式において優秀作品の表彰を行う。

取組の課題・創意工夫『見る側を意識して表現する』

いしこまつり 昨年度、写真家の石河真理さんによる写真教室を各学年2回ずつ実施し、技術的な指導に加え、『伝えたいことを伝えるためにはどのような視点が必要か』を生徒に考えさせた。今年度も、1年生に対して同じような講習を行った上で、コンテストを行った。

コンテストの要項に、人を中傷するもの、いたずらやいじめにつながるもの、肖像権やプライバシーを侵害するものや他者の撮影したものを出品してはいけないという注意事項を記し、丁寧に説明した。

提出方法は、写真のデータが入ったメディアを学校へ持参する方法と、写真のデータをメールに添付して河内高校のアドレスに送る方法のどちらかとしたが、ほとんどの生徒はメールで提出した。

作品は2L版に印刷しそれぞれを額に入れて、最も人通りの多いところにクラスごとにパネル展示した。表彰を行う際にはパワーポイントを用いて受賞作品をスクリーンに映し出して紹介した。

取組の成果(効果)『他者理解』

本校では特別支援の視点から、『生徒に伝わらないのは生徒の側の問題ではなく、伝わるように話せていないのではないか。』という基本認識に立ち「伝える」ことを意識して授業や指導を行っている。そして、できていることを認めてほめることや、否定的な表現を使わず、「○○すれば○○できる」といった肯定的な表現を使うなど多くのことを継続的に行っている。また、写真コンテストだけでなく写生大会(1年生)や短歌コンテストなど自己表現の場と表彰される機会を多く設け自己肯定感の醸成と、他者を認め、容認する心の育成へとつなげている。

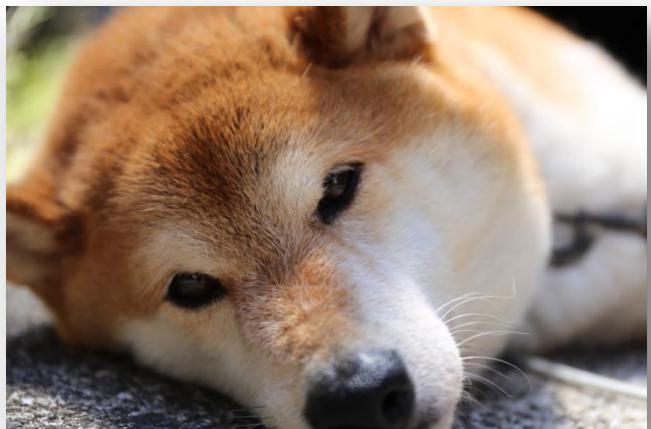
そういった学校全体の取組が背景にあって、コンテストに出品された作品の中に、人を中傷するものやいたずらやいじめにつながるものなどは一切なかった。文化祭当日、展示された作品に関して、自分と異なる視点に驚く声や、称賛する声があちこちで聞かれた。トラブルを起こす生徒にありがちな、自分と異なるものを否定したり非難したりする姿は全く見られなかった。

生徒はこの取組を通じて、人の感性に触れることに喜びを感じたり、伝えることの難しさを実感したりすると共に、受け取る側が正しく受け取ってくれて初めて「伝わる」のだというコミュニケーションの基本的なことを実感することができたと思われる。

生徒指導部が実施している生活満足度アンケートにおいて、学校生活に満足しているかという問い合わせ肯定的な回答をしている生徒の割合（1・2年生）は、H27年度 70.8% H28年度 77.3% H29年度 80.0%と増加している。



大賞 「海の太陽」



優秀賞 「幸せ」



優秀賞 「秋とカメラ」

今　後　の　展　開『主体的対話的な深い学びへ』

次回は、コンテスト終了後に良かったと思う作品とその理由をグループ内で話し合い、それぞれの感想を共有する時間を設けることにより、一層自分とは異なるものを受け入れ尊重する態度を養いたい。その際、押し付けがましさや胡散臭さを生徒が感じないように工夫する必要がある。

また、5回目を迎えた全校写真コンテストだが、実施時期や内容を生徒に決めさせるなど、生徒が主体的に行うコンテストへと深化させていく必要がある。

他校へのアドバイス『教職員の意識転換』

まずは教職員が「伝える」ことに関しての意識を変え、相手を意識して伝わるように話そうとしているという姿を見せ、できていないことを批判するのではなく、できていることを認めるという姿勢で生徒に接することが大切である。そういう雰囲気があって初めて個々の取組が効果的なものになり得る。

校番	62	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事	0	高等学校用
----	----	----------	--	-------	--	------	---	-------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安西高校	校長	澄川 利之	生徒指導主事	鯉迫 勝也
-----	------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『ルーズヴェルト高校訪問団歓迎行事』

取組のねらい：『豊かな国際感覚の育成・協働』

ハワイ州・ルーズヴェルト高校との姉妹校提携を機に海外短期ホームステイを実施。ルーズヴェルト高校訪問団を本校に迎え、日本文化を伝えるとともに歓迎行事を通じて海外の生徒と触れ合う中で国際感覚を身につけ、協働への基礎力となる力を涵養する。

身に付させたい資質・能力：『協働の基礎力』

- ・海外の方を迎えるためのマナー、行事の中での基礎的な英会話。
- ・積極的な対応能力。
- ・チャレンジ精神

取組の具体的な内容：『 Let's try ! 』

- ・1・2年生体育実演演技（ダンス、マスゲーム、集団行動）
- ・ルーズヴェルト高校紹介VTR、ハワイ大学プレゼン、安西高校紹介VTR
- ・書道大書揮毫、茶華道交流
- ・交流授業（英語クラス）、クラブ体験（書道、バスケット）
- ・お好み焼体験



取組の課題・創意工夫

- 生徒発案の交流メニューを取り入れる⇒来校日程から逆算した取り組みのスタートが必要
- 体育館での全体行事はスムーズに進行できた。
- より多くの生徒が交流と対話に関わるための設定が必要。

取組の成果（効果）『 一步前進！ 』

- ・見送り場面では生徒たちが積極的に関わりを持っていた。
- ・短期間での歓迎準備にもかかわらず、生徒会を中心に関係部所の生徒、教員が協力する事ができた。
※『歓迎!』という目的達成への努力

今後の展開『協働の実践』

《国際交流》

- ・ハワイでの短期ホームステイ参加人数を増やしたり、プログラム内容の充実を図ったりして、姉妹校としてのより良い関係を構築する。
- ・今後、広島でのホームステイ受け入れを積極的に推進していく。

《校内》

- ・他者理解を深め、協創する学校風土につないでいく。

他校へのアドバイス『 海外交流の推進 』

- ・国を問わず、海外との姉妹校提携を積極的に推進するべきである。
- ・他者との関わりの機会を活用したキャリア教育の推進。

学校行事

健康安全 · 体育的行事

学校行事

健康安全 · 体育的行事

指定校番号	29031	学級活動		生徒会活動		学校行事	<input type="radio"/>	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	-----------------------	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立加茂中学校	校長	藤田 岳士	生徒指導主事	沖藤 豊
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『生徒の自律・協働を促す学校行事』

取組のねらい『キーワード 自律・協働』

「自律」(活動の見通しを立てたり、振り返ったりすることを繰り返しながら集団の中での自らの役割を果たす)と「協働」(他者意識を持って自分の思いや考えを伝え合い、仲間と共に成功を目指す)を、教師の意図的・計画的な指導・支援を通して促す。

また、成功体験を積み重ねることで、生徒の自己肯定感の向上、共感的人間関係の育成を図る。

身に付させたい資質・能力

望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、仲間と協力してより良い学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度

取組の具体的内容『キーワード 異年齢集団による活動』

(体育大会)

縦割りで組を編成し、3年生の応援団長、応援リーダーが1、2年生の応援リーダーに応援の指導を行った。リーダーは限られた練習時間の中で、いかに全体を効率的に動かすことができるかを考え、話し合い、実行に移した。応援団以外の生徒も体育大会の成功に向けて、指示を聴く姿勢を整える、振付を教え合う、大きな声を出す等、チームのために自分ができることを考え、行動した。



(文化祭)

全生徒による3部合唱を行った。生徒会が中心となって全生徒の意見を集約し、合唱曲の選曲を行った。クラス練習、パート別練習、全体練習は、各クラスのパートリーダーを中心に行った。全体練習時には、3年生のパートリーダーが成功に向けての思いやアドバイスを伝える場面を設け、1、2年生をリードした。他の生徒は、成功に向けてお互いに意見を出し合ったり、日記に考えたことを書いたりして個人の目標を定め、本番に向けての準備を進めた。



取組の課題・創意工夫 『キーワード 振り返る・伝え合う』

(課題)

練習の序盤にはリーダーの思いが他の生徒に上手く伝わらない場面も見られた。そのため、練習後の反省を行うときに教職員も入り、どう伝えたらよかったです、練習の流れはよかったですのか等、振り返りの視点を与えた。また、学校行事は意欲を持って取り組めるが、普段の授業では意欲のない生徒がおり、学校行事と普段の授業をつなぐことに課題がある。

(工夫点)

体育大会や文化祭等、学校行事後の学級活動において、自他の頑張りを振り返り、今後の学校生活にどう活かしていくのか見通しを持つ活動を行った。2学年では、文化祭の成果と課題を付箋に記入し、それを班の中で自分の意見を伝えながら模造紙に貼り、活動のプラス面とマイナス面等を整理するという活動を行った。生徒は、活動を通して互いの良さを認め合うことができた。



取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感・所属・承認意識』

生徒アンケートの結果から、年間の取組を通して、生徒の自己肯定感や承認意識が高まっていると考えられる。（下表参照）

(%)

項目	5月	1月
自分には、よいところがあります。	73.1	79.8
自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。	64.4	68.5

自己肯定感・承認意識に係る項目の肯定的評価の割合

また、生徒の振り返りでは、他者の頑張りを認める意見や、自身のやってきたことを普段の学校生活に生かそうとする意見も出た。

（生徒の振り返り）

- 応援リーダーは、声をからし、優勝するにはどうすれば良いかを自分で考えていました。そして、リーダーをサポートする人たちも、放課後に残って練習をしていました。また、陰で必要な物を作ってくれた人などの協力、頑張りがこの結果につながったと思います。この先、自分たちが努力したことを忘れずに頑張りたい。
- 私は3年の先輩の『最後だから優勝したい』という気持ちが、日々の練習の中で伝わってきていたので、苦手だったけど、自分から精いっぱいの大きな声を出しました。今後は、苦手な授業中の発表もするようにして、自分に自信を持てるようにします。

今後の展開『キーワード つなぐ』

生徒アンケートの自己肯定感・承認意識に係る項目の肯定的評価の割合は、80%を目標にしている。目標達成のために、教員側が生徒同士をつなぐための活動を意図的に仕組みながら、生徒同士の望ましい人間関係づくりをさらに進める必要がある。3学期は、各学年等で行った活動事例を交流し、次年度につなげる。

他校へのアドバイス『キーワード 教員の見通しと共通認識』

教員が中学校生活を見通し（3年後の生徒の姿を明確にし）、1年後の生徒の姿を具体化する。その姿をイメージして行事、学年・学級経営の計画を立て、共通認識の下、組織的に事前から事後の指導を行うことが必要である。

指定校番号	29043	学級活動		生徒会活動		学校行事	<input checked="" type="radio"/>	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	----------------------------------	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田中学校	校長	大田 稔	生徒指導主事	野島 悠志
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『体育祭』

取組のねらい『体育祭への主体的な参加』

3年生が、最高学年としての自覚を持ち、組集団優勝に向けての練習を企画し、下級生をまとめて練習を実施させていくことにより自己有用感をもって主体的に体育祭に参加することをねらいとする。

身に付させたい資質・能力

- ・自己有用感を高める。
- ・自己存在感を高める。

取組の具体的内容『生徒が企画』

体育祭の練習に、全体練習、学年練習とは別に、組集団練習の時間を設け、組集団優勝を目指し、3年生がリーダー中心に個人種目や応援合戦などの練習内容を企画する。また、全学年共通の種目（騎馬戦・長縄跳び・クラス全員リレー）の練習では、過去2年間の経験を活かし、各種目でのコツや作戦を3年生が下級生に指導する。



取組の課題・創意工夫『3年生の担任の負担』

3年生の担任は、生徒に企画させる中で、その枠組みの指導や確認、修正をしなければならない。また、組集団練習中は生徒に指導させながらサポートし、練習後に活動に対する評価、指導もしなければならない。3年生の担任に負担が偏らないように、同じ組集団の1、2年担任、副担任とさらに連携して指導することが課題である。

取組の成果（効果）『活躍の場』

第3学年の生徒アンケート「自分には良いところがあります。」の肯定的評価が平成28年12月（2年次）では、54.3%から、平成29年7月（体育祭後）では、65.6%で、11.3ポイント上昇した。このことから、日頃、自分に自信が持てない生徒も、ここが活躍できる場になり、自己有用感や自己肯定感を高めることができたと考えられる。

また、共通の目標に向けて取り組むことで共感的人間関係の形成につながり、不登校傾向の生徒も練習に向けて登校頻度が増えるなど、居場所づくりにも効果があったと考えられる。

今後の展開『全体としての取組への移行』

今年度からの取組であり、反省点として「他学年との連携不足になり、第3学年に負担がかかりすぎたこと」、「他学年としても指導に参加することが難しい状況だったこと」が挙げられる。教員間の連携により、教員も生徒も組集団練習での意識を統一し、さらに効果的な取組になると思われる。

他校へのアドバイス『やらせてみればできる』

3年生は生徒指導上課題が多い学年で、彼らが主体的に活動することができるか、また中心になって下級生に指導できるか心配だった。しかし、指導する立場であることを自覚したことからか、服装、授業態度、授業遅刻の改善や主体的に取り組み、練習ごとに改善に向けて話し合う姿が見られた。生徒指導上の課題が多い生徒も、体育祭後の解団式では、下級生に対して、優勝できず力が及ばなかったことへの反省の言葉や指導を受け入れてくれたことへの感謝の言葉を述べることができた。

指定校番号	29046	学級活動		生徒会活動		学校行事	<input checked="" type="radio"/>	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	----------------------------------	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第三中学校	校長	日名貞 秋典	生徒指導主事	西村 直朗
-----	-----------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『運動会』

取組のねらい『キーワード：集団での適応力の育成』

縦割りで団を結成し、全員の協力と団結で企画・運営をしていく中で、公正に行動し、進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たすなど、社会生活に必要な態度を養う。

身に付させたい資質・能力

課題発見・解決力、チャレンジ精神

取組の具体的内容『キーワード：上級生から下級生への伝統の継承』

本校では、縦割り集団で3年生（特に応援団）を中心に運動会を企画・運営している。毎年、「3年生になったら応援団に入り、みんなをリードしたい」と言って意気込んでいる3年生が多くいる。その位、良い伝統となっている。

本年度も下級生への指導を上級生に任せ、全校生徒による校歌斉唱の練習や応援演技の練習を実施した。

また、各団の応援演技の振付を考えたり、練習の進捗状況をみて練習計画を再考したりするなど、生徒主導で取り組ませた。



〈各団の結団式の様子〉

取組の課題・創意工夫『キーワード：事前の取組を仕掛ける』

本校では、運動会を生徒のリーダーシップのもと主体的に取り組むことが伝統となっている。2学期開催の運動会に向け、各学年から応援団（リーダー）の選出を1学期後半にさせ、夏休みを利用し、3年生の応援団に対し、下級生への指導方法を体育科の教員で指導した。夏休み後は、3年生の応援団が1、2年生の応援団を指導し、応援団と3年生全員で役割分担し、全体の指導を行った。

本校の課題は、縦割りの取組が「運動会だけの取組になっている」ことである。この取組を運動会だけでなく、その他の特別活動等につなげていかなければならない。



〈各団応援演技の指導〉

取組の成果（効果）『キーワード：集団の中における自身の役割の自覚』

生徒主導による運動会の運営は、3年生のリーダーとしての自覚を自然と促すものであった。集団の中での自身の役割を自覚させ、指導する者として何を意識しなければならないかを考えさせることができた。自分が過去に3年生から教わった時の事を思い出し、どう表現したら思いが伝わるのかを必死で考えている様子が見られた。

右下の写真は、解団式の際に2年生から3年生に対して、運動会での感謝の思いを伝えるために、エールを送っている場面である。教員の指示で、2年生に意図的に仕組んでいる面もあるが、2年生には“感謝の思い”的伝え方を学ばせ、これを見た1年生には、後輩としてどう在るべきなのかを“感じてほしい”という教員側の思いがある。



〈解団式での様子〉

今後の展開『キーワード：あらゆる活動につなげていく』

本校の弱みは、生徒が熱しやすく冷めやすいところにある。学校行事では、様々なリーダーを中心に活発に取り組むことができる。しかし、リーダーを務めていた生徒が、普段の生活に戻ると丁寧に授業に取り組めない実態がある。学校行事を通して学んだ、“仲間を大切にし思いやること”を普段の生活の中でも意識し実践できる生徒の育成につなげていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード：取組方針を全教職員で共有する』

特別活動を通して生徒に“何を学ばせるのか”を全教職員で共有し、意図的に“取組を仕掛ける”ことが必要である。

指定校番号	29051	学級活動		生徒会活動		学校行事	<input type="radio"/>	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	-----------------------	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高西中学校	校長	西田 俊徳	生徒指導主事	土生 和之
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『自主的な活動（体育大会）』

取組のねらい『キーワード：生徒が主役』

- (1) 生徒の自主性を伸ばし、行事を自分たちの力でつくっていく。
- (2) リーダーを育成し、自己決定の場を与える、自己存在感を高める。

身に付させたい資質・能力

- (1) 課題を発見し、解決する力
- (2) リーダーとして、みんなを引っ張り、まとめていく力

取組の具体的内容『キーワード：レールを引く』

- (1) 教員の打ち合わせ、取組を共有し、ベクトルをそろえる。
学年対抗であった体育大会を縦割りにし、その意義を共有するところから。
- (2) 担当教員と担当生徒（リーダー）との打ち合わせをていねいにする。
- (3) 毎日反省会をもって、次の改善点や練習内容を確認する。

取組の課題・創意工夫『キーワード：待つ・まかせる・褒める』

- (1) 不慣れなリーダーもいるが、教員がすぐに出ないようにする。『待つ』
- (2) 教員に頼らないよう、自分たちでやろうとする姿勢をつくる。『まかせる』
- (3) 頑張ったところなど、肯定的な評価をする。『褒める』

取組の成果（効果）『キーワード：育成』

- (1) リーダーとなった生徒が、自覚をもって指示や指導を行うようになり、自己存在感を味わうことできた。
- (2) 自分たちでやっているという気持ちで、練習が明るく楽しそうであった。共感的な人間関係ができてきた。
- (3) 教員にも余裕ができ、褒める材料が多く見えてくるようになった。



今後の展開『キーワード：繋げる』

- (1) こういった自主的な活動が、他の行事や活動へ生かされるようにしていく。
- (2) リーダーを中心とした動きをつくり、自己決定の場を増やし、自己存在感を高めていく。
- (3) 他の活動のなかにも、縦割りを取り入れていき、異年齢の交流の場をつくっていく。



他校へのアドバイス『キーワード：準備』

- (1) 行事へ向けての教員の話し合いや打ち合わせ、その都度練習後に生徒と反省や打ち合わせが大切。こういった『準備』がなくして、目標とする活動にはならない。
- (2) 1度形ができれば、下級生は先輩を見て学び、受け継がれていき、進化する。

校番	16	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事	○	高等学校用
----	----	----------	--	-------	--	------	---	-------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹高等学校	校長	見村眞由美	生徒指導主事	岡本茂生
-----	--------	----	-------	--------	------

取組事例名 『大竹高校 体育祭』

取組のねらい『キーワード チームの団結・共感的人間関係の形成』

- 行事の意義や本校行事の歴史的経過などを十分に理解させるとともに、クラスの団結や各学年の役割など、個の力の集結が大きな力になることを日々の実践から学習させ、良好な人間関係を築く。

身に付させたい資質・能力

- みんなで協力し目標を達成しようとする態度
- 最後まで全力でやりきろうとする力

取組の具体的な内容『キーワード リーダーシップ・所属感』

- 縦割りの色別に分かれた各チームに、3学年がリーダーシップを發揮し、掛け声や足並みをそろえた行進練習をチームごとに行うなど、団結力を高める。
- 入場行進コンテストを行い、地域の方々に評価していただき競技種目と同様に得点化する。
- クラス別男女とも校歌斉唱を行い、リーダーの声掛けから意欲を高めて種目練習を行う。
- 学年種目には、フォークダンスを取り入れ、3年生の一体感をあらわす。



取組の課題・創意工夫『キーワード 自信・達成感』

- 運動部活動による発表の場を設ける。
- 大きな声を出し全力でがんばることへの抵抗感や恥ずかしさを感じている生徒に対して、チームとして助け合うために一人一人の存在が必要であることを理解させる。
- 声の大きさを示す指標としてサウンドレベルメーターを使用して数値化することで意欲の向上を図った。
- 我慢することの苦手な生徒が多く、ガマンをテーマにした競技種目を導入した。



取組の成果（効果）『キーワード 連帯感』

- ・声を出すことが数値としてあらわれ、全体を引っ張る意識付けになり各学年において意欲の向上が見られた。
- ・各学年種目において、声を掛け合う・戦術を練るなど、クラス内においての自発的活動につながりつつある。

今後の展開『キーワード 自主自律』

- ・生徒会を中心に各部活動との協力体制を築き、企画・準備・運営など生徒主体で学校行事の運営ができるよう段階的に積み上げていきたい。
- ・リーダーシップを取れる生徒の育成。
- ・本校独自の種目を検討し伝統化・継承する取組み。

他校へのアドバイス『キーワード とりあえずやってみよう』

- ・十数年前には体育祭の企画自体が難しかったが、生徒たちの力を信じて教職員が取組みを続けた結果が今の体育祭につながっている。地域の方々にも行事への参加をしていただいたり、他校の取組みから学び改善・改良を重ねてきた。本校では取り組むのが難しいと予測される種目などにもチャレンジをしてきた。心配するよりもまずやってみることが意外な成果をだすこともあり、失敗を恐れないことも何かをやり遂げるための重要なポイントであると再確認できた。

校番	032	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事	○	高等学校用
----	-----	----------	--	-------	--	------	---	-------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	沼南高等学校	校長	沖井 信	生徒指導主事	松浦 祐子
-----	--------	----	------	--------	-------

取組事例名 『体育祭』

取組のねらい『キーワード 楽しく 厳しく』

- ・体育祭への参加を通して、体力の向上や運動に親しむ態度を育てる。
- ・規律ある集団行動や、相互を尊重する力を育てる。

身に付させたい資質・能力

- ・自律しながら、主体的に協働する力
- ・自他を認める力

取組の具体的内容『キーワード 集団の底力』

- ・学年対抗戦にすることで、学年全体で競技に取り組ませる。
- ・儀式的な場面、競技の場面等、それぞれに応じた行動や態度が取れるようにする。
- ・生徒全員に役員としての役割を与え、責任感を持って参加させる。



取組の課題・創意工夫『キーワード 誠実に一生懸命』

- ・学年練習を臨時で時間割に組み入れ、学年集団の結束力が高まるようにする。
- ・入場行進及び開会式の態度も採点対象とし、競技以外でも緊張感を持って臨ませる。
- ・競技ではフェアプレイを呼びかけ、対戦相手への誹謗中傷やからかい等があった場合は失格とする。
- ・生徒役員の仕事内容・分担を細分化し、生徒自身が「いつ・何をすればいいのか」を明確にする。
- ・生徒役員の事前打ち合わせ会議の中で、「一人一人が役割を果たさないと、他の人に迷惑がかかる」ことを伝え、役員としての自覚を促す。



取組の成果（効果）『キーワード やればできる』

- ・生徒の 75.8%が「体育祭の進行・運営が適切だと思う」と回答し、全体を通しての感想として「がんばった」「楽しかった」「団結できた」等の肯定的な意見が 58 件で「足元が悪かった」「競技が多すぎる」等の否定的な意見の 8 件を大きく上回った。（実施後の生徒アンケート結果より）
- ・来場した保護者からは「がんばる姿が見ることができて良かった」「生徒達が一生懸命取り組んでいる姿に感動した」等の肯定的意見が多く、否定的意見は出なかった。またアンケートに回答した保護者の 100%が「進行・運営が適切である」と答えた。（会場での保護者アンケートより）
- ・クラスを越えて、応援する姿や欠員をカバーし合う様子が見られた。
- ・ほとんどの生徒が自分に与えられた役割を果たすことができた。

今後の展開『キーワード もっとできる』

- ・体育祭によって高まった、学年集団としての意識を維持するための継続的な取組の構築が必要。
- ・生徒会執行部が企画・運営の中心となり、教員はそのサポートに徹する形になるように仕掛けていく。
- ・そのためには、生徒会を中心とした委員会活動を充実させていくなど、生徒が主体的に動く場面を増やしていくことが必要。

他校へのアドバイス『キーワード こまやかに おおらかに』

- ・生徒の力を信じる、任せられるところは任せてみる。
- ・生徒の意見や行動が暴走や迷走をしても、慌てず冷静に、心にゆとりを持って対応する。

校番	65	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事	○	高等学校用
----	----	----------	--	-------	--	------	---	-------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立府中東高等学校	校長	小迫 孝太郎	生徒指導主事	富島 俊宏
-----	-------------	----	--------	--------	-------

取組事例名	『新入生オリエンテーション（スタートアップウィーク）』
取組のねらい『キーワード 高校生になる』	
○高校生活に慣れる（義務教育からの脱却）。	
○正しい人間関係作りを行う。	
身に付させたい資質・能力	
○生活習慣の確立（時間を守る）	
○規範意識の醸成（学校・授業のルールを守る）	
○共感的人間関係の育成（集団作り）	
○リーダーの育成	
取組の具体的内容『キーワード 一体感』	
4月10日(月)～20日(木)	
○教職員講話（校長、各主任、担任）	○エンカウンター
○ペップトーク講演会（全校）	○部・同好会活動体験
○教科オリエンテーション（英数国社体芸）	○集団行動
	
○大縄跳び大会	○校歌練習、披露
	
◆学年全体	
各クラスに分かれて様々なオリエンテーションを行うのではなく、学年全体として行うことで説明や解釈の食い違い等を防止することができる。また、全ての担任が、本校での担任が初めてであったため、教職員にとっても良い方法となった。約2週間、体育館を利用し、教室から机・椅子を運び、教科指導も行った。	
◆人間関係作り	
本校の実態として、毎年、人間関係がうまく築けない生徒が出る。特に、1年生の間は顕著である。これらの問題が、暴力行為やいじめに発展する場合もある。そのため、早い段階で人間関係作りがで	

きるような活動（エンカウンター、ペップトーク）を入れた。

◆競争意識

校歌、大縄跳びや集団行動については、生徒のモチベーションを上げるために、クラスでチームを作り、リーダーを決め、チーム対抗の対戦、評価する形式にした。優秀チームには校長から表彰（賞状・記念品）を行う。また、教職員だけで評価ではなく、生徒同士の評価もさせた。



取組の課題・創意工夫『キーワード 緩急』

○教職員主体と生徒主体

新入生対象のオリエンテーションの多くは教職員からの説明になる。そうすると、生徒主体の活動が少なくなり、心に残らず、やらされた感しか残らない。そこで、生徒が前向きに活動でき、生徒同士で目標に向かうために試行錯誤できる活動を入れた。

○厳しさと楽しさ

物事のスタートが肝心ということもあり、徹底して規律を守ることを求める。そのなかで、人間関係を構築するために、レクリエーションのような活動も交え、真剣に取り組むなかで、笑顔になれるようにした。

取組の成果（効果）『キーワード 前進』

○リーダーの育成

クラス内でのリーダーを育成することができ、その後の学校行事（文化祭、体育大会）等の進行がスムーズになった。

○問題行動の減少

※1学年の生徒を対象に1月末で集計。

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
遅刻者数（人／日）	1.4	5.7	3.9
問題行動（件）	8	16	15

○連携強化

クラス内だけでなく学年全体で指導に当たったこと、教職員・生徒が多くの時間を共有したことが、それぞれの人間関係を深めることにつながった。

今後の展開『キーワード 繼続』

この度の取組は、本校で初めての試みであった。教職員からの否定的な意見もあった。学年主任が主導でプログラムを組んだため、学年主任や担任は負担となった。次年度以降、同様の取組ができるか否かは課題である。

年度当初の取組だけに終わらせることなく、年間を通して、指導の徹底や取組が必要である。

他校へのアドバイス『キーワード チャレンジ』

この取組は不安しかなかった。学年主任を中心に、入念に準備をし、時間を共有することで、教職員と生徒との人間関係も例年に比べ、早い段階で構築することができた。また、約2週間をやり切ったことで、教職員・生徒ともに充実感・達成感も得ることができた。

学校行事

勤効生産・奉仕の行事

学校行事

勤効生産・奉仕の行事

別紙様式2

指定校番号	29024	学級活動	児童会	クラブ活動	学校行事	<input type="radio"/>	小学校用
-------	-------	------	-----	-------	------	-----------------------	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立瀬戸田小学校	校長	土居 誠子	生徒指導主事	檜原 浩生
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『一流めざせ そうじのプロ!』

取組のねらい『キーワード 自らが気づいて活動することのできる清掃活動』

○児童が課題意識をもち、清掃活動の目標や実施方法を考えることにより、生徒指導上の課題発見・課題解決能力の向上を図ると同時に、児童の自主性を高める。

○日常の「気づきそうじ」の取組と行事に位置づけた地域清掃活動をリンクさせ、清掃の意義を理解するとともに自分達の地域を大切にしていこうとする心情を育てる。

身に付させたい資質・能力

- ・自分の考えをもち、自分を表現する力 【自己決定】
- ・目標に向かって、チャレンジし続ける力【アイデンティティ】

取組の具体的な内容『キーワード 「気づく」掃除ができる児童の育成を目指して』

○「気づき」掃除

- ・毎日の掃除時間を5分間延長し、最後の5分間を「気づきそうじ」として、もともとの掃除場所に加えて、掃除する。
- ・どの場所をどう掃除するかは、各学級で考え話し合い、決定する。
- ・どんなものを使って、どのようにしていくかは児童主体で考え、担任がアドバイスする。
- ・時間に合わせて放送を入れ、「気づきそうじ」を意識させる。
- ・意欲的に活動できているところは、放送で評価する。
- ・児童は自分達の活動を、「生活点検カード」で評価する。



○学校行事の中で

①春の遠足（5月）

- ・1年と6年、2年と5年、3年と4年がペアを組み、それぞれの目的地に行く。
- ・2年5年と3年4年は、地域の海岸で過ごし、活動の中でビーチクリーンを行う。
- ・ゲストティーチャーを招き、地域の自然や生物への関心を高めたり、環境を守ることの大切さについて理解を深めたりする。

②環境整備作業（8月）

③地域清掃・貢献活動（11月）

④その他として

- ・その他にも、6月には子ども会主体での参加ではあったが、地域のサンセットビーチを清掃し、その様子を道徳授業の学習に生かした。（サテライト学習・道徳5年）また1月には中学校とも連携して、5学年が地域の潮音山クリーニング活動に参加した。

取組の課題・創意工夫『キーワード 評価と自治的活動』

○分かりやすい評価

- ・4月以降取り組んだ「気づきそうじ」の児童の自己評価は少しづつ数値を上げ、7月には85%を示した。しかし、夏の学校評価委員会において、児童がどれだけ「気づき」を意識できているのかという指摘を受け、見直すこととした。

①通常の掃除以外にどんなところが掃除できるか。

②どんな道具だとうまく掃除できるか。

③どの期間にはどんな掃除をすればよいのか。

- ・自分達がやるべきことを分かりやすくした上で、評価できるようにした。
- ・学年によっては、児童が主体的に活動できるように、話し合いの場等を設定した。

○主体的な児童会活動

- ・「気づきそうじ」と地域清掃活動が効果的に組み合わされていく中で、児童会や委員会を中心とした取組がまだ十分とは言えない。各学級での活動と児童会や委員会の活動が連動できるように、動きを仕組むことが必要である。

取組の成果（効果）『キーワード 変わりゆく児童』

- ・生活点検カードの数値は、1月時点で93%と少しづつでも上昇している。数値だけではなく、通常掃除から「気づき」に切り替わる時の動きもスムーズとなり、意欲的に活動できている児童が確実に増えてきている。
- ・気づいて行動することが身につくことで、掃除以外の場面でも徐々にではあるが、主体的に活動できるようになった児童の姿が報告されるようになってきた。

今後の展開『キーワード 家庭・地域との更なる連携』

- 児童会・委員会と連携し、縦割り活動等、児童が主体的に活動する内容を計画できるように支援していく。
- 生活習慣・基礎学力の定着に向けて家庭と連携する。その上で、自信をもって自ら伸びようとする児童の育成を目指して、更なる協力体制の構築に努める。
- 日常、地域から受けている支援に対して再確認し、自分達が地域にできることについて整理したものを、学習計画に位置づけていく。

他校へのアドバイス『キーワード 学校主導の限界』

- 学校や教職員だけがいくら一生懸命に活動しても、本当の意味で児童を変えることはできない。児童が、自ら変わらなければいけないという自覚をもって動いて初めて一步の歩みとなる。憮然とした毎日の中で、つい結果に目を奪われて、大切なことを見逃してしまうことがよくある。勇気をもって立ち止まり、静かに児童の心の声に耳を澄ませる時間をとることの大切さを忘れないようにしていきたい。



指定校番号	29056	学級活動	児童・生徒会活動	クラブ活動	学校行事	<input type="radio"/>	義務教育学校用
-------	-------	------	----------	-------	------	-----------------------	---------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中学園	校長	池田 哲哉	生徒指導主事	上例 亨
-----	----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『地域における奉仕活動』

取組のねらい『キーワード：地域と共に』

- 自分が住んでいる地域の方と一緒に奉仕活動をすることにより、自分も地域の一員であることを再確認する。
- 異年齢集団活動を通して、上級生のリーダーシップや思いやり、問題解決力を高める。

身に付させたい資質・能力

コミュニケーション能力

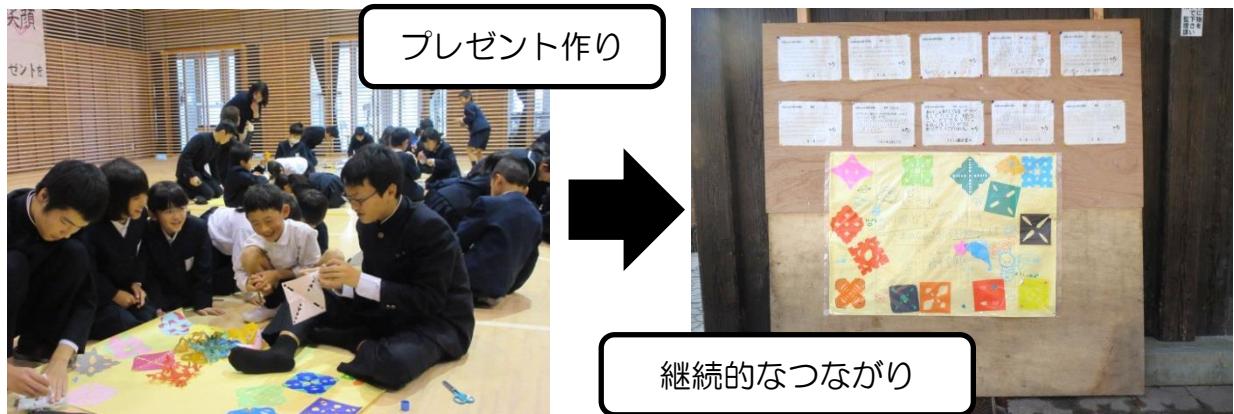
多様性に対する適応力

取組の具体的内容『キーワード：次世代リーダーの育成』

- 児童生徒の住所をもとに、3年生から8年生を35の縦割り班に分け、8年生を中心にリーダーを決めた。
- リーダー会を開き、地域ごとの事前ミーティングの進め方の確認を行った。
- リーダーを中心とした地域ごとの事前ミーティングを開き、下校ルートや清掃場所、清掃の内容を各グループで確認した。
- 当日は、学校と各地域に分かれて活動を行った。



- 1年生・2年生・9年生を35の縦割り班に分け、奉仕活動を行った活動場所に飾ってもらうプレゼント作りを行った。



- 奉仕活動後、1年生・2年生・9年生が作製したプレゼントをリーダーが中心となって地域に届けた。

取組の課題・創意工夫 『キーワード：地域・教職員・児童生徒をつなぐ』

- ・昨年度の反省を踏まえ、1・2年生の安全確保のため、学校でプレゼント作りを行った。そこで9年生がリーダーになったことにより、地域においては8年生がリーダーシップを発揮することができた。
- ・事前に町内会長等に知らせるこにより、当日、多くの地域の方々に参加していただくことができた。

取組の成果（効果）『キーワード：継続性』

- ・1年生・2年生・9年生が学校に残ってプレゼントを作製したことにより、活動後の地域とのつながりも持つことができた。
- ・その日の活動だけで終わるのではなく、奉仕活動後も8年生のリーダーを中心にプレゼントを持って行ったり、花の水やりに行ったりすることで、地域とつながることができた。
- ・奉仕活動を継続して行うことにより、地域や府中市教育委員会から、より多くの協力を得ることができるようになってきた。



奉仕活動場所に掲示された児童生徒の感想文

【生活アンケートより】

項目	9月	1月	差
自分の住んでいる地域のことが好きですか	89.3%	90.8%	+1.5%
自分のよさは周りの人から認められていると思いますか	78.9%	80.0%	+1.1%

- ・当日の活動だけで終わるのではなく、児童生徒の声を地域に掲示したり、さらに地域からの声を児童生徒に還元したりすることで、肯定的評価が高まった。

今後の展開『キーワード：学校から地域へ』

- ・地域と児童生徒が密につながることで、地域・児童生徒主導の活動にしていきたい。
- ・地域から「何をしてほしいのか」ということを聞き、実態に合った活動をしていきたい。
- ・各地域からの声を聞き、活動場所、内容等を再検討していく。

他校へのアドバイス『キーワード：地域への情報提供』

- ・毎月行われる学校運営協議会で、取組内容や行事等の情報共有に努めている。
- ・学校便り、コミュニティ・スクール便り等で児童生徒の活動の様子を積極的に発信していく。

指定校番号	29040	学級活動		生徒会活動		学校行事	○	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	---	------

平成29年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立阿品台中学校	校長	津田和也	生徒指導主事	柳川紀美江
-----	-------------	----	------	--------	-------

取組事例名 『阿品台校区小中連携』

取組のねらい『キーワード かかわり・つながりあう教育活動』

- ・小学生が、中学校生活の一部を理解し、中学生にむけての準備意識を高めることで、小学校生活の質を向上させる。
- ・中学生が、小学生の手本となるように動くことで中学生としての自覚を促し、さらに小学生から認められるを通して、自己有用感を抱かせる。

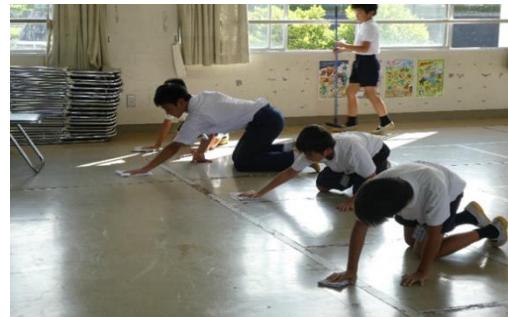
身に付させたい資質・能力 自己指導能力（心を育てる）

- ・自分で自分のスイッチを入れる。（自分で成長を確認し、改善しようとする力を身につける。）
- ・コミュニケーション能力を身につける。（取組の運営や異年齢の生徒と関わることで身につける）

取組の具体的内容『キーワード かかわる』

【つながり1】

年に2回、「小5、中学1年」・「小6、中学2年」に分かれて地域清掃を行う。中学生と小学生がグループをつくり、各小学校校区それぞれ各地域に別れて清掃をする。



【つながり2】

「小学生、中学3年」出前掃除。中学3年生が母校へ帰り、小学生に掃除の仕方を教える。

【つながり3】

「オープンスクール（授業見学・部活動体験）、出前授業」

小学6年生が中学校の授業見学と部活動を体験する。

12月中盤には、中学校教諭による授業体験をさせる。

取組の課題・創意工夫『キーワード 中学生が主体となる』

【創意工夫】

- ・つながり1・2の清掃活動は1学期に1回、2学期に1回行う。1回目は中学2年生と小学6年生が行い、2回目は中学1年生と小学5年生が行う。このペアは来年、再来年に中学1年生と3年生として同じ中学で生活することになる。中学校が縦割り掃除なので、異年齢を意識した交流が自然とできるように仕組む。また、出前掃除では、母校で活動する中で近所で小さな頃から一緒に過ごしてきたお兄ちゃん・お姉ちゃんと更に交流が深まり、より良い関係づくりが地域で生まれるように意図している。
- ・つながり3のオープンスクールでは、中学生の授業見学をさせることで、改めて自分自身の授業態度を見直し、残りの小学校生活の質を向上させることができる。



【課題】

- ・この小中連携行事（5つ）の日程を合わせていくことが難しい。生徒主体の行事にしていくため、実行委員会を何度も開く必要がある。部活動のことを考えると時間確保が難しい。

取組の成果（効果）『キーワード つながる』

- ・活動の運営全てを中学生が行い、グループ活動の進行や一緒に掃除をする中で、小学生の手本として動くことで中学生として自信と誇りを持つようになる。また、活動を通して小学生に認められることで、より自己有用感を持てるようになる。
- ・実際に中学校の先生による授業体験をさせることで、専門性も含め、自分を律して行動していく厳しさ等を学ぶ。
- ・中学校生活の大きな位置を占める部活動体験は、児童たちが楽しみにしている活動の1つとしてより中学校生活への興味・関心が深められる。また、教えている中学生も自分達の活動の取組を見直したり、先輩としての自覚をより深めたりすることができる。

今　後　の　展　開『キーワード　継続・改善』

- ・この小中連携の活動は、質を高めながら継続してこそ価値のある活動といえる。小中それぞれの成長段階に応じて、どんな力をつけていけばよいかを確認し合い、具体的な取組を進め、明らかとなった課題を解決していく必要がある。よって日程調整も考えれば、これ以上もこれ以下もない。

他校へのアドバイス『キーワード　定例の活動』

- ・この小中連携の活動は、11年間続いている活動で、生徒達も当然行われる活動として定着している。また、地域清掃活動は地域の保護者の方の参加もあり、活動の幅が広がっている。
- ・毎週月曜日に【小中連携プロジェクト会議】を開催している。特別活動の打ち合わせだけでなく、管理職、SSWやSC、養護教諭、心の教室支援員そして三校の生徒指導主事が集まる定例会議として時間割に組み込まれている。前述した取組について日程調整がしやすい。

校番	57	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立熊野高等学校	校長	山田 哲也	生徒指導主事	沖田 孝之
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『平成 29 年度 1 年生福祉・介護の現場体験』

取組のねらい『厚みのある多様な人材層の育成』

広島版「学びの変革」アクションプランに従い、「厚みのある多様な人材層の形成」を行うため、実社会とのつながりを重視した体験的な学びを通して、「異文化間協働活動」（各教科、活動で習得した知識やスキルを活用し、答えない問題から最善策を創造）、「課題発見・解決学習」（体験を通して、違いに気づき、多様性を受容するなかでグローバルマインドの涵養や実践的なコミュニケーション力の向上を図る）に係わる力を育成する。この実践力を育成することが、本校の育てたい三つの生徒像（ルールとマナーを遵守し、相手の立場に立って、自ら考え、他者と協働し、主体的に行動することができる生徒。学校行事に積極的に取り組むとともに、自律的な学習者として、メリハリのある学校生活を送ることができる生徒。果敢に挑戦して、自分自身を見つめる視点をあげ、進路目標に向けて、粘り強く努力することができる生徒。）を目指すことにつながる。

取組の具体的内容『職場体験のイメージを持たせて心構えを学び、実践する』

平成 29 年 4 月に、2 年生の昨年の体験発表をから学ぶことを通して、先輩から学び、福祉・介護現場体験のイメージを掴む。

6 月に広島文化学園大学の河野先生の講演を通して、福祉・介護の現場に係わる職場や仕事などの基本的な知識と職場体験をする心構えを学ぶ。

9 月にトリニティ専門学校の吉岡先生の講演を通して、異文化・異年齢の世界である福祉・介護の現場を知り、そこに流れる多様性を受容する心、実践的なコミュニケーションの方法の一端を学ぶ。その後グループ別に事前指導を 2 回行う。

10 月に 3 つのパターンでの「福祉・介護の現場」体験を行い、それぞれが学んだ成果を確認する。

事後指導を通して「あのときはどうすればよかったのか」、「自分たちに足りない知識、スキルは何か」について反省を行う。10 月後半に事後指導のまとめを行い、11 月に 2 回にわたり発表会の準備を行う。それを受け 12 月の学年発表会につなげる。

現場体験の様子



取組の課題・創意工夫『自己評価』

「福祉・介護の現場」体験への抱負（どんなことを学びたいか、など）を事前に書かせて、体験前の自分を厳しく自己評価させる。（挨拶・返事、言葉づかい、身だしなみ、生活態度、時間厳守、自主性、積極性、協調性、忍耐力の各項目で5段階評価をつける） 体験中の記録は、集中して職員の働く姿や表情、その時の利用者さんたちの様子など、気づきや印象に残ったことをできるだけ記録させておく。体験後は、成果（前向きに取り組めたこと、新たに気づいたこと・感じたこと）と課題（改善していきたいこと、今後の高校生活に生かしたいこと）を書かせ、体験後評価シートで体験後の自分の成長を評価させる。事前に評価した各項目の5段階評価を事後でも行い、事前から事後への自身の変容を理解させて精神的成長を実感させる。事前・実習中・事後の自身の考え方を記録して考えさせることで、自己理解がすすみ将来的な進路決定に向けた方向性を持たせる。

取組の成果（効果）『やりがいを学び、思いやりを知る』

12月の学年発表会は高い評価を得た。発表会のなかでの生徒たちの感想は、「人の世話をする介護と言う仕事の大変さ、やりがいなど普段学ぶことのできないことを学んだ。このことを今後の生活や進路に生かしていきたい」「人を助けるのは仕事としてではなく、思いやりの心が必要であると感じた。今回の体験で相手の思いを知った時の喜びと、人の温もりを感じることができたので本当に良かった」「よい笑顔、よい言葉、よい心、これらを互いに大切にしていくことで、信頼関係が築かれていくのだと思った。またこれらの事は私たちの普段の生活でも大切にしなければいけないことだと思った」など自分自身にとって学ぶべきことが多くあった、貴重な体験となったことが多く記されていた。「福祉・介護の現場」のなかで、働いている人たちの姿勢から学ぶ仕事のやりがい、相手を思いやる気持ちの大切さに気づいて、今後の自分自身に生かしていくという思いが強く感じられた、意義のある発表会であった。

学年発表会の様子



今後の展開『次なる目標へ』

この体験活動を通して、「きっかけ」を与え、2年生でその体験をもとに「自分たちで体験を企画し実行する」（インターンシップ、各大学で行われる高大連携授業、研究機関主催のサイエンスキャンプ等への参加）実行力を育成し、3年生ではその集大成としての進路選択を行えるように導いていく。

他校へのアドバイス『自己肯定感』

体験を受け入れていただく施設は、熊野高校から近い場所にある。そこに就職する生徒もあり、進路を考えるうえでも重要な体験となっている。また1年生のうちにこのような職場体験をさせることは、新たな発見を促して自身の可能性を知ることになり、そこから自己肯定感を高めていくきっかけが生まれ、「学びの変革」の取り組みが目指すものと重なっていくものとなる。

校番	095	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事	○	高等学校用
----	-----	----------	--	-------	--	------	---	-------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山商業高等学校	校長	田玄和司	生徒指導主事	井手之上訓芳
-----	----------	----	------	--------	--------

取組事例名 『異校種間連携』

取組のねらい『地域社会への参加意識の育成』

3年間の情報処理実習の一環として、自作物を活用した異校種間連携を実施し、自ら学ぶ意欲と地域社会への参加意識を育成する。

身に付させたい資質・能力

商業科目で習得した知識・技術を活かし、主体的に実践する能力。

自ら学ぶ意欲、地域社会への参加意識及びコミュニケーション能力。

取組の具体的内容『校種間連携による指導体験』

本校の情報ビジネス科 3年生による取組。11月初旬に学校近隣のこども園等に行き、生徒たちがパソコン実習を通して作成したデジタル紙芝居等を発表する。発表後は園児たちとレクレーションやゲーム等を行い、積極的に交流を図る。

デジタル紙芝居の作成に当たっては、2学期の始めに各ホームルームで4～5人のグループを作り、グループごとに生徒が作業を分担して一つの作品を完成させる。また、園児への接し方及び他者への思いやりを学ぶ機会とし、保育園で実習を行うための心構えを身に付けるよう学習を進める。実習前には、完成したデジタル紙芝居をホームルームで発表し、相互評価を行う。



取組の課題・創意工夫『生徒自身の知識と技術を活かす指導体験実習』

生徒が園児たちと交流するための事前指導として、保育園の教員や園児たちに失礼がないよう、言葉遣いや接し方について十分に指導する。また、交流においては、園児たちがどのようなゲームをすれば楽しんでくれるかなど、園児の目線でグループ協議を重ねた。

取組の成果（効果）『課題解決型学習』

ホームルーム全体で制作物の相互評価を行うことにより、自分の知識・技能を振り返ることができる。

体験実習を通して、園児の感情や気持ちを読み取り、どのようなコミュニケーションをとる必要があるかを考え、実践することができる。そのことから、園児や地域の方々に思いやりの気持ちをもった行動をとることができます。高校入学時から学習してきたパソコン技能等を効果的に活かすことができ、達成感や自己有用感を高めることにつながる。

今後の展開『地域貢献』

体験実習を充実させることにより、生徒が校外で活躍する場を提供し、その姿を地域社会にアピールすることができている。今後は、制作物の完成度を更に高め、生徒の作品を発表する場を増やして地域の方々の目にふれる機会を多く設定する。また、本校が地域から愛される存在となるよう、3年間の教育活動のストーリーをつくり、公開性を高める。

他校へのアドバイス『地元での体験実習』

生徒が自ら学習してきたことを基に、仲間と協働して作品を作り上げ、地域に向けて発表することで、「商業高校で学んで良かった」と思える機会を増やす。園児たちとの交流を通して、自分が頼りにされる存在であることを体験する。このことにより、社会人としての責任感や自己有用感を高める効果がある。